

第 2 部

大阪大学文学部

各専門分野における 教育・研究活動の概要

【凡 例】

I．組織については、教員、在学生は2022年5月1日を基準とし、この時点での教員および在学生の現員を示す。また卒業生については、2022年度(2023年3月卒業)について記す。

II．学部生の研究業績、受賞等は、2022年度に在籍した者が、その在籍期間中に発表あるいは授与されたものについて記す。

哲学・思想文化学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

各種論文作成のためのさまざまな個別指導を行い、卒業論文及び修士論文の題目を公開した。/学部生と大学院生が学問的な交流をもてるように、共通の演習及び講義を行うとともに、大学院生の論文作成演習への学部生の参加を促した。/分属が決定された1年生に対して2022年度は3回(1回120分)プレゼミナールを開催した。/英語による授業を開講し、学生たちの英語によるディスカッション能力の向上を図った。/哲学ワークショップを開催し、院生及び学生の哲学に対する関心を深化させた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 3 名 准教授 1 名 講師 1 名 助教 1 名

教 授：中村 征樹、舟場 保之、望月 太郎
准 教 授：嘉目 道人
講 師：三木那由他
助 教：安西なつめ

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		23	0	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	2

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部：5 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学 (2022 年度)

学部：0 名

1-4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

森島淳貴 “How should errors in normative claims be pointed out?” *Proceedings of International Seminar 2021 : Coping with the “New Normal” and the Promotion of International Exchange*, pp.44-49, 査読無, 2022/7

(2)口頭発表

森島淳貴 「文化的単位と政治的単位の一貫という要請について」, 第 12 回大阪哲学ゼミナール,大阪哲学ゼミナール,大阪大学 (オンライン), 2023/1/13

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	3	0	0	0	3	2	0	5

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 3 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 3 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

中村 征樹 教授

1974 年生。2005 年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了 (博士 (学術))。東京大学大学院工学系研究科助手、文部科学省科学技術政策研究所研究官、大阪大学大学教育実践センター准教授を経て、2012 年 4 月より大阪大学全学教育推進機構准教授。2007 年 11 月より大阪大学大学院文学研究科准教授を経て 2021 年 10 月より同教授。2022 年 4 月より

大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：科学技術社会論、研究公正、科学技術コミュニケーション、科学技術倫理、科学技術史。

1. 論文

中村征樹, 「科学技術政策の展開—人文・社会科学包摂の意味」, 『法の科学』第 53 号, pp. 98-105, 2022/9

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

中村征樹 「論点 学術論文の査読偽装」, 『毎日新聞』, 2023/1/25(朝刊)

高瀬堅吉, 中村征樹, 立花浩司, 「＜座談会＞従来の科学コミュニケーションの枠を超えるシチズンサイエンスの可能性と今後に向けた対話」『日本の科学者』2023 年 1 月号 Vol.58, pp. 5-16, 2023/1

中村征樹(監修) 「倫理の空白Ⅱ 盗用編 人文・社会科学編」JST 研究倫理教育映像教材, JST, 2023/3

4. 口頭発表

中村征樹 「19 世紀フランスにおける大衆貯蓄と国家技師」日本科学史学会第 69 回年会, オンライン, 2022/5/28

中村征樹, 三浦麻子, 市田秀樹, 東島仁, 中村文彦, 山縣芽生, 山根承子 「どのような行為が二重投稿として問題視されるのか—研究分野による研究不正の認識の多様性と共通性」, 第 7 回大阪大学豊中地区研究交流会, 大阪大学, 2022/11/4

中村征樹 「研究不正等を防止するための研究倫理教育や、研究機関が取り組むべき事項について」, 文部科学省研究公正推進事業研究公正シンポジウム「研究分野特有の研究府政への対応について」, ベルサール飯田橋駅前, 2022/12/6

Hideki Ichida, Masaki Nakamura, Asako Miura, Jin Higashijima, Toshiya Kobayashi, Shoko Yamane, Fumihiko Nakamura, Mei Yamagata, “A practical and systematic questionnaire survey to promote research integrity in Japan,” Asia Pacific Research Integrity Network Meeting 2023, 早稲田大学, 2023/3/20

Masaki Nakamura, Hideki Ichida, Asako Miura, Jin Higashijima, Toshiya Kobayashi, Shoko Yamane, Fumihiko Nakamura, Mei Yamagata, “Development of a Questionnaire to Assess the Current State of Research Integrity in Japan,” Asia Pacific Research Integrity Network Meeting 2023 Tokyo, 早稲田大学, 2023/3/21

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2021 年度～2025 年度, 国立研究開発法人科学技術振興機構: 科学技術イノベーション政策のための科学, 代表者: 中村征樹

研究題目: 研究分野の多様性を踏まえた研究公正規範の明確化と共有

直接経費 28,000,000 円

7-2. 2022 年度～2024 年度, 日本医療研究開発機構令和 4 年度研究公正高度化モデル開発支援事業, 代表者: 中村征樹

研究題目: 研究公正の実態把握の高度化に関する研究とその普及に資するシステム実装

研究経費: 直接経費 21,000,000 円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

阪大ワニカフェ代表として、大阪大学医学部附属病院との連携のもと、「阪大ワニカフェ」面白い巨塔編を大阪大学箕尾キャンパスにて3回開催(2022年12月4日、2023年1月9日、2023年3月12日)、企画・運営・進行

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

文部科学省 公正な研究活動の推進に関する有識者会議・委員, 2015年4月～現在に至る

日本学術会議 連携会員, 2017年10月～2023年9月

日本学術会議 史学委員会 科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会 幹事, 2020年12月～2023年9月

日本学術会議 哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会 委員長, 2020年12月～2023年9月

大阪地方裁判所委員会委員, 2021年10月～現在に至る

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター, 専門調査員, 2022年6月～現在に至る

日本学術会議 科学者委員会学術体制分科会 論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会委員, 2023年1月～2023年9月

11. 外部役員等の引き受け状況

大阪大学教職員組合・中央執行委員, 2021年8月～現在に至る

IDE 大学協会近畿支部・理事, 2021年7月～現在に至る

一般財団法人公正研究推進協会 公正研究専門員(仮称)認定制度検討委員会 委員, 2021年7月～現在に至る

新興出版社啓林館・令和7年度用中学理科教科書編集委員, 2021年5月～現在に至る

大阪大学出版会・出版委員会委員, 2021年4月～現在に至る

一般財団法人公正研究推進協会 研究倫理基盤委員会 委員長, 2020年4月～現在に至る

日本学術振興会・研究公正アドバイザー, 2018年7月～現在に至る

一般財団法人公正研究推進協会 人文社会学系分科会委員, 2016年9月～現在に至る

一般財団法人公正研究推進協会 国際交流委員会 副委員長, 2016年9月～現在に至る

一般財団法人公正研究推進協会 教育プログラム調査委員会 副委員長, 2016年9月～現在に至る

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学・運営諮問委員, 2016年8月～現在に至る

大阪大学生協同組合・理事, 2016年6月～現在に至る

一般財団法人公正研究推進協会・理事, 2016年4月～現在に至る

化学史学会評議員, 2011年1月～現在に至る

舟場 保之 教授

1962年生。1992年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。文学博士(大阪大学)。立命館大学嘱託講師、大阪大学文学研究科准教授、2017年4月から同教授を経て、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：ドイツの近代・現代哲学

1. 論文

Funaba, Yasuyuki, “Über zwei Gründe, warum stehende Heere mit der Zeit ganz aufhören sollen” *Philosophia OSAKA*, 第18号, pp.13-22, 査読無, 2023/3/1

舟場保之「法治平和主義とは無関係な解釈についての批判的考察」『メタフィシカ』第 53 号, pp.1-12, 査読無, 2022/12/23

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

石田京子, 舟場保之 (監訳) (翻訳, レザ・モサイエビ)『カントと人権』法政大学出版局, pp. 1-455, 2022/8/25

4. 口頭発表

舟場保之「法治平和主義とは無関係な解釈についての批判的考察」, 第 24 回 handai metaphysica 研究例会, handai metaphysica, 大阪大学 (オンライン), 2023/3/13

舟場保之「共同討議「遂行的矛盾について」異議申し立てと遂行的矛盾」, 第 13 回大阪哲学ゼミナール, 大阪哲学ゼミナール, 大阪大学 (オンライン), 2023/1/14

舟場保之「＜永遠平和＞が道徳性とは無関係なことについて」, 第 12 回大阪哲学ゼミナール, 大阪哲学ゼミナール, 大阪大学 (オンライン), 2022/9/27

Funaba, Yasuyuki, “Über zwei Gründe, warum stehende Heere mit der Zeit ganz abgeschafft werden müssen”, 2. Supranationales Philosophie Kolloquium Frankfurter Tag, Supranationales Philosophie Kolloquium, Johann Wolfgang Goethe Universität (ハイブリッド), 2022/9/15

Funaba, Yasuyuki, “Über zwei Gründe, warum stehende Heere mit der Zeit ganz abgeschafft werden müssen”, 2. Supranationales Philosophie Kolloquium Essener Tag, Supranationales Philosophie Kolloquium, Universität Duisburg-Essen (ハイブリッド), 2022/9/13

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況 (研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2025 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 舟場保之

課題番号: 22K00034

研究題目: <自由の秩序>を新たに構想し正当化するための理論的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況 (研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

Kants "Zum Ewigen Frieden - heute", デュースブルーク・エッセン大学, ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本フイテ協会の委員、2013年3月～現在に至る

望月 太郎 教授

1962年生。1991年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程哲学哲学史専攻中退。博士(文学)(大阪大学1997年)。徳島大学、東海大学を経て、1998年4月、大阪大学大学院文学研究科助教授。2004年4月、大阪大学大学教育実践センター助教授、2006年11月同教授、2012年4月より大阪大学大学院文学研究科教授。2014年4月～2017年4月、大阪大学海外拠点本部教授・ASEANセンター(バンコクオフィス)センター長(学内派遣)。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：フランス哲学、現代思想、社会思想、高等教育論。

1. 論文

望月太郎「国境を越えた学生の教育交流と大学の質保証」『大学教育の質保証と達成度評価：認証評価の近未来を覗く』, pp. 30-45, 2023/3

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

望月太郎「国境を越えた学生の教育交流と大学の質保証―日タイにおける現場での経験と比較から―」『高等教育に関する法と制度の比較研究』プロジェクト研究会(中央大学日本比較法研究所), 2023/3/19

望月太郎“Did Japan’s Former Prime Minister Shinzo Abe well present any value/strategy that could be shared with ASEAN?” BIR Student Association, Faculty of Political Science, Thammasat University, Annual Seminar on “Japan’s Foreign Policy during Shinzo Abe and its Influence on the Southeast Asia Region and Thailand”, 2022/10/22

Taro Mochizuki, Kasem Phenpinant “‘Joke and freedom of expression’ in a Panel Discussion: Philosophical Considerations on Freedom of Expression” Asia Centre’s 7th International Conference 24-26 August 2022—Freedom of Expression in Asia, 2022/8/26

Lara Hofner, Preciosa Regina De Joya, Taro Mochizuki “Histories of Philosophy in a Southeast Asian Perspective, Laboratory (Part1/Part2) – closed meeting”, organised by Lara Hofner and Preciosa Regina De Joya, EuroSEAS, 2022/6/29

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018年度～2022年度、基盤研究(C) 一般、代表者：望月太郎

課題番号：18K00041

研究題目：発展途上国における教育開発のための哲学プラクティス

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

大阪大学国際共同研究促進プロジェクト助成金（タイプ B）「日本-ASEAN グローバル哲学研究交流ラボラトリー」

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

Journal of Humanities Therapy, Humanities Institute, Kangwon National University, Korea・編集委員, 2014 年 4 月～現在に至る

嘉目 道人 准教授

1979 年生。2015 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、近畿大学非常勤講師、2017 年 11 月より大阪大学文学研究科特任講師（常勤）、2019 年 4 月より同准教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：超越論哲学、コミュニケーションの哲学・倫理学

1. 論文

Yoshime, Michihito, “The Second-Person Standpoint and the Fichtean Not-I” *Philosophia Osaka*, 18, Philosophy and History of Philosophy / Studies on Modern Thought and Culture, Division of Studies on Cultural Forms, Graduate School of Letters, Osaka University, pp. 1-11, 2023/3

嘉目道人「行為の記述をめぐるコンフリクトと、二人称性の問題」『メタフィシカ』53, 大阪大学大学院人文学研究科哲学講座, pp. 13-21, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

嘉目道人「行為の記述をめぐるコンフリクトと、二人称性の問題」第 24 回 handai metaphysica 研究例会, 大阪大学大学院人文学研究科哲学講座, 大阪大学(オンライン), 2023/3/13

嘉目道人「Cheryl Misak, Truth, Politics, Morality: Pragmatism and Deliberation, New York/London: Routledge, 2000. (2 章、3 章を中心に)」第 42 回批判的社会理論研究会, 批判的社会理論研究会, 大阪大学(オンライン), 2023/3/11

Yoshime, Michihito, “The Not-I in the Second-Person and the Third-Person Standpoints” 11th Congress of the International Fichte Society, International Fichte Society, Campus Leipzig – FernUniversität in Hagen(対面), 2022/9/30

嘉目道人「初期フィヒテの超越論的論証 —「人間精神が決して脱出できない循環」を読み解く試み—」日本シェリング協会第 31 回大会, 日本シェリング協会, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/7/2

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2026 年度、若手研究、代表者:嘉目道人

課題番号:22K12961

研究題目:フィヒテの「循環」論証から見る、社会的現実についての規範主義の可能性

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

関西哲学会・委員, 2022 年 10 月～現在に至る

日本フィヒテ協会・委員, 2019 年 3 月～現在に至る

三木 那由他 講師

1985 年生まれ。京都大学大学院博士課程修了。博士（文学）。2010 年度より日本学術振興会特別研究員（DC1）、2013 年度より同特別研究員（PD）を務める。2018～2019 年度に大阪大学文学研究科で助教を務めたのち、2020 年 10 月より講師を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科講師。専攻：哲学哲学史

1. 論文

三木那由他「推意・意味・意図：グライスにおける推意」『語用論研究』第 24 号, pp.1-18, 査読有, 2023/3/1

三木那由他「共同行為のミニマリズム」『哲学の探究』第 50 号, pp.16-28, 査読無, 2023/3/1

三木那由他“Concessive Joint Action: A New Concept in Theories of Joint Action” *Journal of Social Ontology*, 第 8 巻第 1 号, pp.24-40, 査読有, 2022/9/1

2. 著書（単著・編著）

三木那由他『会話を哲学する』光文社, p.299, 2022/8/30

三木那由他,『言葉の展望台』講談社, p.157, 2022/7/19

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

三木那由他「ドリアンアイスの夜」『小説トリッパー』2023 年春季号, pp. 336-337, 2023/3

三木那由他「おすすめの一冊『トランスジェンダー問題 議論は正義のために』」『じんぶん堂 3 周年記念ブックフェア 知の深呼吸 考える みえてくる』, pp. 4-4, 2023/3

三木那由他「ミナト町にいる言葉の魔術師」2023 年劇団☆新感線 43 周年興行・春公演『ミナト町純情オセロ 月がとっても慕情篇』

パンフレット, 2023/3

三木那由他 「安全な場所『作りたい女と食べたい女』『群像』2023 年 4 月号, pp. 191-195, 2023/3

三木那由他 「心にのこる一冊「がまぐんとかえるくん」シリーズ」月刊『こどもの本』 2023 年 3 月号, pp.1-1, 2023/3

三木那由他 「アライになるためのガイド」『土木學會誌』 107 卷 12 号, pp. 10-10, 2022/12

高井ゆと里, 三木那由他, 清水晶子 「トランスジェンダー問題とは何か: 当事者不在の「議論」に抗して」『世界』 964 号, pp. 229-237, 2022/11

三木那由他 「トランスジェンダー問題」を語り直す『群像』, 2022 年 11 月号, pp.292-299, 2022/10

永井玲衣, 三木那由他 「「弱さ」のこと……永井玲衣×三木那由他」『群像』 2022 年 10 月号, pp.112-126, 2022/9

三木那由他 「もしも哲学がコミュニケーションであるなら」『現代思想』50 卷 10 号, pp.80-86, 2022/7

三木那由他 「コミュニケーションを遮断する(綿矢りさ著『嫌いなら呼ぶなよ』書評)」『文藝』, 2022 年秋季号, pp.492-492, 2022/7

三木那由他 連載「言葉の展望台」『群像』, 2022 年 5 月号～2023 年 4 月号, 2022/4～2023/3 毎月一回

4. 口頭発表

三木那由他 「会話を哲学するーコミュニケーションが暴力的になるときー」, 第 42 回ヒューマンライツセミナー, 公益財団法人 鳥取市人権情報センター, 鳥取市役所鳥取市民交流センター(対面), 2023/3/9

三木那由他 「言葉が奪われることの意味」, 第 2 回きんきトランスミーティング, きんきトランス・ミーティング/ 同志社大学 FGSS センター, 同志社大学今出川キャンパス(ハイブリッド), 2023/3/4

三木那由他 「『狂気な倫理:「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定』合評会」, 第 9 回臨床哲学フォーラム,, 大阪大学豊中キャンパス(ハイブリッド), 2023/2/11

三木那由他 “Gricean Pragmatics According to Himself”, Logic and Engineering of Natural Language Semantics 19,, (ハイブリッド), 2022/11/21

三木那由他 「コミュニケーションの公共性と共同的コミットメント」, CVPPP のための哲学フォーラム コミュニケーションってなんだろう?, 信州大学医学部保健学科看護学専攻精神看護学研究, 信州大学医学部(オンライン), 2022/10/15

三木那由他 「コミュニケーションにおける不正義(シンポジウム「言葉と尊厳」)」, 中部哲学会 2022 年度大会, 中部哲学会, 愛知学院大学名城公園キャンパス(ハイブリッド), 2022/9/24

三木那由他 「共同行為のミニマリズム(テーマレクチャー「共同行為」)」, 2022 年度哲学若手研究者フォーラム, 哲学若手研究者フォーラム, (オンライン), 2022/7/23

三木那由他 「意味とコミットメント(シンポジウム「言語の意味研究の現在」)」, 関西言語学会第 47 回大会, 関西言語学会, (オンライン), 2022/6/12

三木那由他 「私たちを私たちにするもの(久木田水生と共同発表)」, 応用哲学会第十四回年次研究大会, 応用哲学会, (オンライン), 2022/5/28

5. 受賞歴 (2022 年度)

三木那由他 2023 新書大賞第 20 位, 会話を哲学する, 中央公論新社, 2023/2

三木那由他 紀伊國屋じんぶん大賞 2023 第二位, 『言葉の展望台』, 2022/12

三木那由他 大阪大学賞(若手教員部門), 大阪大学, 2022/11

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2027 年度、若手研究、代表者: 三木那由他

課題番号: 22K12960

研究題目: コミュニケーションにおける暴力の分析: 共同行為論の応用

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本哲学会・編集委員，2021年7月～現在に至る

日本哲学会・評議員，2021年4月～現在に至る

日本哲学会・大会企画委員，2020年10月～現在に至る

応用哲学会・学会誌編集委員，2020年10月～現在に至る

『フィルカル』編集委員，2020年4月～現在に至る

安西 なつめ 助教

1986年生。2014年、順天堂大学大学院医学研究科医学専攻（博士課程）修了。博士（医学）（順天堂大学、2014年）。2016年、日本大学短期大学部助教。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻：西洋哲学/医史学。

1. 論文

安西なつめ “The effect of *imaginatio* on the body as discussed in Northern Europe’s first scientific journal”『待兼山論叢』第56号，pp.1-14，査読無，2022/12/26

安西なつめ 「17世紀の医学自然学雑誌に収録された母親の想像（力）が与える作用の稀な例」『メタフュシカ』第53号，pp.37-44，査読無，2022/12/23

安西なつめ “Usefulness of Skin Autofluorescence as a Biomarker of Acute Oxidative Stress in Young Male Japanese Long-Distance Runners: A Cross-Sectional Study” Sports <https://doi.org/10.3390/sports10110180> (registering DOI)，第10巻第11号，査読有，2022/11/16

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

安西なつめ 「医学史事典」『日本医史学会編』，（担当範囲 pp.84-85，86-87，102-103，104-105，112-113，140-141，142-143），2022/7

安西なつめ「藤本大士『医学とキリスト教』」『化学史研究』49(2)，pp. 82-84，2022/6

4. 口頭発表

安西なつめ 「世界哲学の日イベント 切り開いて見えるもの、見えないもの ―初期近代の医学と「想像の力」―」大阪大学世界哲学の日，2022/11/26

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2022 年度、 若手研究、代表者:安西なつめ

課題番号:20K12908

研究題目:17 世紀における医学自然学雑誌の創刊に関する比較研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

倫 理 学

I. 教育活動の現況

1—1. 教育活動の概要

【2022 年度】

2022 年度において、教員共同では次の授業を実施した。「倫理学講義：ともに生きるための倫理学」「倫理学演習 III：倫理学のレシピ」「倫理学演習 I：倫理学論文作成 A・B」。また、臨床哲学フォーラムに向けた事前の勉強会を行い、他分野の人々と関わる臨床哲学活動をより広い視野で理解する機会を設けた。教員個別の授業としては、堀江が「社会哲学講義：コミュニケーションの哲学／演習：古典を使って考える」「哲学対話法 I：ソクラテック・ダイアログ」、ほんまが「ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎講義／演習」「哲学対話法 II：哲学対話入門」を、小西が「臨床哲学講義：ケアの倫理と臨床哲学／演習：ギリガンを読む」を行った。また、ほんま・高橋綾（人文学研究科講師／人文学林）・佐藤静（非常勤講師）が共同で「倫理学演習 II：臨床的問題を話し合う」を実施した。

1—2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 1 教授 1（兼任） 准教授 1 助教 0

教 授：堀江 剛

教 授：ほんまなほ（兼任）

准 教 授：小西真理子

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		24	0	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	1

*社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：7 名

1—3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：0 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	5	1	0	0	6	1	0	7

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

堀江 剛 教授

1961 年生。2001 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程（臨床哲学専攻）単位取得退学。博士（文学）（大阪大学、2003 年）。2004 年、広島大学総合科学部助教授、准教授、教授、2016 年 4 月より大阪大学文学研究科教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：哲学／倫理学／臨床哲学

1. 論文

堀江剛 「ロボット発言事件を振り返って」『臨床哲学ニューズレター』第 5 号, pp.5-8, 査読無, 2023/3/1

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

堀江剛, 服部俊子, 樫本直樹「病院組織で動き出す倫理:臨床倫理活動調査を通して」, 日本生命倫理学会 34 回大会, 日本生命倫理学会, 関西学院大学(対面), 2022/11/19

堀江剛, 服部俊子「臨床倫理活動を問い直す:組織を含むコミュニケーション・ネットワークの視点から」, 日本医学哲学・倫理学会第41回大会, 日本医学哲学・倫理学会, 群馬大学(対面), 2022/10/8

堀江剛「終末期ケアにおける哲学対話:「オープンダイアログ」を参考にしたワークショップの試み」, 国際ワークショップ:医療現場における哲学プラクティス, 哲学相談おんころ, (オンライン), 2022/9/1

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

哲学プラクティス国際セミナー(講演会):スカンジナビアにおける哲学プラクティスと哲学プラクティスの震源としての驚きのコミュニティ、大阪大学豊中キャンパス、2023/3/22

9. 地域連携による研究活動状況

テツドク:スピノザ『エチカ』を読む:人間に自由いしはあるのか(セミナー講師)、主催:カフェフィロ、2022/10/16

多職種連携研修会:立場とは何か(SD 進行役)、主催:患者のウェルリビングを考える会、2022/9/11, 10/9

がんカフェ:がんとともに生きる家族(哲学カフェ進行役)、主催:患者のウェルリビングを考える会、2022/8/27

おんころカフェ:不死の魂(哲学カフェ進行役)、主催:哲学相談おんころ、船場生涯学習センター、2022/5/29

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

ほんま なほ 教授

1970 年生。大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。文学修士（大阪大学）。大阪大学大学院文学研究科哲学講

座助手、同講師を経て、2005 年 4 月に大阪大学コミュニケーションデザイン・センター講師に着任し、現在まで文学研究科を兼任。2006 年 4 月同センター准教授、2020 年 8 月より CO デザインセンター教授。専攻：哲学／倫理学／臨床哲学

1. 論文

ほんま なほ「わたしたちは いきのびなくてもよいもの だった」『臨床哲学ニューズレター』第 5 号(臨床哲学研究室), 文学研究科
臨床哲学, pp. 131-151, 2023/3

ほんま なほ「あらがう、りんしょう、てつがく」『臨床哲学ニューズレター』第 5 号(臨床哲学研究室), pp.9-28, 2023/3

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

ほんま なほ「民衆の音楽 あそびと即興」,「他者・音楽・研究」会, 大阪大学 CO デザインセンターCO デザインスタジオ(ハイブリッド), 2023/3/4

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本哲学プラクティス学会・運営委員, 2018 年 8 月～現在に至る

アートミーツケア学会・理事, 2006 年 10 月～現在に至る

小西 真理子 准教授

1984 年生。2014 年、立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫制博士課程修了。博士（学術）（立命館大学、2014 年）。日本学術振興会特別研究員 PD、RPD、2018 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科講師、2021 年 4 月より同准教授を経て 2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科現職。専攻：倫理学／臨床哲学

1. 論文

小西真理子「私は被害者ではない——問題含みな親の『加害性』への反応をめぐって」『現代思想』vol.50（9）、青土社、pp.126-180, 2022/7

小西真理子「研究者と実践との間を問う（大会報告：高橋綾・桂ノロ結衣「哲学プラクティスの倫理」の記録）」『思考と対話』第4巻、pp.81-104, 査読無, 2022/7/31

2. 著書（単著・編著）

小西真理子、河原梓水（共編著）『狂気な倫理——「愚か」で「不可解」で「無価値」な生の肯定』晃洋書房、（担当箇所：「まえがき」pp.i-ix, 第1章『「不幸」の再生産——世代間連鎖という思想の闇』pp.3-24, 第4章『「私の親は毒親です」——アダルトチルドレンの回復論の外側を生きる当事者を肯定する」〔共著者：高倉久有〕〕pp.68-90, 2022/8

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

小西真理子「ケアの倫理と共感を持たぬ者」, ケアの倫理と人文学, 名古屋大学大学院人文学研究科附属超域文化社会センター、名古屋大学高等教育院, 名古屋大学（対面）, 2023/1/28

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、若手研究、代表者：小西真理子

課題番号：19K12922

研究題目：嗜癖的關係性と家族の「病理」をめぐる臨床哲学的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

関西倫理学会・委員, 2019 年 11 月～現在に至る

関西倫理学会・編集委員, 2019 年 11 月～現在に至る

中国哲学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

研究に必要な基本知識や資料調査に関する指導を行った。4 年次の学生に関しては、卒業論文作成において先行研究の調査や整理及び執筆の方法について指導した。2 年次の学生に関しては、主として資料解読に必要な基本知識および資料調査のスキルを習得するよう指導を行った。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 1 名 准教授 0 名 講師 1 名 助教 0 名

教 授：湯浅 邦弘
講 師：辛 賢

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		2	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：1 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：0 名

1-4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1) 論 文（査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

なし

(2) 口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	1	0	0	0	1	0	0	1

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

湯浅 邦弘 教授

1957 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。博士（文学、大阪大学、1997 年）。北海道教育大学講師、島根大学助教授、大阪大学助教授、2000 年 4 月より同教授を経て 2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。

（2023 年 3 月定年退職）2011 年 7 月、大阪大学功績賞（社会・国際貢献部門）受賞。2013 年 7 月、中文デジタルパブリッシング・デジタルアーカイブ国際学会「優秀学術論文賞」受賞。専攻：中国哲学／中国思想史／懷徳堂研究

1. 論文

湯浅邦弘「大阪市公会堂壁記の成立—近代文人の相互研鑽について—」『中国研究集刊』第 69 号, pp.17-40, 査読有, 2023/3/29

湯浅邦弘「遺墨に見る漢学の伝統一前田豊山・西村天因の書一」『大阪大学文学研究科紀要』第 63 巻, pp.1-60, 査読無,

2023/2/28

湯浅邦弘「懷徳堂の孔子祭」『懷徳堂研究』第14号, pp.19-32, 査読有, 2023/2/28

湯浅邦弘「懷徳堂の講義と蔵書」『懷徳』第91号, pp.18-35, 査読有, 2023/1/31

湯浅邦弘「清華簡『五紀』に見える黄帝・蚩尤伝承—王権の由来と正当性—」『中国研究集刊』第68号, pp.25-44, 査読有, 2022/8/1

2. 著書 (単著・編著)

湯浅邦弘, 鶴間和幸, 藤田勝久他『アジア人物史第1巻』集英社, pp. 313-376, 2023/1/31

湯浅邦弘『西村天因旧蔵印』大阪大学人文学研究科, 51p., 2022/9/30

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

湯浅邦弘「幻の御講書始—西村天因「詩經大雅仮楽篇講義」—, 科研報告会, 科研基盤B「日本近代人文学の再構築と漢学の伝統一西村天因関係新資料の調査研究を中心として—」, 大阪大学(対面), 2023/3/27

湯浅邦弘「大阪市公会堂壁記の成立—関西文人の相互研鑽について—, 科研報告会, 科研基盤B「日本近代人文学の再構築と漢学の伝統一西村天因関係新資料の調査研究を中心として—」, 大阪大学(対面), 2022/10/30

湯浅邦弘「懷徳堂の孔子祭」, 孔子を祭る—日本における孔子祭典—, 公益社団法人日本易学連合会・二松学舎大学, 二松学舎大学(ハイブリッド), 2022/7/16

5. 受賞歴 (2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019年度～2022年度、基盤研究(B) 一般、代表者:湯浅邦弘

課題番号:19H01193

研究題目:戦国秦漢簡牘の総合的研究—安大簡・清華簡・上博簡・北大簡を中心として—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本儒教会・評議員, 2016年4月～現在に至る

中国出土文献研究会・会長, 2012 年 4 月～現在に至る
東方学会・学術委員(東方学査読委員), 2011 年 7 月～現在に至る
懷徳堂研究会・代表, 2000 年 4 月～現在に至る
中国出土資料学会・理事, 1989 年 4 月～現在に至る

辛 賢 講 師

1967 年、韓国ソウル生。2002 年、筑波大学大学院哲学・思想研究科博士課程修了。博士（文学）。日本学術振興会外国人特別研究員（筑波大学）、2004 年 4 月大阪大学大学院文学研究科講師を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科現職。専攻：中国哲学、漢代易学

1. 論文

辛賢 『『易学啓蒙』試論—明著策を中心に—』『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 巻, pp.61-84,査読無, 2023/2

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2022 年度、基盤研究(C)、代表者:辛賢

課題番号:20K00052

研究題目:宋学形成における象数学の位置—南宋易学を中心に—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本道教学会・理事, 2012 年 1 月～現在に至る

三国志学会・評議員, 2006 年 7 月～現在に至る

インド哲学

I. 教育活動の現況

1—1. 教育活動の概要

【2022 年度】

設定した目標に向けて講義・演習を行ない、学部生の二次文献も含めた読解力の向上のため、授業・授業外での指導に多くの時間をかけた。また学問的な相互交流を促進するために、論文作成演習の授業を有効に使い、教員、大学院生、学部生の垣根を超えた全員参加型の議論・情報交換の場を、より一層充実させた。2020 年度以降は、学部一年生向けに行なっている共通教育科目の内容を更に専門化した講義科目を新設し、それをマルチリンガル・エキスパート養成プログラムに紐付けることによって、広く専門内外の学生が分野横断的な視座から議論できる場を提供している。また 2022 年度の終わりには、ヴェーダ学の分野で、広く研究者・学生を集めたワークショップ（以下 II. 2-2-2 を参照）を開催し、当研究室の教員および複数の外部講師による連続講義の場を設定し、学生が更に知見を深め、読解力を磨くための機会を提供した。

1—2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 1 名 准教授 0 名 講師 1 名 助教 0 名

教 授：堂山英次郎

講 師：名和 隆乾

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		4	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：1 名

1—3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：0 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	1	0	1

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

堂山 英次郎 教授

1972 年生。大阪外国語大学外国語学部卒、東北大学大学院文学研究科博士後期 3 年の課程単位取得退学。文学修士（東北大学）、博士（文学、東北大学）。京都大学人文科学研究所助手を経て、2004 年 4 月大阪大学大学院文学研究科講師、2014 年 9 月同研究科准教授、2019 年 4 月より同研究科教授、2022 年 4 月より人文学研究科教授。2007 年日本南アジア学会第 1 回学会賞受賞、2008 年第 50 回日本印度学仏教学会賞受賞。

1. 論文

Dōyama, Eijirō “Society 5.0, Digital Humanities, and Indology,” in: *Proceedings of 4th International Seminar for the Promotion of International Exchange: International Exchange in the Age of Society 5.0*, International Affairs Office, School of Letters/Graduate School of Humanities, Osaka University, pp. 1-3, 査読無, 2023/3/31

川村悠人・堂山英次郎(共著)「古代インドにおける語源学について」『ブラフマニズムとヒンドウイズム 第1巻: 古代・中世インドの社会と思想』(藤井正人, 手嶋英貴 編), 法蔵館, pp.325-354, 査読無, 2022/12/25

堂山英次郎「古代インドの捨て子伝説 ——その特徴と象徴」『ブラフマニズムとヒンドウイズム 第2巻: 第古代・中世インドの宗教と実践』(藤井正人, 手嶋英貴 編), 法蔵館, pp. 17-45, 査読無, 2022/12/25

堂山英次郎「セッション No. 1 の発表に対するコメント」『日本佛教學會年報』第 86 巻, pp.259-266, 査読無, 2022/8/31

2. 著書 (単著・編著)

Dōyama, Eijirō, Mohammad Moinuddin (共著), *Proceedings of 4th International Seminar for the Promotion of International Exchange: International Exchange in the Age of Society 5.0*, International Affairs Office, School of Letters/Graduate School of Humanities, Osaka University, 2023/3/31

Toshifumi Gotō, Dōyama, Eijirō (共著・共訳), *Rig-Veda. Das heilige Wissen: Sechster und siebter Liederkreis*, Verlag der Weltreligionen, 2022/11, 担当箇所: pp. 11-111; pp. 299-407.

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

堂山英次郎, 「誰がヴィシュヴァルーパーを殺したのか? —インドラとトゥリタ・アープティヤー—」, インド学およびインド神話に関するワークショップ ——インド学を未来へつなぐために——, 大阪大学豊中キャンパス・基礎工学国際棟 (ハイブリッド), 2023/3/11

Dōyama, Eijirō, “Society 5.0, Digital Humanities, and Indology”, 4th International Seminar for the Promotion of International Exchange. International Exchange in the Age of Society 5.0: An interdisciplinary Seminar for Young Scholars, International Affairs Office, School of Letters/Graduate School of Humanities, Osaka University, Nakaniwa Meeting Room, Toyonaka Campus, Osaka University (ハイブリッド), 2022/10/26

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 堂山英次郎

課題番号: 20K00051

研究題目: インドラとは何者か? ——古代インドの英雄神に関する総合的研究——

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

「インド学およびインド神話に関するワークショップ ——インド学を未来へつなぐために——」, 2023/3/10-11 (於 大阪大学豊中キャンパス・基礎工学国際棟), 大阪大学人文学研究科・文学部 インド哲学研究室および科学研究費補助

金基盤研究（C）「インドラとは何者か？ 古代インドの英雄神に関する総合的研究」（課題番号：20K00051；研究代表者：堂山英次郎）の共催

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本印度学仏教学会・理事, 2022 年 5 月～現在に至る
印度学宗教学会・理事, 2020 年 4 月～現在に至る
日本歴史言語学会・事務局長, 2020 年 1 月～現在に至る
インド思想史学会・理事, 2019 年 4 月～現在に至る
日本佛教学会・理事, 2019 年 4 月～現在に至る
インド思想史学会・評議員, 2019 年 4 月～現在に至る
日本歴史言語学会・理事, 2016 年 1 月～現在に至る
日本印度学仏教学会・評議員, 2004 年 7 月～現在に至る
印度学宗教学会・評議員, 2004 年 6 月～現在に至る

名和 隆乾 講師

1984 年生。大阪大学文学部卒、文学修士（大阪大学）。博士（文学，大阪大学）。2013 年度日本学術振興会特別研究員を経て、2016 年 4 月大阪大学文学研究科助教、2018 年 10 月同特任講師（常勤）、2020 年 4 月より同講師、2022 年 4 月より人文学研究科講師。専攻：インド初期仏教文献学。

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

藤井正人, 手嶋英貴(編), 名和隆乾 他(共著), 『プラフマニズムとヒンドウイズム 2』, 法蔵館, pp. 73-96, 2022/12

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2024 年度、若手研究、代表者: 名和隆乾

課題番号:22K12972

研究題目:インド初期仏教における「四苦」説の成立史研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

日 本 史 学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

- (1)→各時代（古代・中世・近世・近代）で開講されている講義によって、日本史研究の基礎的知識の伝授に努めた。また卒論演習・大学院演習・修士論文作成演習・博士論文作成演習などの場におけるきめ細かな指導により、論文作成能力の向上を図った。また 7 月に院生報告会、10 月に卒論・修論中間発表会を開催し、4 年生・院生等が日本史学研究室構成員全員の前で研究発表をする機会を設けた。1 月には、専修大学名誉教授の大谷正氏を招いて研究室例会を実施した。また、歴史学方法論講義において、日本史・西洋史・東洋史などの枠を超えて最新の歴史学の方法論に触れる機会を設け、歴史教育論演習では高校の現職教員とともに歴史教育のあり方を探求した。
- (2)→各時代で開講されている史料講読演習によって、史料解釈能力や古文書解読能力の育成に努めた。また多数開講した演習を通じて、先行研究への批判的態度や史資料を徹底して収集する姿勢を培うとともに、プレゼンテーション能力を養った。
- (3)→新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止していた春の新入生歓迎小旅行、秋の研究室旅行を 3 年ぶりに実施し、フィールドワークの方法について習得させた。また自治体史編纂事業への協力についても、新型コロナウイルス感染症への対策の必要から、現地調査・史料整理の実践的能力の養成に影響が生じた。近世の学外における古文書調査については、公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会との間での教育活動に関する協力関係に基づき、感染対策の観点から少人数とすることで実施した。
- (4)→増加しつつある留学生の研究能力のレベルアップに努めた。
- (5)→日本史学研究室では、旧河内国古市郡駒ヶ谷村西應寺文書の整理・研究を行った。その他、大阪大学大学院文学研究科日本史研究室と大阪府交野市教育委員会との間で 2020 年 3 月まで締結されていた協定の終了後も、両者が共同して、交野市域に残された古文書（旧河内国交野郡私部村原田家文書、同村無量光寺文書）の調査・整理を行った。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 3 名 准教授 2 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：飯塚 一幸、川合 康、市 大樹
准 教 授：伴瀬 明美、野村 玄
助 教：北泊謙太郎

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		48	0	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	2

*社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部 : 14 名

1—3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学 (2022 年度)

学部 : 1 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

高橋玄「大正・昭和初期における郡農会の実態—京都府熊野郡を中心として—」『歴史と神戸』第 61 巻第 5 号, pp. 33-47,
査読有, 2022/10/1

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	6	3	1	0	10	4	0	14

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 1 名 <内訳> 中・高等学校の教員 1 名 (広島県立安古市高等学校)

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

飯塚 一幸 教授

1958 年生。1988 年、京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。文学博士（大阪大学、2018 年）。舞鶴工業高等専門学校専任講師、佐賀大学助教授、大阪大学文学研究科准教授を経て、2010 年 1 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本近代史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

大国正美, 飯塚一幸, 新宮由真, 他(共著)『伊丹市史料集 14 小西酒造萬歳蔵史料 近世伊丹の学び舎—明倫堂・橋本香坡書簡集—』伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課, pp. 127-129, 2023/3/31

村田路人, 中川すがね, 飯塚一幸, 他(共著)『新修摂津市史第二巻近世・近代』摂津市, pp. 474-526, 558-598, 637-647, 664-692, 701-726, 800-814, 841-853, 2023/3/31

山口輝臣, 福家崇洋, 飯塚一幸, 他(共著)『思想史講義【明治篇Ⅱ】』筑摩書房, pp. 75-90, 2023/2/10

平雅行, 横田冬彦, 飯塚一幸, 他(共著)『日本史探究』実教出版社, pp. 221-279, 2023/1/25

山田洋, 水本邦彦, 飯塚一幸 他(共著)『京丹後市久美浜町太刀宮文書(久美浜代官所郡中代等文書)・佐治家資料調査と御用留横断研究』京都府立大学文学部歴史学科, pp. 24-28, 2022/11/30

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

飯塚一幸(書評), 「三村昌司著『日本近代社会形成史 議場・政党・名望家』」『日本歴史』第 888 号, 東京大学出版会, pp.101-103, 査読有, 2022/5

4. 口頭発表

飯塚一幸 「原敬と大阪」, NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ「総合文化を学ぶ科」, NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ, 豊中市立文化芸術センター(対面), 2022/9/6

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(B) 一般、代表者:飯塚一幸

課題番号:19H01309

研究題目:巨大塩田地主野崎家史料の総合的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本史研究会・代表委員, 2022 年 10 月～現在に至る

高知県史編さん近代部会・委員, 2022 年 4 月～現在に至る

吹田市立博物館協議会・委員, 2021 年 11 月～現在に至る

公益財団法人竜王会館・理事, 2020 年 6 月～現在に至る

大阪府公文書館懇談会・委員, 2019 年 4 月～現在に至る

史学研究会・評議員, 2013 年 6 月～現在に至る

八尾市史編集委員会・編集委員, 2011 年 4 月～現在に至る

摂津市史編さん委員会・編さん委員, 2011 年 4 月～現在に至る

枚方市史編纂委員会・編纂委員, 2011 年 4 月～現在に至る

川合 康 教授

1958 年生。1987 年、神戸大学大学院文化学研究科博士課程単位修得退学。文学博士（神戸大学、1994 年）。樟蔭女子短期大学助教授、東京都立大学准教授、日本大学教授を経て、2012 年 4 月大阪大学大学院文学研究科教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本中世史

1. 論文

川合康「二通の源貞弘施入置文と源某神田講田奉免状について―河内国金剛寺の寺辺領形成と内乱情勢―」『河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会史の研究 (JSPS 科研費 19K00952) 研究成果報告書』, pp.5-14, 査読無, 2023/3/31

川合康「「女人高野」金剛寺の成立と河内長野」『日本遺産「女人高野」調査研究報告書』, pp.33-44, 査読無, 2023/3/31

川合康「八条院祈願所金剛寺の成立と春秋二季伝法会の始行」『鎌倉遺文研究』第 50 号, pp.2-26, 査読無, 2022/10/20

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

川合康「生田の森・一の谷の戦い 解説 3 方面で行われた源氏と平氏の明暗を分けた戦い」『再現イラストでよみがえる 日本史の現場』朝日新聞出版, pp.74-77, 2022/5

4. 口頭発表

川合康「「女人高野」金剛寺の成立と河内長野」, 女人高野に関する研究報告会, 女人高野日本遺産協議会, 九度山町ふるさとセンター(対面), 2022/9/25

川合康「書評 中根千絵・薄田大輔編『合戦図―描かれたく武>』(勉誠出版、2021 年)」, 第22回「戦国軍記・合戦図の史料学的研究」研究会, 「戦国軍記・合戦図の史料学的研究」研究会, (オンライン), 2022/7/24

川合康「八条院祈願所金剛寺の成立と春秋二季伝法会の始行」, 第11回金剛寺文書研究会, 金剛寺文書研究会, (オンライン), 2022/6/19

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:川合康

課題番号:19K00952

研究題目:河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会史の研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

市 大樹 教授

1971 年生まれ。2000 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。文学博士（大阪大学、2001 年）。奈良文化財研究所研究員、同主任研究員、2009 年 4 月大阪大学文学研究科准教授、2020 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。日本学術振興会賞（2012 年）、日本学士院学術奨励賞（2012 年）、濱田青陵賞（2013 年）、古代歴史文化賞大賞（2014 年）。専攻：日本古代史

1. 論文

市大樹「宮都の墨書土器」, 吉村武彦他編『墨書土器と文字瓦』, 八木書店, pp. 87-107, 2023/1

市大樹「畿内の駅家と駅路」, 吉村武彦他編『シリーズ地域の古代史 畿内と近国』, KADOKAWA, pp. 133-172, 2023/1

市大樹「古代王宮の護り」, 吉川真司他編『講座畿内の古代学Ⅳ 軍事と対外交渉』, 雄山閣, pp. 38-59, 2022/9

市大樹「孝徳天皇一大化改新を推進した天皇」, 新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史 1 古墳・飛鳥時代編』吉川弘文館, pp. 157-167, 2022/8

市大樹「国府の成立」, 『季刊考古学』別冊 37, 雄山閣, pp. 20-25, 2022/6

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

市大樹(書評)「辻正博編著『中国前近代の関津と交通路』,『史林』, 105-6, pp. 83-89, 2022/11

市大樹(書評)「中村太一著『日本古代の都城と交通』,『日本史研究』, 716, pp. 76-83, 2022/4

4. 口頭発表

市大樹「古代三島と淀川水系」, 新修摂津市史第一巻刊行記念講演会, 摂津市, 摂津市立コミュニティプラザ, 2022/12

市大樹「難波宮から探る大化改新」, 三輪山セミナー, 三輪山神社, 三輪山会館, 2022/11

市大樹「日唐交通比較研究の諸問題」, シンポジウム「隋唐時代における交通・交易」, 唐代史研究会, オンライン, 2022/8

市大樹「出雲国計会帳から探る奈良時代の交通」, 島根県立古代出雲博物館講演会, 島根県立古代出雲博物館, 島根県立博物館講堂, 2022/4

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2017 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:市大樹

課題番号:17K03065

研究題目:日本古代木簡の源流と特質

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

福岡市史古代史部会・専門委員, 2006 年 4 月～現在に至る

新修摂津市史編さん委員会・編集委員, 2011 年 7 月～現在に至る

太子町国史跡二子塚古墳整備検討委員会・委員, 2016 年 4 月～現在に至る

史跡古市古墳群整備検討委員会・委員, 2016 年 4 月～現在に至る

大阪市文化財保護審議会・委員, 2019 年 4 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

大阪歴史学会事務局長, 2022 年 6 月～現在に至る

続日本紀研究会・編集委員, 2006 年 6 月～2019 年 2 月, 2022 年 6 月～現在に至る

条里制・古代都市研究会・集会委員, 2006 年 4 月～現在に至る

古代文化刊行委員会・編集参与, 2010 年 4 月～現在に至る

続日本紀研究会・代表・事務局長, 2019 年 3 月～2022 年 6 月

木簡学会・委員, 2019 年 4 月～現在に至る

伴瀬 明美 准教授

1967 年生。1997 年 3 月、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。大阪大学博士（文学）。東京大学史料編纂所助教、同准教授を経て、2021 年 4 月大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：日本中世史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

伴瀬明美(分担執筆)『論点・日本史学』ミネルヴァ書房, pp. 144-145, 2022/8

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

伴瀬明美『『大金集礼』巻五、皇統元年冊皇后 訳註』, 第 58 回東アジア后位比較史研究会, 東アジア后位比較史研究会, (オンライン), 2023/2/18

伴瀬明美「嘉禎元年四条天皇大嘗会における准母の役割をめぐって」, 第 79 回女院研究会, 女院研究会, (オンライン), 2022/11/28

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2026 年度、基盤研究(B) 一般、代表者: 伴瀬明美

課題番号: 22H00686

研究題目: 東アジア諸地域における王室儀礼比較史のための国際的研究基盤の構築

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2022 年度～2024 年度、研究助成名称: 公益財団法人三菱財団 人文科学研究助成、助成金獲得者: 代表者伴瀬明美

研究題目: 東北アジア非漢族諸王室儀礼における礼的〈逸脱〉の基礎的研究

助成団体名: 公益財団法人三菱財団

助成金額: 244 万円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

文化庁文化審議会文化財分科会第一専門調査会・専門委員, 2022 年 4 月～現在に至る

野村 玄 准教授

1976 年生まれ。2004 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）（大阪大学）。大阪青山短期大学専任講師、防衛大学校講師、同准教授、大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科現職。専攻：日本近世史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

野村玄 他（摂津市史編さん委員会）「第一章 近世的秩序の形成（第一節 本能寺の変後の摂津市域周辺 第二節 近世初期の摂津市域と織田長益 第三節 十七世紀の所領構成と諸領主）」『新修摂津市史 第 2 巻 近世 近代』摂津市, pp. 4-41, 2023/3

野村玄(インタビュー), 「「等身大の天下人」追求「どうする家康」大河の分け目に」『中日新聞』, 2023/1/14

野村玄(出演), 「徳川 JAPAN サミット 2023」テレビ(NHK・BS プレミアム・BS4K), 徳川 JAPAN サミット, 2023/1/1

4. 口頭発表

野村玄「徳川家康の神格化の歴史的前提」, 2022 年度キリシタン文化研究会大会, キリシタン文化研究会, 上智大学四谷キャンパス中央図書館・総合研究棟 8 階 821 会議室(対面), 2022/12/4

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2020 年度～2022 年度、6：研究助成、助成金獲得者:野村玄

助成金名:2020 年(令和 2 年)度学術研究助成金

研究題目:天明期から寛政期における新嘗祭・大嘗祭に関する研究

助成団体名:一般財団法人伊藤忠兵衛基金

助成金額:直接経費 500,000 円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

摂津市・市史執筆委員, 2019 年 6 月～現在に至る

北泊 謙太郎 助教

1971 年生。1995 年、大阪大学文学部史学科国史学専攻卒業、1997 年、大阪大学大学院文学研究科博士前期課程(史学専攻、日本史学専門分野)修了、2001 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程(文化形態論専攻、日本史学専門分野)単位修得退学。修士(文学、大阪大学)。大阪大学大学院文学研究科ティーチング・アシスタント(1997 年 6 月～1998 年 2 月)。2001 年大阪大学文学研究科助教。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻：日本史学／日本近現代史

1. 論文

北泊謙太郎「官僚組織としての日本海軍—組織的利害(セクショナル・インタレスト)・同調圧力・無責任」日本平和学会(編)『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』法律文化社, pp. 66-71, 2020/10

2. 著書（単著・編著）

北泊謙太郎『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』日本平和学会編, 法律文化社, pp. 66-71, 2020/10

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

北泊謙太郎「戦争正当化の「論理」と実態—ロシア＝ウクライナ戦争から 9 か月を経て—」第 24 回総合学術研究集会 in 大阪：分科会 A4「ロシアのウクライナ軍事侵攻—2022 年」, 日本科学者会議, 国際公共政策研究科 2F 講義シアター(ハイブリッド) 2022/11/25

北泊謙太郎「戦争正当化の「論理」と実態—現代ロシアと近代日本を往還して—」平和のための集中講義, 全学共通教育科目「平和の問題を考える」, 国際公共政策研究科 2F 講義シアター(ハイブリッド), 2022/5/2

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

水木コレクション調査, 柳沢文庫: 日本史学研究室の近世古文書調査として実施しているもので、柳沢文庫所蔵の「水木コレクション(古文書・和装本ほか)」の整理・保全活動に関わった(2022/10/22～23)

野崎家史料調査, 野崎家塩業資料館: 飯塚一幸先生の科研費関連事業として実施しているもので、旧備前国児島郡味野村野崎家文書の整理・保全活動に関わった(2022/4/29～5/1、8/5～8/7、2023/2/22～24)。

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

歴史科学協議会・理事, 2022 年 12 月～現在に至る

日本科学者会議・編集委員, 2022 年 7 月～現在に至る

大阪歴史科学協議会・編集委員長, 2022 年 6 月～現在に至る

大阪歴史科学協議会・庶務委員長, 2014 年 6 月～2022 年 6 月

歴史科学協議会・全国委員, 2012 年 6 月～2022 年 12 月

東 洋 史 学

I. 教育活動の現況

1—1. 教育活動の概要

【2022 年度】

2022 年度を通じて、合同演習および中国史・東アジア史・中央アジア史の各種ゼミにおいて、学部生の教育が当初の予定に沿って着実に進められた。

2022 年度には卒業論文 10 本を提出させることができた。提出された学位論文はいずれも水準が高く、2021 年度に引き続いて 1 本に S 評価（査読付き学術雑誌への投稿勧奨に相当）を与えることができた。

2022 年初頭以来の新型コロナウイルスの世界的な流行の影響により、学生の研究活動（特に海外調査や国際学会での研究発表）は例年に比して規模を縮小せざるを得なかったが、本学の研究資源およびオンライン研究指導環境の整備を進めることで、所期の目標はおおむね達成できたと判断できる。

1—2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 3 名 准教授 1 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：堤 一昭、松井 太、田口宏二郎

准 教 授：河上麻由子

助 教：新見まどか

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		20	0	0	0	4	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	4	1

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：10 名

1—3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：0 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	5	2	1	0	8	1	1	10

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 1 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 1 名(プログラマー)

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

堤 一昭 教授

1960 年生。京都大学文学部卒業、京都大学大学院文学研究科博士後期課程(東洋史学専攻)学修退学。文学修士 (京都大学、1988)。大阪外国語大学外国語学部国際文化学科比較文化講座専任講師、同助教授、同准教授、大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2013 年 6 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：東洋史学

1. 論文

堤一昭「石濱文庫所蔵 石濱純太郎の受講・講義ノート類」関西大学東西学術研究所研究叢刊第 65 号・国際シンポジウ

ム論文集『内藤湖南と石濱純太郎 近代東洋学の射程—内藤・石濱両文庫収蔵資料を中心に』、関西大学出版部、pp. 113-137, 査読無, 2023/3/15

堤一昭 『『景社紀事』簡介および影印』『懷徳堂研究』第 14 号, pp. 33-67, 査読有, 2023/2/28

堤一昭, 真木康彦, 川西寿弥 「[報告] 歴史教科書における重要用語記述とその背景—「産業革命」と「東洋の平和」—」
『待兼山論叢・文化動態論篇』第 56 号, pp. 27-57, 査読無, 2022/12/26

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

堤一昭 「『元典章』に記された漢語モンゴル語接触の現場（付：阪大博物館・石濱純太郎展の概要）」、関西大学アジア・オープン・リサーチセンター研究例会 言語交渉研究班1月20 日例会, 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター, 関西大学、児島
惟謙館（対面）, 2023/1/20

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本モンゴル学会・理事, 2008 年 5 月～現在に至る

松井 太 教授

1969 年生。1999 年、大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）（大阪大学）。2001 年弘前大学人文学部講師、2004 年同助教授、2007 年同准教授、2010 年同教授。2015 年 4 月大阪大学文学研究科准教授、2017 年 10 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。（財）東洋文庫客員研究員。

1. 論文

Matsui, Dai, “An Old Uigur Contract in the Pelliot Collection”, *Bilge Biliglig Bahşı Bitigi: Doğumunun 60. yılında Mehmet Ölmez armağanı*, pp. 433-438, 査読無, 2023/3/31

Matsui, Dai, “Musing on ‘Qubilai’s Testament’”, *Türkçe ve Moğolca çalışmaları sempozyumu: Sir G. Clauson ve Talat Tekin’in katkıları*, pp. 55-67, 査読無, 2022/12/31

松井太, 「クビライ遺訓」小考』『内陸アジア言語の研究』第 37 巻, pp.121-134, 査読無, 2022/11/30

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

松井太 「ポスト=モンゴル諸王朝の書記官房におけるウイグル文字使用の伝統」, シンポジウム「中央アジア・西アジア文書研究の最前線」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所新基幹研究「記憶」のフィールド・アーカイビング: イスラームがつなぐ共生社会の動態の解明」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (対面), 2023/3/18

Matsui, Dai, “Musing on ‘Qubilai’s Testament’”, *Türkçe ve Moğolca çalışmaları sempozyumu: Sir G. Clauson ve Talat Tekin’in katkıları*, İstanbul Üniversitesi, Moğol Çalışmaları Uygulama Araştırma Merkezi, İstanbul Üniversitesi (対面), 2022/11/28

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2023 年度、基盤研究(B) 一般、代表者: 松井太

課題番号: 20H01324

研究題目: 古文書資料の言語横断的総合分析に基づくモンゴル帝国の支配システムの解明

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

中国国家社会科学基金重大項目「海外藏回鶻文獻整理与研究」(20&ZD211)

同「敦煌河西石窟多語言壁題考古史料搶救性調査整理与研究」(22&ZD219)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

東方学会・国際東方学者会議運営委員, 2021 年 7 月～現在に至る
内陸アジア史学会・常任理事, 2021 年 4 月～現在に至る
東方学会・編集委員, 2019 年 4 月～現在に至る
中央ユーラシア学研究会・責任編集, 2017 年 7 月～現在に至る
東方学会・学術委員, 2015 年 7 月～現在に至る

田口 宏二郎 教授

1971 年生。1999 年、大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）（大阪大学）。2003 年大阪大学文学研究科助手、2004 年追手門学院大学文学部講師、2008 年追手門学院大学国際教養学部准教授を経て、2012 年 4 月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2018 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：中国近世・近代史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

Taguchi, Kojiro, Ogawa Michihiro, “Terra-nexus or social domains relating to land in China and India: a note for comparative history”, Workshop: A Comparison between China and India,,Savitribai Phule Pune University (対面), 2023/3/16

Taguchi, Kojiro, Ogawa Michihiro, “A Sino-Indian comparison of terra-nexus”, The 19th World Economic History Congress, IEHA,EHESS(ハイブリッド), 2022/7/28

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:田口宏二郎

課題番号: 19K01018

研究題目: 中華民国南京国民政府期における土地登記事業の制度分析

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

史学研究会(京都大学)・評議員, 2021 年 4 月～現在に至る

河上 麻由子 准教授

1980 年生。2008 年九州大学大学院博士後期課程単位取得退学。2010 年 2 月に博士(文学)(九州大学)。2012 年 9 月に奈良女子大学助教、2014 年 6 月に同大学准教授を経て、2021 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻: 東アジア古代・中世史

1. 論文

河上麻由子 『『阿育王経』が梁武帝の崇仏に与えた影響について』『待兼山論叢』第 56 巻, pp.1-26, 査読無, 2023/3/1

2. 著書（単著・編著）

河上麻由子他(共著) 佐川英治編『多元的中華世界の形成 東アジアの「古代末期」』臨川書店, pp. 292-316, 2023/2

河上麻由子他(共著) 『アジア人物史 2～7世紀 世界宗教圏の誕生と割拠する東アジア』集英社, pp. 237-308, 2023/2

河上麻由子他(共著) 『呉越国—10 世紀東アジアに華開いた文化国家—』勉誠出版, pp. 176-188, 2022/10

河上麻由子他(共著) 坂上康俊編『古代中世の九州と交流』高志書店, pp. 83—108, 2022/5

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

河上麻由子 「NHK 知恵泉「遣隋使」」NHK, 2022/5

河上麻由子 「NHK 知恵泉「遣唐使」」NHK, 2022/5

4. 口頭発表

河上麻由子 「義江明子 日本古代双系社会の女性君主たち—7 世紀末の転換を中心に」へのコメンテーター, Webinar Series for Asian Gender Studies 国際シンポジウム, 比較ジェンダー史研究会(オンライン), 2023/3/11

河上麻由子 「唐代の中日交流」清華大学芸術博物館学術講座(オンライン), 2022/11/26

Kawakami, Mayuko “Sovereigns as Bodhisattva and Cakravartin”, Workshop – Center for Culture, Society, and Religion, プリンストン大学(対面), 2022/10/25

河上麻由子 「「自他宗唐決疑問」内に引用される承和遣唐使について」, Doctrine and Practice beyond Borders: International Interactions in East Asian Buddhism Numata Visiting Scholar Fund Workshop, プリンストン大学・沼田財団・科学研究費, プリンストン大学(対面), 2022/9/16

5. 受賞歴(2022 年度)

河上麻由子 大阪大学総長特別表彰, 2022/11/9

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2025 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 河上麻由子

課題番号: 21K00808

研究題目:アジアの中の国風文化

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

九州歴史資料館協議会・委員, 2022 年 6 月～現在に至る

鴻臚館跡整備検討委員会・委員, 2021 年1月1日～現在に至る

佐賀県吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員, 2020 年 1 月～現在に至る

新見 まどか 助教

2015 年、大阪大学大学院文学研究科文化形態論専攻(博士課程)修了。博士(文学)。大阪大学大学院文学研究科 招へい研究員を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科助教(2022 年 9 月退職)。専攻:中国史/唐・五代史。

1. 論文

新見まどか「皇帝並立時代の幕開け——『錦里耆旧伝』所収、後梁・前蜀間国書考」『唐代史研究』第 25 巻, pp.153-179,査読有, 2022/8

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

新見まどか「〈書評〉張天虹著『中晩唐五代的河朔藩鎮与社会流動』」『史泉』136, pp. 20-25, 査読無, 2022/7

新見まどか「帝国の維持と滅亡——中国、唐の場合」『鴨東通信』115, pp. 12-13, 査読無, 2022/9

4. 口頭発表

新見まどか「五代後晋・南唐間における捕虜の返還問題」, 第 10 回アジア史連絡会, 龍谷大学(対面、オンライン併用) 2022/6/25

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2022 年度、 研究活動スタート支援、代表者:新見まどか

課題番号:21K20043

研究題目:五代十国期における国際関係の分析——十国側史料所収の外交関連文書を中心に

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

西 洋 史 学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

演習をディベート、リサーチ等に分化することによって、大学院、学部における論文作成指導などのシステムを効率的に運用した。また、パワーポイントを用いたプレゼンテーションや英語での演習を積極的に実施した。また、大学院では、他学部、他専修との共同授業「歴史学のフロンティア」の充実をはかり、加えて、研究ジャーナル『パブリック・ヒストリー』の刊行を通じた出版実務の習得、雑誌編集業務の実習も順調に進めた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 4 名 准教授 1 名 講師 1 名 助教 0 名

教 授：秋田 茂、藤川 隆男、栗原 麻子、ナディン・ヘー
准 教 授：中谷 惣
講 師：見瀬 悠

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		48	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	3

*社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：12 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：2 名

1-4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文 （査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	7	1	1	0	9	2	1	12

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 1 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 1 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

秋田 茂 教授

1958 年生。1985 年、広島大学大学院文学研究科博士課程中退。博士（文学）（大阪大学）2003 年。大阪外国語大学外国語学部助手、同講師、同助教授。2003 年 10 月大阪大学大学院文学研究科教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。先導的学際研究機構(OTRI)グローバルヒストリー研究部門長、アジア世界史学会(AAWH)会長。専攻：イギリス帝国史・グローバルヒストリー

1. 論文

秋田茂「インドの「緑の革命」、世界銀行と 1970 年代の石油危機—化学肥料問題を中心に—」『アジア太平洋論叢』第 25 号, pp.3-21,査読有, 2023/3/30

秋田茂 「近代世界の誕生」と阿部正弘公」『第 19 回全国藩校サミット福山大会』, pp.38-49,査読無, 2022/11/19

2. 著書 (単著・編著)

秋田茂,他 (共著)『高等学校 世界史探求』(文部科学省検定済教科書 高等学校地理歴史科用), 第一学習社, pp. 142-147, 152-153, 162-163, 166-169, 182-187, 2023/2

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

秋田茂 (インタビュー)「大学入学共通テスト「歴史総合」試作問題から 新科目の理念に沿う出題を考える」『朝日新聞』,朝刊 27 頁, 査読有, 2023/1/19

秋田茂(書評)「ウィリアム・ダルリンブル著(小坂恵理訳)『略奪の帝国 東インド会社の興亡』河出書房新社 2022 年」『日本経済新聞』朝刊, 査読有, 2022/9/3

秋田茂(書評)「C.A>ベリ著、平田雅博・吉田正弘・細川道久訳『近代世界の誕生—グローバルな連関と比較 1780-1914』上・下巻、名古屋大学出版会、2018 年」『西洋史学』第 273 号, pp.49-51,査読有, 2022/6/30

4. 口頭発表

秋田茂「書評:サラ・ロレンティニー『グローバル開発史—もう一つの冷戦』名古屋大学出版会、2022 年」, 冷戦研究会第 62 回例会,冷戦研究会,東京理科大学森戸記念館(ハイブリッド), 2023/3/28

秋田茂「アジア国際経済秩序の形成と変容—脱植民地化から経済開発へ」, 人文学林キックオフ・シンポジウム,大阪大学人文学研究科,大阪大学(ハイブリッド), 2023/3/9

Akita, Shigeru “Transwar History and Japan in the Asia-Pacific: Development, Decolonization and Knowledge”, Final Editorial Meeting: HeKKSaGOn Global History from Asian Perspectives, HeKKSaGOn Global History Group,University of Heidelberg, Heidelberg(対面), 2023/1-20-21

秋田茂「司会と論点整理」, キックオフミーティング「エネルギー危機と 1980 年代のアジア国際秩序—アジア太平洋経済圏の形成を中心に」,大阪大学グローバルヒストリー研究会,大阪大学(オンライン), 2022/12/28

Akita, Shigeru “Historical Origins of the ‘East Asian Miracle’—A Global Historical Perspective on International Order of Asia in the 1930s and 1950s”, Joint Research Project Workshop: HeKKSaGOn Global History from Asian Perspectives, HeKKSaGOn Global History Group,Osaka University(オンライン), 2022/11/3

秋田茂「イギリス帝国と近現代の大阪—グローバルヒストリーの視点から」, 総合文化を学ぶ科,NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ,豊中市文化芸術センター(対面), 2022/10/25

Akita, Shigeru “From Decolonization to Economic Development: The Colombo Plan, Jawaharlal Nehru, and Asian Solidarity”, 5th AAWH (Asian Association of World Historians) Conference—Asia and the Globe: Connecting the Past with the Present,Asian Association of World Historians and Indian International Center (IIC),IIC, New Delhi(ハイブリッド), 2022/10/12

Akita, Shigeru “Creating Global/World History from Asian Perspectives”, ICHS (International Congress of Historical Sciences) 2022 : Roundtable: How to write a world history in the 21st century,International Society of Historical Sciences,University of Poznan(ハイブリッド), 2022/8/25

Akita, Shigeru “Introduction and ‘Green Revolution’ in India, the World Bank and the Oil Crises in the 1970s: Focusing on Chemical Fertilizer Problems”, XIX World Economic History Congress (WEHC), PA001: The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s, International Economic History Association, EHESS, Campus Condorcet, Paris(ハイブリッド), 2022/7/29

Akita, Shigeru “Creating Global/World History from Asian Perspectives”, XIX World Economic History Congress (WEHC), PA178: Round table—Resources for teaching and researching global economic history: a new trick from the North ?, International Economic History Association, EHESS, Campus Condorcet, Paris(ハイブリッド), 2022/7/28

Akita, Shigeru “Comments: American Empire in Global History”, International Workshop: Comparative Imperial History: Eurasian and American Perspectives,Slavic—Eurasian Research Center,北海道大学(ハイブリッド), 2022/6/6

Akita, Shigeru “Comments: American Empire in Global History”, International Workshop: American Empire in Global History with Prof. A.G. Hopkins,OTRI (Institute for Open and Transdisciplinary Research Initiatives),Osaka University, 淡路夢舞台国際会議場(対面), 2022/6/2-4

秋田茂 「報告4 インドの「緑の革命」と石油危機—化学肥料増産問題と国際支援」, 社会経済史学会第91回全国大会 パネル・ディスカッション①「石油危機」の衝撃と 1970 年代アジア国際秩序の変容,社会経済史学会, 神奈川大学・横浜国立大学(オンライン), 2022/5/1

秋田茂 「インドの「緑の革命」と石油危機—化学肥料増産問題と国際支援」, 社会経済史学会第 91 回全国大会パネル・ディスカッション打ち合わせ会,大阪大学先導的学際研究機構,大阪大学(オンライン), 2022/4/9

5. 受賞歴(2022 年度)

秋田茂 大阪大学名誉教授, 大阪大学, 2022/11

秋田茂 紫綬褒章, 内閣府, 2022/11

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【研究会等の活動】

OTRI (Institute for Open and Transdisciplinary Research Initiatives)(共催)

- ・International Workshop: American Empire in Global History with Prof. A.G. Hopkins, 日本・淡路夢舞台国際会議場(対面),2022/6/2-4
- ・107th Global History seminar: Julia Mariko Jacoby, “Disaster Prevention in Japan 1885-1978: Natural Disasters, Scientific Expertise and Global Transfers of Knowledge”,大阪大学(オンライン),2022/4/29
- ・108th Global History seminar: A.G. Hopkins, “Globalization and Decolonization”,大阪大学(ハイブリッド),2022/5/27
- ・109th Global History seminar: Jonas Ruegg, “Oceanc Frontiers as an Environmental Framework for the History of Global Japan”,大阪大学(ハイブリッド),2022/6/24
- ・110th Global History seminar: Yukimura Sakon, “The Launch of the Volunteer Flet: Late Imperial Russia and “Empire Route”,大阪大学(ハイブリッド),2022/7/22
- ・111th Global History seminar: Rien T. Segers, “The Inevitable Brexit: A short History of a Long and Wndy Brexit Road from a UK Perspective”,大阪大学(ハイブリッド),2022/9/30
- ・112th Global History seminar: B.R. Tomlinson, “Political economy of development: colonial Asia 1900-2000”,大阪大学(オンライン),2022/10/28
- ・113th Global History seminar: Timo Sarkka, “Mining and Financial Imperialism: The Central African Copper Bonanza c.1890-1960”,大阪大学(ハイブリッド),2022/11/25
- ・114th Global History seminar: Hiromitsu Hashimoto, “Japanese Migrants and the A.K.Hasheem Company at Colombo: Tourists, Pan-Asianists, and Immigration to Brazil”,大阪大学(ハイブリッド),2022/12/23
- ・115th Global History seminar: 益田肇「冷戦世界を考え直す—社会競争の時代」,大阪大学(ハイブリッド),2023/1/27
- ・116th Global History seminar: Wolfgang Schwentker, “The Peculiarities of Japanese History: A Foreign Historian’s Perspective”,大阪大学(ハイブリッド),2023/3/24

OTRI/京都産業大学(共催)

- ・8th Global History Lecture: Jeremy Land and Rodrigo Dominguez, "A Convenient Relationship: Portuguese-American Trade before Independence 1700-1775", 日本・京都産業大学(オンライン), 2022/4/29
- ・9th Global History Lecture: Catia Antunes, "Global Entrepreneurial Culture, 1500-1800: Thoughts, Problems and Hypotheses", 日本・京都産業大学(オンライン), 2022/9/30
- ・10th Global History Lecture: Werner Scheltjens, "North Eurasia as a Unit of World History", 日本・京都産業大学(オンライン), 2022/12/16
- Slavic-Eurasian Research Center, Hokkaido University(協賛), International Workshop: Comparative Imperial History: Eurasian and American Perspectives, 日本・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(ハイブリッド), 2022/6/5
- EHESS(協賛), Round Table: Resources for Teaching and researching global economic history: a new trick from the North ?, フランス・パリ・EHESS(ハイブリッド), 2022/7/28
- EHESS(協賛), International Workshop: The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s, フランス・パリ・EHESS(ハイブリッド), 2022/7/29
- ICHN/NOGWHISTO(協賛), Round Table: How to write a world history in the 21st century, ポーランド・ボズナン(ハイブリッド), 2022/8/25
- AAWH/Indian International Center(共催), Key-note Panel: Asia and the Globe: Connecting the Past with the Present, インド・ニューデリー(ハイブリッド), 2022/10/12-13
- HeKKSaGOn Global History Group(共催)
- ・International Workshop: Global History from Asian Perspectives, 大阪大学(オンライン), 2022/11/3
- ・Editorial meeting: Global History from Asian Perspectives, ドイツ・ハイデルベルク大学(対面), 2023/1/20-21

【国際共同研究】

- HeKKSaGOn Global History from Asian Perspectives, University of Heidelberg(ドイツ), Gettinen University(ドイツ), 秋田茂、ナ
デイン・ヘー
- Asia and the Globe: Connecting the Past with the Present, Jawaharlal Nehru University(インド), 秋田茂
- Sogang University(韓国), Global/World History Studies and Asia, 秋田茂
- Global History Studies, EHESS, Paris(フランス), 秋田茂
- The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s, George Washington University(アメリカ), Georgetown University(アメリカ), University of Washington(アメリカ), University of Cambridge(イギリス), 秋田茂
- American Empire in Global History, University of Cambridge(イギリス), 秋田茂
- Creating Global History from Asian Perspectives, 南洋理工大学(シンガポール), 秋田茂
- Asia and the Globe: Connecting the Past with the Present, University of Qatar(カタール), 秋田茂
- 2nd BEACH (British-East Asian Conference of Historians) Conference, Institute of Historical research, University of London(イギリス), 秋田茂

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

文部科学省, 科研費「学術変革領域研究(A)」審査委員, 2022年4月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

社会経済史学会・理事, 2022年5月～現在に至る

East Asian Society of British History-Japan・President（会長）, 2018年8月～現在に至る

Asian Association of World Historians (AAWH)・President (会長), 2015 年 5 月～2022 年 10 月
北海道大学スラブ研究センター・共同研究員, 2011 年 4 月～現在に至る
日本学術会議・連携会員(史学), 2006 年 10 月～現在に至る
The Royal Historical Society (United Kingdom)・Fellow, 2002 年 10 月～現在に至る

藤川 隆男 教授

1959 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学修士（大阪大学）、MA（ANU）。帝塚山大学教養学部講師、同助教授、大阪大学文学部助教授、同教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：西洋史、とくにオーストラリアの歴史

1. 論文

Fujikawa, Takao “Corpus Construction for Historical Newspapers: A Case Study on Public Meeting Corpus Construction Using OCR Error Correction.” *SN Computer Science*, 第 3 巻第 6 号, pp.489-489, 査読有, 2022/11

Fujikawa, Takao “Information Extraction from Public Meeting Articles.” *SN Computer Science*, 第 3 巻第 4 号, pp.285-285, 査読有, 2022/5

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

藤川隆男(書評)「アブラム・デ・スワーン著、大平章訳『殺人区画：大量虐殺の精神性』」『西洋史学 = The studies in Western history / 日本西洋史学会 編』273 号, pp. 79-81, 2022/8

4. 口頭発表

藤川隆男「オーストラリアン・ルールズ・フットボール: グローバルな世界戦略とローカル・スポーツ」スポーツ史学会第 34 回大会: スポーツ史学会, スポーツ史学会, 龍谷大学(オンライン), 2020/12

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、基盤研究(B) 一般、代表者: 藤川隆男

課題番号: 19H01330

研究題目: オーストラリアの世論形成の歴史的解明: 自然言語処理による公開集会データの分析

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本西洋史学会・代表, 2016 年 3 月～現在に至る

日本西洋史学会・理事, 2015 年 5 月～現在に至る

大阪大学西洋史学会・理事, 2003 年 6 月～現在に至る

パブリック・ヒストリー・編集委員, 2003 年 6 月～現在に至る

西洋史学・編集委員, 1996 年 4 月～現在に至る

栗原 麻子 教授

1968 年生。1995 年、京都大学大学院文学研究科博士課程（西洋史学専攻）指導認定のうえ退学。博士（文学）（京都大学、1998 年）。日本学術振興会特別研究員、奈良大学講師を経て、2004 年 10 月より大阪大学文学研究科助教授、同准教授、2017 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：古代ギリシア史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

栗原麻子, 吉武純夫, 木曾明子(共編著)『デモステネス弁論集 7』京都大学学術出版会, pp.54-77, 284-346(担当範囲:「ネアイラ弾劾」に関する翻訳、注釈、解題の全体および事項説明の一部), 2022/4

4. 口頭発表

Kurihara, Asako “Female Citizenship and Participation in Classical Athens: The case of Dem. 59”, Workshop: Citizenship and Participation in Classical Athens, 科研基盤 C「リュクルゴス時代の再検討」, 大阪大学, 2022/11/27

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2017 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:栗原麻子

課題番号:17K0173

研究題目:互酬性と民主制—前 4 世紀アテナイにおける公私関係の変容

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

Workshop: Citizenship and Participation in Classical Athens, 科研基盤 C「リユクルゴス時代の再検討」, 大阪大学, 2022/11/27

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

日本学術振興会専門委員, 2022 年7月～2023 年6 月

11. 外部役員等の引き受け状況

(財)懐徳堂記念会・副常務理事, 2022 年6月～現在に至る

日本西洋古典学会・常任委員, 2016 年6 月～現在に至る

日本西洋古典学会・委員、書評委員, 2013 年6 月～現在に至る

古代学協会・編集参与, 2009 年4 月～現在に至る

日本西洋史学会・編集委員、運営委員, 2004 年10 月～現在に至る

Nadin Hee 教授

1977 年生。チューリッヒ大学で MA、ベルリン自由大学で Ph.D (歴史)2010 年。ベルリン自由大学、フンボルト大学、マックスプランク研究所で准教授、2021 年7 月大阪大学大学院文学研究科教授を経て、2022 年4 月より同大学院人文科学研究科 現職。専攻：グローバル・ヒストリー、環境史 帝国史 科学技術史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

NADIN HEE, International Workshop: “Pacific Histories across Species and Borders”, Osaka University Japan, Toyonaka Campus, 2023/3/20-21

NADIN HEE, Panel: “Trans-imperial Perspectives on Indo-East-Asian Entanglements in the First Half of the 20th Century, The 5th Conference of Asian Association of World Historians (AAWH: Hybrid), Indian International Center, New Delhi, India, 2022/10/12-13

NADIN HEE, Roundtable: “What is Global History”, Free University Berlin (online), 2022/9/20

NADIN HEE, “Domesticating Tuna: Tuna Hatcheries and Blue-Green Capitalism”, Max Planck History of Science Institute (online), Berlin, Germany, 2022/5/20

NADIN HEE, Panel: “Historiographical and Conceptual Reflections. Materiality, Space, and Time in Transimperial Histories”, Conference on Modern Transimperial and Inter-imperial Histories---Forms, Questions, Prospects, Geneva, Switzerland, 2022/5/12

NADIN HEE, 「間帝國的な視座から見た日本統治下の台湾」大阪大学歴史教育研究会, 2022 年度 4 月例会:トランスインペリアル・ヒストリーから考える新たな帝国・植民地史研究, 大阪大学人文学研究科, 2022/4/16

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

中谷 惣 准教授

1979 年生。大阪市立大学大学院文学研究科修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、信州大学助教、2018 年 4 月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：ヨーロッパ中世史（イタリア中世史）

1. 論文

Nakaya, So “Credit Practices and Networks in the Medieval Italian City: The Memoriale of Doctor Iacopo di Coluccino of Lucca” *Journal of Medieval History* 第 48 巻第 5 号, pp.686-713, 査読有, 2022/12

中谷惣「中世末期トスカーナの都市と農村の信用ネットワークーヤコポ・コルッチーノ覚書よりー」『イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』, 昭和堂, pp. 110-124, 査読無, 2022/8

2. 著書（単著・編著）

Nakaya, So, *Raising Claims. Justice and Commune in Late Medieval Italy*, Brepols, p.255, 2022/7

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

中谷惣 “Microcredit in the Shop in Late Medieval Tuscany”, World Economic History Congress, XIX,, (5/3/1900), 2022/7/27

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2025 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:中谷惣

課題番号:21K00923

研究題目:イタリア中世都市の市民概念に関する動態的研究——周縁者から見る

6-2. 2022 年度～2024 年度、 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))、代表者:中谷惣

課題番号:21KK0215

研究題目:外国人の信用ネットワークにみるイタリア中世都市の市民概念——公証人文書の分析より

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

関西比較中世都市研究会・幹事, 2009 年 4 月～現在に至る

見瀬 悠 講師

1985 年生。2016 年、東京大学大学院人文社会系研究科（西洋史学専攻）単位取得満期退学。博士（歴史学）（パリ＝エスト大学、2021 年）。日本学術振興会特別研究員、パリ＝エスト大学博士課程契約研究員、2020 年 4 月大阪大学大学院文学研究科講師を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：近世フランス史

1. 論文

見瀬悠 「歓待と差別—近世フランス王国における外国人の処遇をめぐる言説—」『史学雑誌』第 131 巻第 8 号, pp.1-36,査読有, 2022/8

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

見瀬悠「歓待と差別—アンシャン・レジーム期フランスにおける外国人の処遇をめぐる言説—」, 若手研究者セミナー, 日仏会館 (オンライン), 2022/7/23

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2023 年度、研究活動スタート支援、代表者: 見瀬 悠

課題番号: 20K22020

研究題目: 18 世紀フランスにおける外国人と外交官—イギリスの事例を中心に—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日仏歴史学会・幹事, 2020 年 10 月～現在に至る

西洋史学・編集幹事, 2020 年 4 月～現在に至る

考 古 学

I. 教育活動の現況

1—1. 教育活動の概要

【2022 年度】

学部の教育においては、考古学研究に必要な発掘調査や出土資料分析などにかかわる方法論や技術などにかかわる基礎力を学ぶことを重視しており、1988 年の講座開設以来、フィールド調査を行い、成果を学術報告書にまとめる取り組みの継続を第一の目標にしてきた。そのため、①フィールド調査をカリキュラムに取り入れた実践的かつ課題追求型の教育を行うこと、②遺跡や博物館を訪ねる臨地研修も実施し、授業の不足を補うようにつとめることを、全般的な特色ある教育目標としている。そのほか、③学部生向けの講義を継続して開講し、専門基礎学力の充実をはかること、④出土資料の整理分析作業を通じて、考古資料の特性や扱い方を実践的に習得させること、⑤考古学関係の展示会・学外研究会等の情報入手につとめ、学生に広く周知して学習意欲を向上させること、なども目標としている。

2022 年度においては、学部生向けに基礎的な講義を開講しており、授業などを通して、適宜展覧会やインターネットのコンテンツなどの情報提供も行った。就職支援については、随時指導を行いつつ、文化財行政や埋蔵文化財調査にかかわる集会などへの参加を促している。また、新たな対象地域でのフィールド調査を開始し、兵庫県三木市の愛宕山古墳において発掘調査なども行った。この 2, 3 年は、新型コロナウイルスなどの感染拡大により、思うようなフィールド活動ができていなかったが、感染症に十二分に留意しながらも調査を実施することができ、その中で実践的な教育を推進した。また、学内での授業を補うために、上記の調査以外にも例年臨地研修も実施し、奈良文化財研究所や平城宮跡、豊中市立郷土資料館等の見学を行った。昨年度までは感染症の蔓延により実施していなかったものの、実際の遺跡や研究施設、展示施設などもふくめて、文化財の調査や社会貢献活動の実際を学ぶ機会ができた。

1—2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 2 名 准教授 0 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：福永 伸哉、高橋 照彦
助 教：上田 直弥

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		27	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	2	0	0	0	0	0
社会人学生		0	0	0	0	0	0

*うち留学生 2 名、社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：9 名

1—3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：1 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文 （査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

石束礼・近藤葵「豊中市石塚古墳推定地の測量調査・測量調査の成果」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.140-142, 査読無, 2022/9/30

石束礼・近藤葵「豊中市石塚古墳推定地の測量調査・調査のまとめ」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.142-144, 査読無, 2022/9/30

石束礼・松岡寿々代「世界遺産登録およびコロナ禍がもたらす”古墳ブーム”の変化と文化財活用の将来像」『令和2年度学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書』, pp.1-30, 査読無, 2022/11/30

井上陽波「宝塚市八州嶺古墳調査概報・出土遺物」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.122-124, 査読無, 2022/9/30

松岡寿々代「豊中市石塚古墳推定地の測量調査・位置と環境」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.135-139, 査読無, 2022/9/30

松岡寿々代 “Tumulus Boom Before and After World Heritage Registration: Under the Influence of Covid-19” *Coping with the "New Normal" and the Promotion of International Exchange* , Proceedings of International Seminar, pp.10-16, 査読無, 2022/7

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 （受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-4-3. 研究助成 （受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 （就職先など、数）

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	5	0	0	0	5	3	1	9

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度 学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

福永 伸哉 教授

1959 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学博士（大阪大学、2005 年）。大阪大学埋蔵文化財調査室助手、大阪大学文学部助教授、大阪大学大学院文学研究科助教授、2005 年より同教授。2022 年 4 月より大学院人文学研究科現職。専攻：日本考古学、比較考古学

1. 論文

福永伸哉 「ヤマト政権成立期における畿内地域の円丘墓と方丘墓」『纏向学の最前線』, pp.357-366, 査読無, 2022/7/22

福永伸哉 「ヤマト政権成立過程における畿内の地域間関係」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.41-60, 査読無, 2022/9/30

福永伸哉 「고대 일본의 상장의례와 전방후원분 (古代日本の喪葬儀礼と前方後円墳)」『고대 동아시아의 상장의례』, pp.65-115, 査読無, 2022/10/27

福永伸哉 「近畿と東北」『国家形成期におけるヤマト政権と地域権力の相互関係の再定義－東北地方を中心に－』, pp.55-64, 査読無, 2023/3/12

福永伸哉 「長尾山丘陵における前方後円墳の調査」『わがまちの景観を織りなす歴史』, pp.13-18, 査読無, 2023/3/17

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

福永伸哉 「小さな古墳残す工夫を」, 日本海新聞, 2022/8/12

4. 口頭発表

福永伸哉 「古代日本の喪葬儀礼と前方後円墳」, 国立公州博物館国際学術大会, 国立公州博物館, 国立公州博物館 (対面), 2022/10/27

福永伸哉 「文化財保護に未来はあるか(シンポジウムコーディネーター)」, 日本学術会議公開シンポジウム, 日本学術会議文化財の保護と活用に関する分科会・岡山大学文明動態学研究所, オンライン, 2022/12/11

福永伸哉 「近畿と東北」, 福島大学考古学研究室第4回公開シンポジウム, 福島大学行政政策学類考古学研究室, 郡山市市民交流プラザ (対面), 2023/3/12

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2024 年度、基盤研究(B) 一般、代表者:福永伸哉

課題番号: 22H00714

研究題目: 初期ヤマト政権の地域統合原理の解明と比較考古学的手法によるその人類史的評価

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

なし

9. 地域連携による研究活動状況

三木市史にかかわる調査：三木市教育委員会, 2022/4/1～

三木市愛宕山古墳発掘調査：三木市教育委員会・三木市史編さん室, 愛宕山古墳の発掘調査を実施し、墳丘形態、築造時期などについて新知見を得るとともに、地元住民向けの説明会を開催した。

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

和歌山県特別史跡岩橋千塚古墳群追加指定にかかる有識者会議・委員, 2023 年 1 月～現在に至る

文化庁技術審査会・委員, 2022 年 7 月～現在に至る

宮内庁陵墓管理委員会・委員, 2022 年 5 月～現在に至る

鹿児島県鹿屋市岡崎古墳群検討委員会・委員, 2021 年 9 月～現在に至る

日本学術会議・連携委員, 2020 年 10 月～現在に至る

愛知県史跡断夫山古墳調査検討委員会・委員, 2020 年 7 月～現在に至る

百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産学術委員会・委員, 2019 年 4 月～現在に至る

三木市史通史編専門委員会・委員, 2016 年 12 月～現在に至る

藤井寺市史跡古市古墳群整備検討委員会・委員, 2016 年 8 月～現在に至る

羽曳野市史跡古市古墳群整備検討委員会・委員, 2016 年 8 月～現在に至る

鹿児島県東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会・委員, 2016 年 6 月～現在に至る

南あわじ市松帆銅鐸調査研究委員会・委員, 2016 年 5 月～現在に至る

文化庁文化審議会文化財分科会第1専門調査会・委員, 2015 年 3 月～現在に至る

文化庁文化審議会文化財分科会第3専門調査会・委員, 2015 年 3 月～現在に至る

高槻市史跡整備検討会・委員, 2014 年 4 月～現在に至る

兵庫県立考古博物館運営委員会・委員, 2013 年 3 月～現在に至る

桜井市纏向遺跡調査委員会・委員, 2011 年 10 月～現在に至る

豊中市文化財審議委員会・委員, 2010 年 4 月～現在に至る

川西市文化財審議委員会・委員, 2006 年 6 月～現在に至る

大阪府立近つ飛鳥博物館運営協議会・委員, 2006 年 6 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

濱田青陵賞選考委員会・委員, 2023 年 2 月～現在に至る

奈良県立橿原考古学研究所・共同研究員, 2022 年 4 月～現在に至る
一般財団法人大阪市文化財協会・理事, 2020 年 6 月～現在に至る
考古学研究会常任委員, 2020 年 4 月～現在に至る
公益財団法人三菱財団人文科学選考委員会・委員, 2019 年 10 月～現在に至る
大阪大学接合科学研究所・共同研究員, 2013 年 7 月～現在に至る
桜井市纏向学研究センター・共同研究員, 2012 年 11 月～現在に至る
考古調査士資格認定機構・資格審査専門委員, 2007 年 12 月～現在に至る
考古学研究会関西例会・世話人, 1980 年 4 月～現在に至る

高橋 照彦 教授

1966 年生。1992 年京都大学大学院文学研究科博士後期課程中退。博士（文学）（京都大学、2014 年）。国立歴史民俗博物館考古研究部助手、奈良国立博物館学芸課研究員を経て、2002 年大阪大学大学院文学研究科助教授、2007 年同准教授、2015 年同教授。2022 年 4 月より大学院人文学研究科現職。専攻：日本考古学、東アジア考古学

1. 論文

高橋照彦「三彩から緑釉陶器・白色土器へ―平安京を彩ったやきもの」『平安のやきもの―その姿、うつろいゆく』, pp.16-23, 査読無, 2022/10/29
安田あゆみ, 高橋照彦「高男寺廃寺出土軒瓦の基礎的検討―東播磨における中世瓦の瓦当文様と製作技法―」『市史研究みき』第 6 号, pp.1-26, 査読無, 2022/12/20

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

高橋照彦「正倉院宝物をめぐる諸問題―三彩小塔再考―」, 豊中歴史同好会例会, 豊中歴史同好会, 豊中市立蜷池公民館(対面), 2022/9/10
小倉頌子, 奥山誠義, 坂本豊治, 高橋照彦, 黒田祐介「出雲市鹿蔵山遺跡出土奈良三彩の胎土分析」, 日本文化財科学会第 39 回大会, 日本文化財科学会, 千葉大学(対面), 2022/9/11
高橋照彦「古代日本における須恵器と施釉陶器の生産と流通―丹波篠窯跡群西山 1 号窯の調査とその成果を中心に―」, 京都大学考古学談話会大会, 京都大学考古学談話会, 京都大学(オンライン), 2022/11/12
高橋照彦「三彩から緑釉陶器・白色土器へ―平安京を彩ったやきもの」, 愛知県陶磁美術館特別展記念講演会, 愛知県陶磁美術館, 愛知県陶磁美術館(対面), 2022/12/18
高橋照彦「日本における奈良・平安期の施釉陶器生産」, 国際学術シンポジウム「東アジア都市文明の考古学研究」, 東亜大学東アジア文化圏形成研究プロジェクト室, 東亜大学(オンライン), 2023/1/29

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況（研究代表者となったもの）

6-1. 2019 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:高橋照彦

課題番号:19K01095

研究題目:平安時代の物資流通に関する多角的基礎研究—須恵器・施釉陶器・中国陶磁を中心に—

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

ルイロウ城の調査・研究 : ベトナム国家歴史博物館, ベトナム

9. 地域連携による研究活動状況

三木市史にかかわる調査 : 三木市教育委員会, 2018/4/1～

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

三木市史編さん委員会考古部会委員 : 三木市史編さん室, 2018/4/1～

11. 外部役員等の引き受け状況

京都府埋蔵文化財調査研究センター・理事, 2019 年7月～現在に至る

東洋陶磁学会・常任委員, 2009 年 5 月～現在に至る

史学研究会・評議員, 2005 年 11 月～現在に至る

上田 直弥 助教

1990 年生。2018 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程(考古学専攻)修了。博士(文学)(大阪大学、2018 年)。

2018 年 4 月より現職。専攻:考古学

1. 論文

上田直弥「古墳時代堅穴系埋葬施設の諸問題」『考古学ジャーナル』第 767 号, pp.42-47, 査読無, 2022/4/22

上田直弥「横穴式石室からみた古墳時代の首長 近畿」『季刊考古学』第 160 号, pp.18-24, 査読無, 2022/7/25

上田直弥「北摂における古墳築造の画期」『つどい』第 409 号, pp.1-14, 査読無, 2022/9/1

上田直弥「淀川流域における古墳時代前半期葬制の展開」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.5-20, 査読無, 2022/9/30

上田直弥「埋葬施設からみた古墳時代前期・中期の首長墓系譜」『古代学研究会 2022 年度拡大例会シンポジウム資料集 首長墓系譜の再検討』, pp.33-52, 査読無, 2022/12/17

上田直弥「三島における葬制の展開と長持形石棺」『淀川流域の古墳時代 太田茶臼山古墳と今城塚古墳をめぐって』季刊考古学 別冊 39 号, pp.68-77, 査読無, 2022/12/25

上田直弥「埋葬施設からみた古墳時代前半期の東北と近畿」『国家形成期におけるヤマト政権と地域権力の相互関係の再定義—東北地方を中心に—』, pp.25-34, 査読無, 2023/3/12

2. 著書(単著・編著)

福永伸哉・上田直弥(編)『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』大阪大学大学院人文学研究科, 2022/9/30

高橋照彦・上田直弥(編)『宝塚市万籟山古墳第3次調査概報(『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』所収)』大阪大学大学院人文学研究科, pp.71-106, 2022/9/30

高橋照彦・上田直弥(編)『宝塚市八州嶺古墳調査概報(『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』所収)』大阪大学大学院人文学研究科, pp.107-134, 2022/9/30

上田直弥『古墳時代の葬制秩序と政治権力』大阪大学出版会, 2022/9/30

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

上田直弥「東日本における前期首長墳埋葬施設の基礎的検討ー日本海側を中心にー」, 科研基盤(B)「国家形成期におけるヤマト政権と地域権力の相互関係の再定義ー東北地方を中心にー」第5回研究集会 (zoom 会議), 一般、基盤研究(B)、20H01342、研究代表者: 菊地 芳朗、2020s-2022s(オンライン), 2022/7/18

上田直弥「兵庫の古墳埋葬施設からみた前・中期古墳における変化」, 兵庫考古談話会シンポジウム『前期古墳と中期古墳における器物や造墓集団の変化』, 兵庫考古談話会(オンライン), 2022/11/20

上田直弥「野中古墳石製模造品の基礎的検討」, 科研基盤 B「陪冢と大量器物埋納の再分析に基づく巨大古墳群の構造把握と社会複雑化過程の研究」2022 年度第5回研究会, 一般、基盤研究(B)、A22H00716a、研究代表者: 橋本達也、2022s-2025s(オンライン), 2022/11/21

上田直弥「埋葬施設からみた古墳時代前期・中期の首長墓系譜」, 古代学研究会 2022 年度拡大例会シンポジウム 首長墓系譜の再検討, 古代学研究会, 大阪歴史博物館4F講堂(対面), 2022/12/17

上田直弥「埋葬施設からみた古墳時代前半期の東北と近畿」, シンポジウム「ヤマト政権と地域権力の相互関係ー東北地方を中心にー」, 福島大学行政政策学類考古学研究室, 郡山市民プラザ大会議室(対面), 2023/3/12

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2023 年度、若手研究、代表者: 上田直弥

課題番号: 21K13135

研究題目: 中期古墳における埋葬施設構造の多様性と規範性の推移とその歴史背景

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

三木窯跡群出土資料の調査・研究: 三木市

三木市史にかかわる調査: 三木市教育委員会, 2022/4/1～

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

考古学研究会・常任委員, 2018 年 4 月～現在に至る

日 本 学

I. 教育活動の現況

1—1. 教育活動の概要

【2022 年度】

新型コロナウイルスに関連した行動制限が少なくなるなか、メディア授業、オンラインを主体としたコミュニケーションから、対面による学生との交流機会が回復された。そのいっぽうで感染者は依然として発生するため、状況に応じてハイブリッドでの講義や演習を行うなど、依然より柔軟な対策が求められた。そのために新しい機器の導入や知識の拡充をはかり、おおむね対応できたように思われる。特に個人的なコミュニケーションが必要とされる、卒業論文の作成についての指導などは、オンラインツールを使ってより頻繁に行うことができたという側面もあり、対面指導がないことの不利を上回る効果もみられた。

学生は図書館や資料館へのアクセスが制限されていた状況から、独自の調査に手間取る傾向もみられ、卒論生へは通常よりきめ細やかな指導や代替案の提示を行った。その結果、重来年度とは異なる工夫を経た卒業論文がみられた。以上を鑑み、目標はおおむね達成されたと考えるが、今後もさらなる教育体制の充実をはかり、新型コロナによる影響がなくなる将来の状況に速やかに移行できるよう、事前対策に力を注ぐ予定である。

1—2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 1 名 准教授 3 名 講師 0 名 助教 0 名

教 授：宇野田尚哉

准 教 授：北村 毅、安岡 健一、中嶋 泉

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		47	0	0	0	2	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	1	3

*社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部：16 名

1—3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学 (2022 年度)

学部：0 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	9	1	0	0	10	0	6	16

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

宇野田 尚哉 教授

1967 年生。1993 年大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了、1996 年同後期課程単位修得退学。博士（文学）。2000 年神戸大学国際文化学部講師、2001 年同助教授、2007 年同大学大学院国際文化学研究科准教授。2010 年大阪大学大学院文学研究科准教授、2017 年同教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：日本思想史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:宇野田尚哉

課題番号:22K00339

研究題目:サークル誌からミニコミ誌へ:戦後文化運動研究の新展開

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本思想史学会・総務委員, 2022 年 10 月～2024 年 9 月

北村 毅 准教授

1973 年生。2006 年早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。2007 年早稲田大学高等研究所助教、2009 年同准教授。2010 年早稲田大学琉球・沖縄研究所客員准教授。2015 年より大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：文化人類学・民俗学、オーラルヒストリー

1. 論文

北村毅「戦争の批判的家族誌を書く——家族のヴァルネラビリティをめぐるオートエスノグラフィ」『文化人類学』第 87 巻第 2 号, pp.285-305, 査読有, 2022/9/30

北村毅「《特集》オートエスノグラフィで拓く歴史と感情——序」『文化人類学』第 87 巻第 2 号, pp.191-205, 査読有, 2022/9/30

2. 著書（単著・編著）

北村毅他(共著)『シリーズ 戦争と社会 5:変容する記憶と追悼』岩波書店, pp. 193-214, 2022/4/22

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

北村毅 戦争トラウマ:／下 心の病語れぬ兵士 軍部、国民に存在否定(コメント「家族関係に影響」)『毎日新聞』, 2022/8/17

4. 口頭発表

北村毅「コメント」, JOHA 研究交流集会「沖縄戦をいかに書くか」, 日本オーラル・ヒストリー学会, 沖縄県立博物館・美術館、美術館講座室(ハイブリッド), 2023/3/11

北村毅「日本の戦後処理再考——援護行政における行方不明者の不明について」, 同時代史学会・第 34 回関西研究会, 同時代史学会, (オンライン), 2023/3/10

北村毅「記者会見」, PTSD の日本兵と家族の思いと願い証言集会, PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会, 武蔵村山市民会館(対面), 2022/8/7

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:北村毅

課題番号:19K01224

研究題目:軍事環境下の子どもの医療人類学的研究—沖縄戦から連なる暴力的状況に着目して

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

国立民族学博物館共同研究「オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究」2018 年 10 月-2023 年 3 月

9. 地域連携による研究活動状況

「平和啓発事業に関する豊中市との連携協定」2021 年 4 月～現在に至る

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

豊中市人権平和センター・業務委託事業者選定評価委員会 委員, 2023 年 1 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

上方文化芸能協会・運営委員, 2016 年 10 月～2023 年 3 月

国際日本学研究会・編集委員長, 2016 年 4 月～現在に至る

安岡 健一 准教授

1979 年生。2009 年京都大学大学院農学研究科博士課程卒業、2011 年農学博士（京都大学）取得。日本学術振興会特別研究員、飯田市歴史研究所研究員。2015 年に大阪大学大学院文学研究科特任講師（常勤）、2017 年 4 月同准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：日本近現代史

1. 論文

安岡健一「聞き書き・オーラルヒストリー・「个体史」」『現代思想』第 50 巻第 13 号, pp.128-139, 査読無, 2022/10/31

安岡健一(共著)「語り」を残し、使うために: 沖縄・久場崎の戦後引揚プロジェクトを事例に」『日本オーラル・ヒストリー研究』第 18 号, pp.169-187, 査読無, 2022/10/31

2. 著書 (単著・編著)

安岡健一他(分担執筆)「聞き取り／オーラルヒストリー」『論点・日本史学』ミネルヴァ書房, pp. 348-349, 2022/8/12

安岡健一(分担執筆)「農業機械の受容と女性たちの健康学習: 長野県下伊那郡松川町の事例から」『農業開発の現代史: 冷戦下のテクノロジー・辺境地・ジェンダー』京都大学学術出版会, pp. 381-403, 2022/7/29

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

安岡健一(書評)「高田雅士『戦後日本の文化運動と歴史叙述: 地域のなかの国民的歴史学運動』」『北陸史学』第 71 号, pp.77-84, 査読無, 2023/1/30

安岡健一「「すっごい人」展示の印象ない」70 年の大阪万博、地元の記憶は」『朝日新聞』, 2022/9/29

安岡健一(書評)「足達太郎、小塩海平、藤原辰史『農学と戦争』」『村落社会研究ジャーナル』第 28 巻第 2 号, pp.43-44, 査読無, 2022/4/25

4. 口頭発表

安岡健一「戦後日本の農業協同組合による生活改善活動の展開 ―「生活基本構想」(1970 年)までを中心に―」, 2023 年日本農業史学会研究報告会, 日本農業史学会, 法政大学(対面), 2023/3/20

安岡健一「コメント」, 人文学林キックオフ・シンポジウム, 大阪大学大学院人文学研究科, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/3/8

安岡健一「コメント(学会シンポジウム「JOHA はどこから来て、どこに向かうのか?」, 日本オーラル・ヒストリー学会 第 20 回大会, 日本オーラル・ヒストリー学会, 立教大学(ハイブリッド), 2022/9/10

安岡健一「コメント(竹沢泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ編『人種主義と反人種主義: 越境と転換』について)」, 日仏共同研究 竹沢泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ編『人種主義と反人種主義: 越境と転換』(京都大学学術出版会, 2022 年)出版記念シンポジウム, 京都大学人文科学研究所, キャンパスプラザ京都(ハイブリッド), 2022/7/16

安岡健一「1965 年再考ー忘却と想起の結節点として」, 翰林大学校日本学研究所 国際シンポジウム, 翰林大学校日本学研究所, 翰林大学校(オンライン), 2022/7/15

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 安岡健一

課題番号: 20K00936

研究題目: 戦後日本における「自分史」の展開に関する研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

「寺本知生誕110年イベントに向けた聞き取りプロジェクト」一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会:

豊中市で「人権文化」を提唱してきた寺本知氏の関係者に聞き取りをおこなう地域団体に対して、オーラルヒストリーの専門家として助言をしている。

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

三木市史通史編纂委員会・現代史部会委員, 2022 年 4 月～現在に至る

日本オーラルヒストリー学会・研究活動担当理事, 2019 年 9 月～現在に至る

中嶋 泉 准教授

国際基督教大学教養学部卒。リーズ大学大学院修士課程、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員を経て、一橋大学大学院言語社会研究科博士課程単位取得満期退学。博士(学術)(一橋大学)。広島市立大学芸術学部准教授、東京都立大学人文科学研究科准教授。2020 年 10 月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻: 日本学

1. 論文

中嶋泉 「「問い直し」の旅へ」『渡辺泰子「A MAP THEY COULD ALL UNDERSTAND.」』, 査読無, 2022/7

Nakajima, Izumi. “Anti-action: Atsuko Tanaka and the Aesthetics of Mass Culture in Postwar Japan” *Les cahiers du musée national d’art moderne* 159, 査読有, 2022/4

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

Nakajima, Izumi. (Book Review) “Viva Video! Art and Life of Shigeko Kubota” *C&A Review*, 査読有, 2022/7/14

4. 口頭発表

中嶋泉 「日本現代美術批評と女性美術家」, 「生産／実践としての批評」(Art Criticism as Creation/ Practice), Yumiko Chiba Associates / 文化庁, 六本木ヒルズ ハリウッドビューティプラザ ハリウッド大学院大学(対面), 2023/3

中嶋泉 「英訳書籍刊行記念トーク『美術の日本近現代史: 制度・言説・造型』」, 文化庁アートプラットフォーム シンポジウム「日本のアート振興のこれから: 5 カ年を振り返り今後を考える」, 文化庁アートプラットフォーム事業, 国立新美術館(ハイブリッド), 2023/2/23

中嶋泉 「女性たちの近現代美術史 美術家と作品の再解釈について」, 寝屋川市民セミナー, 寝屋川市立男女共同参画推進セ

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、若手研究、代表者:中嶋泉

課題番号:19K20582

研究題目:「女流画家」のジェンダー的言説分析ー占領期・ポスト占領期の女性運動の一側面として

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

文化庁アートプラットフォーム翻訳ワーキンググループ・選書チームメンバー, 2020 年 7 月～現在に至る

人 文 地 理 学

I. 教育活動の現況

1—1. 教育活動の概要

【2022 年度】

講義・演習では、基礎から先端、応用までの手法・スキルの習得を意識した教育をおこなった。大学院生の研究計画・研究報告については、通常の授業時間ではスケジュールや研究テーマの絞込みをはじめ、研究テーマに即した事項を中心にディスカッションを行い、年度の初めと終わりに演習で発表させ、指導するほか、学会発表や論文の執筆に際しても綿密な指導をおこなってきた。また、地域調査のスキルについては実地での経験を重視する教育をおこなった。

1—2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 2 名 准教授 1 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：堤 研二、佐藤 廉也
准 教 授：井本 恭子
助 教：蔣 宏偉

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		24	0	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	1	0

*社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：5 名

1—3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：3 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文 （査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	3	0	0	0	3	2	0	5

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 1 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 1 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

堤 研二 教授

1960 年生。九州大学大学院文学研究科修士課程修了。文学修士 (九州大学、1986)・博士 (文学) (九州大学、2009)。佐世保工業高等専門学校助手・講師、島根大学法文学部講師・助教授、大阪大学文学研究科助教授・准教授を経て、2009 年 11 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。地域地理科学学会賞 (1997)、昭和シェル石油環境研究助成財団環境研究課題賞 (2005)、大阪大学 教育・研究功績賞 (2006)、大阪大学 総長顕彰 (研究部門) (2015)、大阪府スポーツ少年団功労者表彰 (2016)。専攻：人文地理学、とくに社会経済地理学

1. 論文

堤研二「縁辺地域論再考:山村・炭鉱閉山地域研究からの理論的射程」『地域政策研究』第 25 巻第 3 号, pp.23-41,査読無, 2023/2/28

堤研二「ポストアーバン時代と地域的スマートネス」『待兼山論叢(日本学篇)』第 56 巻, pp.55-70,査読無, 2022/12

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

堤研二, 他(分担執筆)『地理学事典』日本地理学会, 丸善出版, pp. 22-23 398-399, 2023/1

4. 口頭発表

堤研二「潮目が変わった!—新しい社会像と隠岐の島町のこれから—」おきゼミ, 隠岐の島町教育文化振興財団, 2023/3

堤研二「新たな都市農村関係と過疎地域:山村・離島・炭鉱閉山地域(2)」, 科学研究費(基盤研究B「地域の内発力の成立基盤に関する地理学的研究」)第 2 回研究集会, 科学研究費(基盤研究B「地域の内発力の成立基盤に関する地理学的研究」)研究グループ, 白バラビル(群馬県高崎市)(対面), 2022/7/18

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度~2022 年度、挑戦的(開拓・萌芽)研究、代表者:堤研二

課題番号:20K20725

研究題目:日本における空間秩序・基礎生存諸機能概念の地域計画への影響とその実践的応用

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【研究会等の活動】

AISC、ERIA (ASEAN) (共催), ワークショップ(シンポジウム・研究発表):Asian Inclusive Smart Cities in the Post Covid 19 Arena, 日本(オンライン), 2022/5/19

【国際共同研究】

Asian Inclusive Smart Cities, AISC, ERIA (ASEAN)

Marginal Areas, MARG

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

人文地理学会・理事, 2020 年 11 月~2022 年 11 月

Marginal Areas Research Group・代表, 2019 年 6 月~現在に至る

佐藤 廉也 教授

1967 年東京都生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程（地理学専修）中退。博士（文学）（京都大学、1999 年）。京都大学総合博物館助手、九州大学大学院比較社会文化研究院助教授（准教授）を経て、2015 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：人文地理学

1. 論文

池谷和信, 米家泰作, 佐藤廉也 「新たな焼畑像を探る—佐々木高明の研究を超えて」『季刊民族学』181, 公益財団法人 千里文化財団, pp. 92-107, 2022/7

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

佐藤廉也（書評）『米家泰作著(2019)『森と火の環境史—近世・近代日本の焼畑と植生』』地理学評論 第 95 巻第 3 号, pp.234-235, 2022/5

4. 口頭発表

佐藤廉也 「森の静かなゴールドラッシュ —エチオピア低地の森林における小規模金採掘現場の踏査行・速報—」, 福岡地理学会例会, 福岡地理学会, 九州産業大学(対面), 2023/1/22

原裕太, 佐藤廉也 「東アジア・中央アジアにおける CIA 運用 U-2 の偵察経路と頻度の推定—CIA 機密解除文書を用いた試行」, 日本地理学会秋季学術大会, 日本地理学会, 香川大学(対面), 2022/9/23

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2023 年度、挑戦的(開拓・萌芽)研究、代表者: 佐藤廉也

課題番号: 18K18539

研究題目: 系統解析手法を用いた知識の伝達・継承・変容・拡散に関する実証的研究

6-2. 2020 年度～2024 年度、基盤研究(A) 一般、代表者: 佐藤廉也

課題番号: 20H00046

研究題目: 20 世紀中期以降における焼畑と熱帯林の変容メカニズムの地域間比較研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

エチオピア・ガンベラ州における小規模金採掘の研究, Addis Ababa University(エチオピア)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本ナイル・エチオピア学会・評議員, 2015 年 4 月～現在に至る

井本 恭子 准教授

1963 年生。大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程（イタリア語学専攻）修了。文学修士（大阪外国語大学、1990）。大阪外国語大学外国語学部地域文化学科ヨーロッパ III 講座助手、講師、同助教授、同准教授を経て、2007 年 10 月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：人類学

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

蔣 宏偉 助教

2006年東京大学大学院医学系研究科修了、博士(保健学)。東京大学大学院医学系研究科特任助教、人間文化研究機構・総合地球環境学研究所特任助教を経て、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻:人文地理学、人類生態学、熱帯モンスーンアジア地域研究

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

田村典江, 蔣 宏偉, ハイン・マレー,(共著)『人新世の脱「健康」: 食・健康・環境のトリレンマを超えて』昭和堂, pp. 94-114
170-173, 査読無, 2022/5

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴 (2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2017年度～2022年度、基盤研究(C) 一般、代表者:蔣 宏偉
課題番号: 17K02061

研究題目:南中国と周辺地域における地域伝統知を中心とした持続可能開発モデルの共創

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

2022年4月より、アジア経済研究所共同研究・ワンヘルス研究の学際的アプローチ、研究会委員
2022年4月より、人間文化研究機構・総合地球環境学研究所、客員助教

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

日 本 語 学

I. 教育活動の現況

1—1. 教育活動の概要

【2022 年度】

1. 論文作成演習や専門分野全体の論文中間発表会をととして、専門分野内での議論を活性化した。
2. 引き続き、学部開講科目について、配当年次を明示した資料をガイダンス時に配布する等により、科目間の有機的なつながりが学生の目に明らかになるように配慮した。
3. 日本語学の基本的な知識や技能を幅広く習得できる講義を開講した。また、演習において、日本語や日本語教育をめぐるさまざまな言語的・社会的問題を自発的に発見し、初歩的な調査と分析を行ったり、参加型の授業で協働的学習を行ったりする機会を提供した。
4. コーパスの作成、言語データの分析、日本語教育実習等を取り入れた実践的な課題追求型の演習科目を開講し、指導を行った。フィールド調査は、コロナ禍の影響もあり実施できなかった。
5. 大学院生との共通演習を開講し、研究室内において調査・研究の手法等の教育が効果的に行われるようにした。

1—2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 5 名 准教授 2 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：石井 正彦、田野村忠温、渋谷 勝己、マシュー・バーデルスキー、三宅 知宏

准 教 授：高木 千恵、眞野 美穂

助 教：李 頌雅

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		50	0	0	0	2	0
留学生	国費	0	0	0	0	1	1
	私費	0	0	16	0	1	2

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部：14 名

1—3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学 (2022 年度)

学部：1 名

1―4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文（査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 （受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-4-3. 研究助成 （受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

なし

1―5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 （就職先など、数）

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	11	1	0	0	12	0	2	14

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1―6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2―1. 教員の研究活動

石井 正彦 教授

1958 年生。東北大学文学部卒、東北大学大学院文学研究科修了。博士（文学）（東北大学）。国立国語研究所研究員、同

室長、大阪大学文学研究科准教授を経て、2009 年 4 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：現代日本語学

1. 論文

石井正彦「現代新聞における語結合の慣用化」『阪大日本語研究』35, 大阪大学大学院人文学研究科基盤日本語学講座, pp. 1-26, 2023/2

石井正彦「現代新聞語彙における副用語の“非基本語化”—使用率減少と散布度増加の関係からみた量的類型—」『現代日本語研究』14, 大阪大学大学院人文学研究科基盤日本語学講座現代日本語学研究室, pp. 44-60, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

石井正彦「現代新聞における語結合の慣用化—記事データベースを用いた時事的な動詞句の調査から—」第 397 回日本近代語研究会 2022 年度秋季発表大会, 日本近代語研究会, オンライン, 2022/11/5

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本語学会・評議員, 2009 年 6 月～現在に至る

田野村 忠温 教授

1958 年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程学修退学（言語学専攻）。文学修士（京都大学、1984）。奈良大学文

学部講師、大阪外国語大学外国語学部講師、同助教授、同教授、大阪大学大学院文学研究科教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：言語学・日本語学

1. 論文

田野村忠温 「『海国図志』版問題新論——従来未知の版区別の発見とその含意——」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 巻, pp.115-143, 査読無, 2023/2/28

田野村忠温 「『海録』諸版の系譜」, 『或問』第 42 号, pp.1-16, 査読無, 2022/12/30

田野村忠温 「清代欧洲诸语言词典、学习书籍中的注音方式——音节结构的处理(冯珏译)」, 孙伯君・麻晓芳主编『“译音对勘”的材料与方法』, pp.375-388, 査読無, 2022/9

田野村忠温 「音訳と意識——概念の体系化と歴史——」, 『或問』第 41 号, pp.141-160, 査読無, 2022/6/30

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

田野村忠温 「「電視」の由来——翻訳新語研究の盲点——」, 関西大学 KU-ORCAS 研究集会(言語交渉研究班), 関西大学 KU-ORCAS(アジア・オープン・リサーチセンター), 関西大学(ハイブリッド), 2023/3/10

田野村忠温 「『海国図志』版問題新論」, 関西大学 KU-ORCAS 研究例会(東西学術研究所研究例会)(言語交渉研究班), 関西大学 KU-ORCAS(アジア・オープン・リサーチセンター), 関西大学(ハイブリッド), 2022/12/17

田野村忠温 「『海録』諸版とその系譜」, 関西大学 KU-ORCAS 研究例会(東西学術研究所研究例会)(言語交渉研究班), 関西大学 KU-ORCAS(アジア・オープン・リサーチセンター), 関西大学(ハイブリッド), 2022/10/28

田野村忠温 「「接種」の語史——種痘関連用語の生成と消長——」, 東アジア文化交渉学会第 14 回国際学術大会, 東アジア文化交渉学会, 啓明大学校(ハイブリッド), 2022/5/8

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:田野村忠温

課題番号:18K00535

研究題目:コーパス日本語研究の高度化と多面化のための総合的研究—語史研究への応用を中心に—

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

渋谷 勝己 教授

1959 年生。東京外国語大学大学院外国語学研究科日本語学専攻修了、大阪大学大学院文学研究科日本学専攻中退。学術博士（大阪大学）。梅花女子大学講師、京都外国語大学助教授、大阪大学文学研究科准教授等を経て、2009 年 4 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本語学

1. 論文

渋谷勝己「言語間の格差」『井上史雄・田邊和子編『社会言語学の枠組み』くろしお出版, pp.45-62, 査読無, 2022/11/25

渋谷勝己「スタイルを組み込んだ文法研究—ことばに働く2つの力に注目して—」『日本語文法』第 22 巻第 2 号, pp.121-136, 査読有, 2022/9/30

渋谷勝己「ボトムアップの標準化」高田博行・堀田隆一・田中牧郎編『言語の標準化を考える—日中英独仏「対照言語史」の試み—』大修館書店, pp.38-61, 査読無, 2022/5/12

Shibuya, Katsumi “Language, economy, and nation.”, Asahi, Y., M. Usami and F. Inoue (eds.) *Handbook of Japanese Sociolinguistics*, Berlin: Mouton de Gruyter, pp.629-652, 査読無, 2022/4/4

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本語学会・評議員, 2009 年 6 月～現在に至る

マシュー・バーデルスキー 教授

1967 年生。2006 年カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 大学院東アジア言語文化科 PhD 修了。カリフォルニア州立大学ロングビーチ校非常勤講師、スワスモア大学 (米ペンシルバニア州) 客員助教授・メロン財団ポストドックフェロー、同准教授を経て、2011 年 10 月大阪大学文学研究科准教授、2015 年 4 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本語学

1. 論文

BURDELSKI, Matthew, Cekaite Asta(共著) “Practices of peer inclusion: Recruitments to play in Swedish and Japanese preschools (with A. Cekaite)” *Research on Children and Social Interaction* 第 6 巻第 1 号, pp.30-64, 査読有, 2022/10

2. 著書（単著・編著）

BURDELSKI, Matthew, Takei, Noriko (共著) ““He’s not Aussie Aussie”: Membership categorisation in storytelling among family members and peers” A. Filipi, B. T. Ta. & M. Theobald, (Eds.) *Storytelling practices in home and educational contexts: Perspectives from conversation analysis*, Springer, pp. 375-401, 2022/7/1

BURDELSKI, Matthew, “Socialization” Church, A. & Bateman, A., (Eds.) *Talking with children: A handbook of interaction in early childhood education*, Cambridge University Press, pp. 120-141, 2022/6/30

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

BURDELSKI, Matthew “Interpersonal touch with preschool children: Guided walking in (sub)urban settings”, The Importance of touch during the time of COVID, <https://commstudies.utexas.edu/conferences/international-symposium-touch>, テキサス大学オースチン校(対面), 2022/9/24

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

Language in Japan・Advisory Board, 2022 年 7 月～現在に至る

三宅 知宏 教授

1965 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程退学。博士(文学) (大阪大学)。鶴見大学専任講師，同准教授，同教授を経て，2016 年 4 月より大阪大学文学研究科准教授。2019 年 1 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本語学・言語学

1. 論文

三宅知宏「日本語の否定対極表現とアクセント（Ⅱ）ー最小表現の数詞“1”を含む名詞句に助詞“も”が後接する場合ー」『現代日本語研究』第 14 号, pp.1-14, 査読無, 2022/12

三宅知宏「日本語の否定対極表現とアクセント（Ⅰ）ー「不定語」に助詞“も”が後接する場合ー」『待兼山論叢 日本学篇』第 56 号, pp.1-17, 査読無, 2022/12

三宅知宏「日本語の「補助動詞」と「文法化」・「構文」」『岸本秀樹・于康（編）日語語法研究（下）』, pp.192-217, 査読無, 2022/11

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴((2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本語文法学会・副会長, 2022 年 4 月～現在に至る
関西言語学会・編集委員, 2020 年 6 月～2022 年 5 月
日本語文法学会・運営委員, 2019 年 4 月～現在に至る
関西言語学会・運営委員, 2017 年 4 月～現在に至る
日本語学会・評議員, 2015 年 4 月～現在に至る
日本語文法学会・評議員, 2013 年 4 月～現在に至る

高木 千恵 准教授

1974 年生まれ、大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻修了、博士（文学）。神戸松蔭女子学院大学非常勤講師、京都光華女子大学非常勤講師、関西大学専任講師、同准教授を経て、2010 年 10 月より大阪大学文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：社会言語学・方言学

1. 論文

高木千恵「大阪方言のトの分析—引用のト、条件のト、付帯状況の—ント—」『阪大社会言語学研究ノート』第 19 号, pp.58-75, 査読無, 2023/2

Nakane, Ikuko, Kaori Okano, Claire Maree, Chie Takagi, Lidia Tanaka, and Shimako Iwasaki. “Varying orientations to sharing life stories: A diachronic study of Japanese women’s discourse.” *Language in Society*, 第 51 巻第 4 号, pp. 577-602, 2022/9

2. 著書（単著・編著）

高木千恵(共著) 『地図で読み解く関西のことば』昭和堂, pp.161-177, 2022/4/25

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

高木千恵「モダリティ:推量表現の記述の枠組み」, 方言文法研究会研究例会 2023,方言文法研究会(オンライン), 2023/3/27

高木千恵「場面別にみる大学生の多言語環境—ウェブアンケート調査から—」, 言語管理研究会「多言語社会と言語問題シンポジウム 2022-2023」, 言語管理研究会, 千葉大学(ハイブリッド), 2023/3/26

高木千恵「大学生の受動的な言語接触—「見せる調査」「聞かせる調査」の結果から—」, 多言語化現象研究会 第 81 回研究発表会,多言語化現象研究会(オンライン), 2023/1/8

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

Thirty Years of Talk: A Longitudinal Study of Language Variation in Kobe Ethnographic Interview Discourse (1989–2019), メルボルン大学・フトロブ大学・モナシュ大学(オーストラリア)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本方言研究会・世話人, 2021 年 5 月～現在に至る

日本語文法学会・学会誌委員, 2019 年 4 月～現在に至る

眞野 美穂 准教授

1977 年生。神戸大学大学院文化学研究科修了。博士（学術）。関西看護医療大学専任講師、鳴門教育大学専任講師、同准教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：日本語学

1. 論文

眞野美穂「数量詞を含む同格構造についての再検討—同格名詞句との比較から—」『現代日本語研究』第 14 号, pp.15–27, 査読無, 2022/12

Yo Matsumoto, Kimi Akita, Miho Mano 他 “Chapter 3. Linguistic representations of visual motion,” L. Sarda & B. Fagard (eds.) *Neglected Aspects of Motion–Event Description. John Benjamins*, pp. 43–67, 査読有, 2022/7

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

Yo Matsumoto, Badema, Miho Mano 他 “Types of caused motion events and the patterns of their linguistic representations,” The 14th conference of the Association for Linguistic Typology, The Association for Linguistic Typology, The University of Texas at Austin(ハイブリッド), 2022/12/15

眞野美穂「名詞述語文による事象叙述」, 日本言語学会 第 164 回大会, 日本言語学会(オンライン), 2022/6/19

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:眞野美穂

課題番号:18K00615

研究題目:日本語名詞の意味機能と統語的特性:同格名詞句と文法化現象からの検証

6-2. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:眞野美穂

課題番号:21K00761

研究題目:第二言語学習者の様態副詞の使用についての多角的分析:英語・日本語を対象に

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本語文法学会・学会誌委員, 2022 年 4 月～現在に至る

関西言語学会・オンライン開催実行委員, 2022 年 3 月～2022 年 6 月

関西言語学会・大会委員, 2021 年 4 月～2023 年 3 月

李 頌雅 助教

1990 年生。2021 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程(文化表現論専攻)修了。博士(文学)(大阪大学、2021 年)。
2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻:日本語学／日本語教育学／語用論。

1. 論文

李頌雅「日本語のチューター活動における訂正－会話分析の観点からの一考察－」『阪大日本語研究』第 35 巻, pp.27-56,査読
無, 2023/2/28

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

李頌雅「能楽稽古のマルチモーダル会話分析—能楽師による仕舞の説明及び生徒の反応に着目して—」『社会言語科学会第47回大会発表論文集』, pp.91-94, 査読無, 2023/3

4. 口頭発表

李頌雅「能楽稽古のマルチモーダル会話分析—能楽師による仕舞の説明及び生徒の反応に着目して—」, 第47回社会言語科学会研究大会, 社会言語科学会, 東京国際大学(対面), 2023/3/18

李頌雅「能楽の稽古場面における指導行動のマルチモーダル会話分析: 指導者はどのように身体動作の訂正を行うのか」, 日本語用論学会第25回大会, 日本語用論学会, 京都大学(ハイブリッド), 2022/11/26

5. 受賞歴（2022年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

日本文学・国語学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

日本文学

■学部：卒業論文発表会を 2022 年 10 月に実施した。日本文学・国語学専修のうち日本文学 24 名の学生が卒論を提出した。ポスター掲示、メーリングリストその他の手段を通じて、展示会・学外研究会等の情報を広く周知した。授業形態においては、学部・大学院共通の講義を設定し、学部演習への大学院生の参加を促した。

国語学

■学部：卒業論文発表会を 2022 年 10 月に実施した。日本文学・国語学専修のうち国語学 1 名の学生が卒論を提出した。ポスター掲示、メーリングリストその他の手段を通じて、展示会・学外研究会等の情報を広く周知した。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 4 名 准教授 2 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：岡島 昭浩、滝川 幸司、斎藤 理生、岸本 恵実

准 教 授：渡邊 英理、勢田 道生

助 教：市地 英

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		62	0	0	0	2	0
留学生	国費	0	0	0	0	2	0
	私費	0	0	0	0	0	4

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部：11 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学 (2022 年度)

学部：0 名

1-4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	3	1	1	0	5	4	2	11

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

岡島 昭浩 教授

1961 年生。1987 年、九州大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学修士（九州大学、1986 年）。九州大学文学部助手、京都府立大学女子短期大学部講師・助教授、福井大学教育学部（教育地域科学部）助教授、大阪大学文学研究科助教授・准教授を経て 2010 年同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：国語史・日本語学史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2023 年度、挑戦的(開拓・萌芽)研究、代表者:岡島昭浩

課題番号:20K20698

研究題目:過去の速記原本を可読化するための日本語速記史の研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

訓点語学会・委員, 2017 年 8 月～現在に至る

日本語学会・評議員, 2009 年 6 月～現在に至る

国語文字史研究会・委員, 2008 年 4 月～現在に至る

国語語彙史研究会・委員, 2003 年 4 月～現在に至る

滝川 幸司 教授

1969 年生。1998 年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）（大阪大学）。1998 年奈良大学文学部専任講師、2003 年同助教授、2007 年同准教授、2013 年同教授、2015 年京都女子大学文学部教授。2019 年 10 月大阪大学

大学院文学研究科教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：平安文学

1. 論文

滝川幸司「千頼集序をめぐって」『詞林』第 72 号, pp.1-21, 査読無, 2022/10/1

滝川幸司「発心和歌集序試読―選子内親王作者説をめぐって―」『中古文学』第 109 号, pp.85-99, 査読有, 2022/5/1

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

滝川幸司(インタビュー)「菅原道真の生涯について」『歌劇』第 1169 号, pp.91-93, 2023/2/5

滝川幸司(コメント)「とちぎ日曜歴史館・国司菅原道真について」『読売新聞・栃木版』, pp.26-26, 2022/8/7

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:滝川幸司

課題番号:21K00305

研究題目:日本古代の大学の学問に関する基礎的研究―9、10 世紀の大学寮紀伝道を中心に―

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

和歌文学会・編集委員, 2018 年 11 月～2022 年 10 月

中古文学会・委員, 2015 年 6 月～現在に至る

和漢比較文学会・論集編集委員, 2011 年 10 月～2022 年 9 月

和歌文学会・委員, 2006 年～現在に至る

和漢比較文学会・常任理事, 2003 年 10 月～現在に至る

中古文学会関西支部会・委員, 2002 年～現在に至る

齋藤 理生 教授

1975 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）（大阪大学、2004 年）。群馬大学教育学部講師、同准教授を経て、2014 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科准教授、2021 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本近現代文学

1. 論文

齋藤理生「『資料紹介』「朝日新聞」大阪版および東京版におけるコント（一九五〇—一九五一）」『阪大近代文学研究』第 21 号，pp.68-78，査読無，2023/3/30

齋藤理生「『全集未収録エッセイ三篇 萩原朔太郎 千恵蔵の成功／最近に於ける文化問題の基因／風流惻隠の情』」萩原朔太郎研究会会報 SAKU』第 87 号，pp.85-94，査読無，2022/10

齋藤理生「被占領下の『大和古寺風物誌』—プランゲ文庫所蔵本の痕跡から—」『国語国文』第 91 巻第 6 号，pp.1-18，査読有，2022/6

齋藤理生「資料紹介「豆自傳」」『三島由紀夫研究』第 22 号，pp.129-130，査読無，2022/4

2. 著書（単著・編著）

飯田祐子，石川巧，齋藤理生，他（分担執筆）『文学研究の扉をひらく 基礎と発展』ひつじ書房，pp. 97-113，2023/2

齋藤理生，松本和也，水川敬章 他（共編著）『卒業論文マニュアル 日本近現代文学編』ひつじ書房，pp. 7-14. 88-105，202-205，2022/10

齋藤理生（単独編集）『織田作之助新聞小説コレクション』創元社，（担当：オダサクー一九四六一京都・大阪・新聞小説）pp.285-295，2022/9

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

齋藤理生「『定本横光利一全集』未収録文章集成解題（「穴居の生活」「永久の勝利へ 征戦第二年の想念）」」『横光利一研究別冊』，pp. 67-67, 70-70，2023/3

齋藤理生（ラジオ）「“ダザイって、めっちゃ笑えるな”！ 教科書に載らないほうの太宰治入門」『TBS ラジオ・アフター6 ジャンクション』，2022/11/15

4. 口頭発表

齋藤理生「「中京新聞」文藝欄と新延修三あるいは藤澤恒夫の人的交流—「原子小説」を中心に」，新聞小説を考える会・2022 年度春季共同研究会 1920-40 年代の新聞小説・新聞媒体，新聞小説を考える会，立教大学（対面），2023/3/22

齋藤理生「「ニュース小説」という試み—「時事新報」・大宅壮一・武田麟太郎」，新聞小説を考える会・2022 年度夏季共同研究会 新聞小説の複合的考察，新聞小説を考える会（オンライン），2022/9/7

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況（研究代表者となったもの）

6-1. 2022 年度～2026 年度、基盤研究(C) 一般、代表者：齋藤理生

課題番号：22K00293

研究題目：昭和期における掌篇（コント）の研究—新聞掲載作品を中心に

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

国文学研究資料館・国際連携委員, 2020 年 4 月～現在に至る

日本近代文学会・評議員, 2018 年 4 月～現在に至る

昭和文学会・幹事, 2016 年 5 月～現在に至る

岸本 恵実 教授

1972 年生。2000 年、京都大学大学院文学研究科国語学国文学専修博士後期課程研究指導認定退学。博士（文学）（京都大学、2003 年）。大阪外国語大学助手・講師・助教授、国際基督教大学准教授、京都府立大学准教授、2017 年 4 月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より大学院人文学研究科 現職。専攻：国語学

1. 論文

岸本恵実 「「奉教人の死」「きりしとほろ上人伝」の外来語表記」『芥川龍之介研究』第 16 号, 国際芥川龍之介学会事務局, pp.1-15, 査読有, 2022/12/25

岸本恵実 「明治初期パリ外国宣教会の語学書・エヴラール『日本語教程』(1874)研究序説」『語文』第 119 巻, 大阪大学国語国文学会, pp.78-92, 査読無, 2022/12/10

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

岸本恵実(Web 記事)「宣教師が翻訳した和歌—キリシタン版『日葡辞書』と幕末のフユレ神父—」, グローバル日本学教育研究拠点 2023 年コラム, <https://www.gjs.osaka-u.ac.jp/column/2023/2217/>, 2023/3/6

岸本恵実 「フラヌール第 4 回 日本書誌」『季刊永青文庫』119, pp. 34-34, 2023/1/14

4. 口頭発表

岸本恵実 「版本『サントスのご作業』の「¶」(ピルクロウ)と「;」(セミコロン)」, 第 17 回キリシタン語学研究会, キリシタン語学研究会 (オンライン), 2023/3/20

Kishimoto, Emi, “Translation of Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum (1595)”, GUEST LECTURE, ハイデルベルク大学 日本学研究所・東アジア研究センター, ハイデルベルク大学(対面), 2022/11/30

岸本恵実 「キリシタン文献の用語について」, GASTVORTRAG IN JAPANISCHER SPRACHE, ハイデルベルク大学日本学研究

所・東アジア研究センター，ハイデルベルク大学(対面)，2022/11/29

岸本恵実 “THE INFLUENCE OF THE VOCABULARIO DA LINGOA DE IAPAM IN PORTUGUESE DICTIONARIES”, MINI ENCONTRO DOS ALUNOS DE PÓS-GRADUAÇÃO EM HISTORIOGRAFIA LINGÜÍSTICA 2022, Centro de Documentação em Historiografia Linguística (CEDOCH-USP), サンパウロ大学(オンライン), 2022/11/8

岸本恵実 「明治初期パリ外国宣教会の語学書・エヴラール『日本語教程』(1874)の人称代名詞について」, 第 16 回キリシタン語学研究会, キリシタン語学研究会(オンライン), 2022/8/20

岸本恵実 「明治初期パリ外国宣教会の語学書—エヴラール『日本語教程』(1874)について—」, 第 394 回日本近代語研究会, 日本近代語研究会(オンライン), 2022/7/23

Kishimoto, Emi, “Inconsistencies in the Translation of the Latin-Portuguese-Japanese Dictionary (1595)”, International Conference on Historical Lexicography and Lexicology 2022, International Society for Historical Lexicography and Lexicology, I’ENSIBS(ハイブリッド), 2022/6/22

岸本恵実 「キリシタン文献を読む(シンポジウム「文献資料を読む —中世語研究の継承と展開—」)」, 日本語学会 2022 年度春季大会, 日本語学会(オンライン), 2022/5/15

岸本恵実 「キリシタン時代における「Pastor(羊飼い)」の翻訳」, キリシタン科研総括研究会／キリシタン学研究会再開第 1 回研究会, 「近世日本のキリシタンと異文化交流」【2017～2020 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(一般)17H02392)】(オンライン), 2022/4/17

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:岸本恵実

課題番号: 19K00626

研究題目:知識受容の面からみたキリシタン対訳辞書の研究

6-2. 2022 年度～2023 年度、特別研究員奨励費、代表者:岸本恵実

課題番号: 22KF0233

研究題目:西洋宣教言語学から見た琉球語の音韻・語彙の研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

キリシタン語学研究会世話役

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

国語語彙史研究会・委員, 2018 年 5 月～現在に至る

渡邊 英理 准教授

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得後満期退学。博士(学術)(東京大学、2012年)。宮崎公立大学人文学部准教授、静岡大学人文社会科学部准教授などを経て、2021年4月より大阪大学大学院文学研究科准教授、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻:近現代日本語文学、批評

1. 論文

渡邊英理「耳の聞こえぬ蛇——中上健次『蛇姫』」『翻訳の文化／文化の翻訳』第18号, pp.35-39, 査読無, 2023/3/31

渡邊英理「道を「仮設」する——石牟礼道子『椿の海の記』を読む」『日本文学』第72巻第3号, pp.50-54, 査読無, 2023/3/10

渡邊英理「連なり越えゆく世界を感受する」『語文』第118号, pp.12-27, 査読無, 2022/6/30

2. 著書 (単著・編著)

渡邊英理, 青山真治, 阿部和重 他(共著)『青山真治——アンフィニッシュドワークス』河出書房新社, pp.53-62, 2023/3/30

大澤真幸, 鹿島茂, 渡邊英理他(共著)「希望の現実化のために」『文學界』2023年2月号, 文藝春秋, pp. 216-221, 2023/1/7

斎藤理生, 松本和也, 渡邊英理他(共著)『卒業論文マニュアル』ひつじ書房, pp.106-123, 2022/10/25

蓮實重彦, 島田雅彦, 渡邊英理他(共著)「胡同と路地」『文學界』2022年9月号, 文藝春秋, pp.152-153, 2022/8/6

渡邊英理(単著)『中上健次論』インスクリプト, 520p., 2022/7/8

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

渡邊英理(新聞記事)「大江健三郎の時代(上)」大江健三郎氏の逝去に際し、大江文学の意義を語る。作家・井上荒野氏とともに識者のコメントとして掲載、『共同通信』, 京都新聞, 上毛新聞ほか全国各紙に配信, 4面, 2023/3/15

渡邊英理(インタビュー記事)「開発から地方を捉え直す」拙著『中上健次論』著者インタビュー、中上文学の現代的意義などを語る, 『南日本新聞』2023年3月10日号, 10面, 2023/3/10

渡邊英理(巻頭対談)「中上健次を「いま」読む意義」大妻女子大学教授・内藤千珠子氏との対談, 『図書新聞』3565号, 1面, 2022/11/5

渡邊英理(新聞記事)「かけがえのない読書体験——渡辺京二発言集「幻のえにし」「肩書のない人生」評」『図書新聞』3549号, 8面, 2022/7/2

渡邊英理(分担執筆)『占領期地方総合文芸雑誌事典』金沢文圃閣, 担当範囲:鹿児島県・奄美群島(単独執筆)、静岡県(副田賢二氏と共著), 2022/6

紅野謙介, 五味渕典嗣, 渡邊英理他(項目執筆)『日本近代文学大事典』増補改訂デジタル版(ジャパナレッジ), 公益財団法人日本近代文学館, 講談社, 項目:干刈あがた, 2022/6/1

4. 口頭発表

渡邊英理「没後30年 中上健次をとらえなおす」, 没後30年 中上健次をとらえなおす, 近畿大学文芸学部, 近畿大学文芸学部(ハイブリッド), 2023/1/17

渡邊英理「小説とポストヒューマニティ——中上健次の「思想文学」」, ワークショップ:小説をよみとく、思想を読みとる, 國學院大学文学部共同研究費「文学と哲学」, 國學院大学(オンライン), 2022/12/24

渡邊英理「差別(論)と文学」, 日本社会文学会 2022年秋季大会 特集シンポジウム・差別と文学, 日本社会文学会, 岡山就実大学(ハイブリッド), 2022/10/29

渡邊英理「中上健次のポストヒューマン思想——歴史と小説のポストヒューマニティ」, 2022年度立命館大学国際言語文化研究所 連続講座 人間と人間でないものの相互作用, 立命館大学言語文化研究所, 立命館大学(ハイブリッド), 2022/10/14

渡邊英理「文学的言語が開く世界——虚構・「仮設」・「現場性」」, 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)第5回研究

者フォーラム「研究者が/AI が/私が“言葉”で描く世界とは」, 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI), 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI) (ハイブリッド), 2022/9/29

渡邊英理 「道を「仮設」する——中上健次をめぐる」, 道を「仮設」する, 書肆侃侃房, 本のあるところ ajiro (ハイブリッド), 2022/9/23

渡邊英理 「『中上健次論』を書く」, 10 年後の博論審査会, インスクリプト, 大阪大学 (ハイブリッド), 2022/9/4

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2025 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 渡邊英理

課題番号: 21K00263

研究題目: 戦後日本の「(再)開発文学」研究: ジェンダー・脱人間主義・世界化の視座を中心に

5-7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

第 5 回森崎和江研究会「森崎和江と『闘いとエロス』を読み継ぐ」 2022 年 7 月 30 日 大阪大学豊中キャンパス

国際日本学教育研究拠点共催

国際ワークショップ「帝国／ポスト帝国の境界と表象」 2022 年 12 月 19 日 大阪大学豊中キャンパス

GJS リサーチワークショップ 2023 年 1 月例会「「在日」文学再考——作家・温又柔さんを迎えて」 2023 年 1 月 22 日, 23 日 大阪大学豊中キャンパス 国際日本学教育研究拠点主催

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

昭和文学会・幹事, 2022 年 4 月～現在に至る

日本近代文学会・評議員, 2022 年 4 月～現在に至る

昭和文学会・編集委員会委員, 2020 年 8 月～2022 年 8 月

勢田 道生 准教授

1980 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。博士（文学）（大阪大学、2011 年）。大阪大学大学院文学研究科助教、日本学術振興会特別研究員(PD)、大阪大学大学院文学研究科特任講師（常勤）を経て、2017 年 10 月同准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科現職。（2022 年 9 月退職）。専攻：日本中近世文学

1. 論文

なし

2. 著書

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

市地 英 助教

1990 年生。2020 年、大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻博士後期課程修了、博士(文学)。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻: 日本語史学／日本語学。

1. 論文

市地英 「言語資料としての『西籍概論』諸本—ジャ・ダの使用傾向と改変—」『語文』第 118 号, pp.28-43, 査読有, 2022/6/30

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

比較文学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

講義・演習では、主として英語圏と近代日本の資料を使用し、適宜、現代の大衆文化の事例に言及しながら、比較文学の基礎から応用までの教育を行った。その際には、文学批評の基本概念と応用の習得を徹底した。学部生向けの授業でも英書を中心に外書講読の演習を必ず受講するよう奨励した。学部・大学院ともに口頭発表と論文をできるかぎり各受講生同士で論評するよう徹底させ、質疑応答の練習を行った。また博士論文作成演習の一部を延長して、その後半部分で卒業論文作成演習を合同で行い、基礎的な技術や知識の共有とともに、院生の指導能力の涵養に努めた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 1 名 准教授 1 名 講師 0 名 助教 0 名

教 授：橋本 順光

准 教 授：鈴木 暁世

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		12	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	1	2

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部：3 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学 (2022 年度)

学部：0 名

1-4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1) 論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

なし

(2)口頭発表

新城大地「『映像地獄』から歴史を叙述するー『ワールドトリガー』と『マイノリティ・レポート』における「未来」というサスペンスー」, 阪大比較文学会シンポジウム「描写の戦略と分析 メディアを横断する表象の力学」,阪大比較文学会,大阪大学豊中キャンパス（対面）, 2023/1/30

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受賞（受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-4-3. 研究助成（受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

なし

1ー5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路（就職先など、数）

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	2	0	0	0	2	1	0	3

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1ー6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2ー1. 教員の研究活動

橋本 順光 教授

1970 年生。大阪大学文学部英文学専攻卒業（1994）、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究修士課程修了（1997）、ランカスター大学大学院歴史研究科博士課程修了 Ph.D.,（2008）。2000 年 4 月より日本学術振興会特別研究員（DC2）。2001 年 4 月横浜国立大学教育人間科学部講師、2009 年 4 月大阪大学文学研究科准教授、2019 年 4 月同教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：比較文学・英国地域研究

1. 論文

Hashimoto, Yorimitsu, “Botanical Japonisme: Japanese Gardens, Plant Nurseries, and Watercolour Paintings” *Studies in Japonisme*

第 42 巻, pp.126-131, 査読無, 2023/3/31

橋本順光 「植物のジャポニスムー庭園・植木会社・水彩画をめぐる研究とその課題」『ジャポニスム研究』第 42 巻, pp.118-125, 査読無, 2023/3/31

橋本順光 「芸術家としての蜘蛛の系譜ー蜘蛛の巣という小宇宙をめぐる詩作の比較文学」『稲賀繁美 編『蜘蛛の巣上の無明 インターネット時代の身心知の刷新にむけて』花鳥社』第巻第号, pp.3-12, 査読無, 2023/2/28

橋本順光 「1920 年代東京における国際主義とアジア主義の交錯 エスペラント・神智学・バハイ 付・英国のエージェント H・P・シャストリの孫文面会記とその翻訳」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 62 巻, pp.145-166, 査読無, 2023/2/23

橋本順光 「透明人間現る 隠れる物語から露わにする物語まで」『一柳廣孝・大道晴香編著『怪異と遊ぶ』青弓社』, pp.156-191, 査読無, 2022/4/27

橋本順光 「朝顔をめぐる英語圏のジャポニスム ガーデニングから禅まで」『ジャポニスム学会編『ジャポニスムを考える』思文閣出版』, pp.204-229, 査読無, 2022/4/15

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

橋本順光 「蜘蛛の巣越しの空ー天空を覆う蜘蛛と電線の図像学」稲賀繁美 編『蜘蛛の巣上の無明 インターネット時代の身心知の刷新にむけて』, 花鳥社, pp.115-121, 2023/2

橋本順光 (監訳) 「ニール・ファーガソン『社会ネットワークで変化した世界』[Networld]全 3 巻」, 丸善出版(DVD)全 3 巻, 2022/12

橋本順光 「松村昌家著『水晶宮物語』の余白に ヴィクトリア朝文化研究の基点と展望」『ヴィクトリア朝文化研究』, 第 20 号, pp.7-13, 2022/11

橋本順光 「分断を統合する陶磁器ーインドの陶芸家グルチャラン・シンと『愛の不時着』」『紫明』第 51 号, pp.68-74, 2022/10

橋本順光 「五十殿利治『久米民十郎 モダニズムの岐路にたつ「霊媒派」』せりか書房 2022 書評」『図書新聞』2022/9/10 日号, 2022/9/10

橋本順光 「アンケート「ジャポニスムとはなにか？」」『ジャポニスムを考える』, pp. 311-313, 2022/4/15

4. 口頭発表

橋本順光 「物語としての義経ジンギスカン説 明治から令和まで」, 講演, 狭山市熟年大学, SAYAKA ホール(対面), 2023/3/16

橋本順光 「蜘蛛の巣越しの空をめぐる図像学ー手塚治虫の「女郎蜘蛛」(1971)のために」, 阪大比較文学会学位論文発表会, 阪大比較文学会, 大阪大学(対面), 2023/2/15

橋本順光 「ブラック・ジャックの「アリの足」精読」, はんだいラボ@EXPOCITY Lab 漫画を読んで読解力をつけよう, 大阪大学大学院比較文学研究室, EXPOCITY(対面), 2023/2/5

橋本順光 「ブラック・ジャックの「ピノコ再び」精読」, はんだいラボ@EXPOCITY Lab 漫画を読んで読解力をつけよう, 大阪大学大学院比較文学研究室, EXPOCITY(対面), 2023/2/5

橋本順光 「蜘蛛としての芸術家の肖像ーディキンソンから山頭火まで」, 阪大比較文学会シンポジウム「描写の戦略と分析 メディアを横断する表象の力学」, 阪大比較文学会, 大阪大学(対面), 2023/1/30

橋本順光 「英国エージェントの孫文面会記ー上海における H・P・シャストリの諜報と広報の活動」, 阪大比較文学会シンポジウム「戦中戦後東アジアの文芸空間の諸相をめぐる」, 阪大比較文学会, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/1/23

Hashimoto, Yorimitsu, “Japanese Migrants and the A. K. Hasheem Company at Colombo: Tourists, Pan-Asianists, and Immigration to Brazil”, 第 114 回 Global History Seminar, 大阪大学大学院文学研究科グローバルヒストリー・地理学コース,

大阪大学(ハイブリッド), 2022/12/23

Hashimoto, Yorimitsu, “Palimpsest Pirates: Modern Japan’s Piracy of British Maritime Culture and Nautical Narrative”, XXIII International Congress of the ICLA, International Comparative Literature Association (ICLA), Tbilisi State University (ハイブリッド), 2022/7/26

Hashimoto, Yorimitsu, “Piracy or Pastiche? Comparative Literature to (un)think about Pirates in Japan”, XXIII International Congress of the ICLA, International Comparative Literature Association (ICLA), Tbilisi State University (ハイブリッド), 2022/7/25

橋本順光「北極海航路をめぐる幻想と現状」, 講演, 大阪府北部コミュニティカレッジ(ONCC), 豊中市立文化芸術センター(対面), 2022/6/28

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:橋本順光

課題番号:21K00455

研究題目:近代日本の海洋文化振興における英国モデル転用についての比較文学的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

- ・近代における日本タイ交流史研究, チュラーロンコーン大学(タイ)
- ・トランスメディアの比較文学研究, ラクィラ大学(イタリア)
- ・インド初の陶芸家グルチャラン・シン(Gurcharan Singh)についてのドキュメンタリー映画作成, デリー・ブルー陶磁器トラスト(Delhi Blue Pottery Trust)(インド)
- ・ヨーロッパと日本における世界漫遊(1869-1914)についての研究, ジュネーブ大学(スイス)
- ・日本と韓国の比較文学研究に関する共同研究とワークショップ開催, 淑明女子大学校(韓国)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

ジャポニスム学会・理事, 2021 年 5 月～現在に至る

日本ヴィクトリア朝文化研究学会・副会長, 2020 年 4 月～現在に至る

日本比較文学会・国際活動委員, 2013 年 5 月～現在に至る

鈴木 暁世 准教授

1977 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。大阪大学文学研究科助教、V&A（ロンドン）客員研究員、福岡女子大学専任講師、金沢大学准教授を経て、2020 年 4 月より大阪大学文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：日本近代文学、比較文学

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

乾 英治郎, 小松 史生子, 鈴木暁世他(共著)『〈怪異〉とミステリ：近代日本文学は何を「謎」としてきたか』青弓社, pp. 75-95, 2022/12

John FitzGerald, Richard J. Kelly, Suzuki, Akiyo他(共著) *Ireland-Japan Connections and Crossings* Cork University Press, Atrium, pp. 75-95, 2022/12

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

鈴木暁世(書評)「中川成美・西成彦編著『旅する日本語—方法としての外地巡礼』」『昭和文学研究』第 86 巻, pp.133-135, 査読無, 2023/3/20

4. 口頭発表

鈴木暁世「ナショナリズムとノスタルジー—戦後日本における「ケルト」受容再考—」, 戦中戦後東アジアの文芸空間の諸相をめぐって, 大阪大学比較文学会, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/1/23

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:鈴木暁世

課題番号: 18K00314

研究題目:戦中戦後期農民文学の展開と変容の研究—アイルランド文学と東アジアとの関係を軸に

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

近代日本文化とアイルランド研究会（科研費 基盤研究(C)代表者：鈴木暁世 研究題目：戦中戦後期農民文学の展開と変容の研究—アイルランド文学と東アジアとの関係を軸に）を年 2 回のペースで開催。

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本近代文学会・評議員, 2022 年 4 月～現在に至る

国際芥川龍之介学会・運営委員, 2021 年 4 月～現在に至る

日本近代文学会・運営委員, 2021 年 2 月～2023 年 2 月

日本文学協会・運営委員, 2021 年 1 月～現在に至る

日本アイランド協会・理事、編集委員長, 2020 年 4 月～現在に至る

日本比較文学会関西支部・幹事, 2020 年 1 月～現在に至る

金沢大学国語国文学会・理事, 2014 年 4 月～現在に至る

中国文学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

演習においては、基礎的な語学力の習得を意識した教育をおこない、講義においては、専門的知識の習得とその応用に主眼を置いた教育を行った。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 1 名 准教授 1 名 講師 0 名 助教 0 名

教 授：浅見 洋二

准 教 授：林 暁光

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		4	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	1

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：3 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：0 名

1-4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1) 論 文 （査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

なし

(2) 口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	2	0	0	0	2	1	0	3

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

浅見 洋二 教授

1960 年生。東北大学大学院文学研究科博士課程中途退学。文学博士（京都大学、2009 年）。東北大学助手、山口大学講師、同助教授、大阪大学文学研究科助教授、同准教授を経て、2009 年 4 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：中国古典詩学

1. 論文

浅見洋二 「父と子—蘇軾・陸游の詩における「孝」をめぐる—」『國學院中国学会会報』第 68 巻, pp.1-24, 査読無, 2022/12

浅見洋二 「罪人と盲者: 中国文学中光明と黑暗的象徴体系」『中国文学学報』第 12 巻, pp.87-98, 査読有, 2022/6

浅見洋二 「陸游詩中の田園与国家: 以《耕織図詩》及勸農文、論俗文為線索」『五声十色: 文図学視聽進行式』, pp.13-39, 査読無, 2022/5

2. 著書（単著・編著）

浅見洋二『陸游』明治書院, 525p., 2022/12

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

浅見洋二「父と子—蘇軾・陸游の詩における「孝」をめぐる—」, 國學院大學中国学会第 65 回大会, 國學院大學中国学会, 國學院大學(ハイブリッド), 2022/10/23

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 浅見洋二

課題番号: 19K00369

研究題目: テクストの公と私—蘇軾の詩詞・書簡と文集編纂に関する研究—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本中国学会・副理事長, 2021 年 4 月～現在に至る

日本中国学会・理事, 2017 年 4 月～現在に至る

日本中国学会・評議員, 2011 年 4 月～現在に至る

中国社会文化学会・評議員, 2006 年 4 月～現在に至る

林 暁光 准教授

1981 年生。復旦大学博士課程卒業。文学博士(復旦大学、2011 年)。浙江大学講師、同副教授を経て、2021 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：中国文学

1. 論文

林暁光「漢魏六朝文學文本的變異形態及類型」『文学遺産』2023 第 2 号, pp.15-29, 査読有, 2023/3/1

林暁光「中国文学における「闇」——喧騒から攪乱へ——」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 巻, pp.117-147, 査読無, 2023/2

林暁光「松桂堂帖刻米芾手跡「淨名齋記」復原」『芸術学研究』2023 年第 1 号, pp. 20-32, 査読有, 2023/1

林暁光「作為藝術史の文學史——以中古文學為中心的方法論省思」『芸術学研究』2022 年第 4 号, pp. 27-40, 査読有, 2022/8

林暁光「不徹底的歴史主義文学観——從古典文学研究視角看章学誠」『斯文』第 8 巻, pp. 3-26, 査読無, 2022/5

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

林暁光（翻訳）「唐代士大夫の科举意識——岑参の場合（著者岡本洋之介）」『古代文学前沿与評論』2022 第 12 号, pp.120-130, 査読無, 2022/12

林暁光（翻訳）「宋孝武帝及其時代（著者越智重明）」『中外論壇』2022 第 2 号, pp. 73-118, 査読無, 2022/6

林暁光（書評）「越智重明先生学述」『中外論壇』2022 第 2 号, pp. 235-246, 査読無, 2022/6

4. 口頭発表

林暁光「讀《文選》卷五八謝朓《齊敬皇后哀策文》——貴族文學の禮儀現場及身分性用典」, 文本細讀與文學史微觀察——周秦漢唐讀書會, 文學遺産編輯部・揚州大学文学院, 揚州大学(ハイブリッド), 2023/3/18

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

英米文学・英語学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

英米文学

講義・演習では基礎から応用までのスキルの習得がなされ、ほぼ当初の計画とおりの成果があがっている。大学院・学部ともにテキストの読解力は向上してきている。また、論文作成に関する指導が細やかに行われた結果、研究発表も活発で、大学院生の学会での口頭発表や学会誌への論文発表などが活発に行われていることがそのことを実証している。研究室の物理的整備などを工夫したこともあり、院生・学部生間の交流も進み、研究室の雰囲気はきわめて良好な状態を保っていると言える。基本的な書籍のさらなる充実および勉学をサポートする設備の充実を目指す計画を進行中である。

英語学

学部では、学校文法、機能文法、(形式)意味論、語用論、音声学、生成文法、歴史言語学関係の講義と演習のほか卒業論文作成演習を行い、一定の成果がえられた。大学院では、理論言語学、機能文法理論、(形式)意味論、語用論関係の講義と演習、論文書評の演習、博士論文作成演習、修士論文作成演習などを行なった。また、HLC News を編纂し、英語学研究室や院生の研究活動、就職状況等を同窓生の方々に報告した。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 4 名 准教授 2 名 外国人教師 1 名 助教 1 名

教 授：岡田 禎之、神山 孝夫、片渕 悦久、山田 雄三

准 教 授：田中 英理、森本 道孝

外国人教師：ポール・ハーヴィ

助 教：好井 千代

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		22	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	1

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部：7 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：0 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文（査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 （受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-4-3. 研究助成 （受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 （就職先など、数）

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	6	0	0	0	6	1	0	7

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

岡田 禎之 教授

1965 年生。大阪大学大学院文学研究科博士課程（英語学専攻）中途退学。文学博士（大阪大学、2001 年）。第 37 回市河賞（2003 年）。大阪大学助手、岡山大学講師、金沢大学助教授、神戸市外国語大学助教授、大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2010 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：英語学

1. 論文

岡田禎之「日本語における因果関係接続表現による等位構造の認可について」『待兼山論叢』第 56 巻文化動態論篇, pp.33-58, 査読無, 2022/12/25

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:岡田禎之
課題番号:18K00646
研究題目:テキストの結束関係と語彙概念拡張

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

阪大英文学会 第 55 回大会 2022 年 10 月 29 日

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本英語学会・編集委員長, 2021 年11月～現在に至る
日本英語学会・編集委員, 2019 年 7 月～現在に至る
日本英語学会・学会賞委員会委員, 2020 年 4 月～2024 年 3 月
日本英語学会・評議員, 2013 年 4 月～現在に至る

阪大英文学会・会長, 2018 年 10 月～2022 年 10 月

神山 孝夫 教授

1958 年生。東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了。博士（文学）（東北大学）。大阪外国語大学外国語学部教授を経て、2007 年 10 月より大阪大学大学院文学研究科教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：歴史言語学、音声学、ヨーロッパ文化史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本古代ロシア研究会・理事, 2015 年 4 月～現在に至る

片淵 悦久 教授

1965 年生。1995 年、大阪大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学。文学修士（大阪大学、1991 年）。博士（文学）（大阪大学、2007 年）。北陸大学講師、同志社女子大学講師、助教授を経て、2003 年 4 月大阪大学文学研究科助教授、2013 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：アメリカ文学

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本ソール・ベロー協会・理事, 2009 年 4 月～現在に至る

関西英語英米文学会・理事, 2008 年 4 月～現在に至る

山田 雄三 教授

1968 年生。1990 年大阪大学文学部卒業。1995 年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。1995・2013 年、大阪大学言語文化部、同大学院言語文化研究科講師、助教授、准教授を経て、2013 年 10 月大阪大学大学院文学研究科准教授、2020 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：英文学／文化理論研

究

1. 論文

山田雄三 「可動式プライベート時代のコメディ・オヴ・マナーズ—ノーエル・カワードからハロルド・ピンターへ」『コメディ・オヴ・マナーズの系譜—王政復古期から現代イギリス文学まで』, pp.222-243, 査読有, 2022/5/20

山田雄三 「研究報告「Poor Tom を喰う—悪魔憑き／祓いの娯楽性についての一考察」」『関西シェイクスピア研究会会報』第 43 号, pp.7-7, 査読無, 2022/4/20

2. 著書（単著・編著）

山田雄三, 玉井暲, 末廣幹 他(共著)『コメディ・オヴ・マナーズの系譜—王政復古期から現代イギリス文学まで』音羽書房鶴見書店, pp. 222-243, 2022/5

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:山田雄三

課題番号:18K00415

研究題目:近現代英語圏における「二つの文化」論争の系譜をたどる

6-2. 2022 年度～2025 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:山田雄三

課題番号:22K00403

研究題目:実験的ルポルタージュによる文化横断—後期モダニズムの著作実践

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本英文学会・評議員, 2022 年 6 月～現在に至る
日本英文学会関西支部・理事, 2019 年 4 月～現在に至る

田中 英理 准教授

1975 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。2007 年博士(文学)。日本学術振興会特別研究員(PD)、愛媛大学教育学生支援機構英語教育センター講師、大阪医科大学総合教育講座講師を経て 2015 年 10 月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：英語学

1. 論文

なし

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

Tanaka, Eri, Masako Maeda and Yoichi Miyamoto. "On negative island effects and exhaustification with adjunct nani-o in Japanese", Japanese Korean Linguistics 30, Japanese Korean Linguistics, Simon Fraser University(対面), 2023/3/12
Tanaka, Eri and Kenta Mizutani "Granularity in number and polarity effects", LENLS 19, LENLS, 東京大学駒場(ハイブリッド), 2022/11/19

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:田中英理
課題番号:21K00525

研究題目:言語の意味理解におけるスケール・比較概念の汎用性:語用論、談話構造への発展

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

日本語・英語・ドイツ語における同等比較について、ライプニッツ言語研究所(ドイツ)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本英語学会・編集委員, 2021 年 7 月～現在に至る

森本 道孝 准教授

1978 年生。2001 年大阪大学文学部卒業。2009 年大阪大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学。文学修士（大阪大学、2003 年）。博士（文学）（大阪大学、2009 年）。近畿大学経済学部講師、同准教授を経て、2018 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：アメリカ文学

1. 論文

森本道孝 「David Lindsay-Abaire 演劇におけるコミュニケーション」『大学院文学研究科紀要』第 63 巻, pp.59-78, 査読有, 2023/2

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本アメリカ演劇学会・編集委員, 2022 年 8 月～現在に至る

日本英文学会関西支部副事務局長, 2021 年 4 月～2023 年 4 月
日本アメリカ文学会関西支部編集委員, 2021 年 4 月～現在に至る
阪大英文学会・幹事, 2018 年 10 月～現在に至る
日本アメリカ演劇学会・幹事, 2018 年 8 月～現在に至る

ポール・ハーヴィ 外国人教師

1961 年生。1980 年 9 月、Oriel College, Oxford University 入学。1986 年 6 月 Oriel College, Oxford University 卒業退学 (MA, MPhil 取得)。1986 年 10 月、京都大学教養部招聘研究員 (1 年間)。1988 年 4 月、大阪大学言語文化部講師。1990 年 4 月、カナダ商工会議所専務理事(1 年間)。1991 年 4 月、大阪大学言語文化部講師。1999 年 10 月、大阪大学文学部・大阪大学大学院文学研究科外国人教師に着任。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科現職。専攻：シェイクスピア／イギリスルネッサンス／英文学

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

Stean Anthony (HARVEY, A. S. Paul), *Monday Songs 001-005 New*, pdf, 41p. , 2023/3

Stean Anthony (HARVEY, A. S. Paul), *Stean Anthony, Samawatiwal'ard*, Yamaguchi Shoten, 386p. , 2022/10

Stean Anthony (HARVEY, A. S. Paul), *Monday Songs 083-086*, pdf, 49p. , 2022/8

※Stean Anthony is the penname of HARVEY, A. S. Paul.

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

好井 千代 助教

1959 年生。1987 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。文学修士(大阪大学)。1987 年大阪大学文学部助手を経て、2007 年 4 月より大学院文学研究科助教。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻：アメリカ文学。

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

Yoshii, Chiyo, ““Sentient” Fungi: “The Fall of the House of Usher” and the Emerging Germ Theory of Disease”, The Fifth International Edgar Allan Poe Conference: Poe Takes Boston, Poe Studies Association, OMNI PARKER HOUSE, BOSTON (ハイブリッド), 2022/4/9

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:好井千代

課題番号:21K00457

研究題目:文学と生命科学のインターフェイサー「生政治」を超えて

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

ドイツ文学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

学部においては、大半の学生にとってドイツ語が初修外国語であることを考慮し、グレードの異なる演習を開講、また講義においては本分野にかかわる基礎的な知識および研究方法論を習得させるとともに、研究テーマの紹介にも努めた。ヨハネス・ヴァスマー特任講師は、実践的なドイツ語運用力の向上につとめ、ドイツ語会話の授業を実施した。三谷教授、吉田教授は、文献演習を開設するとともに、個別的な論文指導をおこなった。また、研究室所属の学生全員が参加する演習 Forschungskolloquium を開講し、プレゼンテーションとディスカッションを重ねることで知識と問題意識の共有化を図った。学外からは、赤尾光春先生を講師として招き、多彩かつ充実した授業を提供した。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 1 名 准教授 1 名 特任講師 1 名 助教 0 名

教 授：三谷 研爾

准 教 授：吉田耕太郎

特 任 講 師：ヨハネス・ヴァスマー

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		4	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	1
	私費	0	0	0	0	0	0

*社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：0 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：1 名

1-4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)
なし

(2)口頭発表
なし

(3)その他(書評・翻訳など)
なし

1-4-2. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)
なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)
なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

三谷 研爾 教授

1961 年生。1987 年、大阪大学大学院文学研究科博士課程中退。博士（文学、大阪大学）。大阪府立大学助手、講師、大阪大学准教授をへて 2008 年 4 月から同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：ドイツ、オーストリア文学および文化研究

1. 論文

三谷研爾「ハイデルベルク逍遙 両大戦間期におけるドイツ文化受容についての覚え書き」『待兼山論叢／文学篇』第 56 巻, pp.1-17,査読無, 2022/12/25

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

三谷研爾(解説)「カフカ『変身』」『ハブスブルク事典』, pp.594-595,査読無, 2023/2/2

三谷研爾(書評)「林寄伸二・村上浩明編『カフカの長編小説』」『独文学報』第 38 巻, pp.75-81,査読有, 2022/11/1

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2025 年度、 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))、代表者: 三谷研爾

課題番号:22KK0004

研究題目:両大戦間のハイデルベルクにおける人文学知の受容と交流

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

阪神ドイツ文学会・会長, 2021 年 4 月～2023 年 3 月

日本オーストリア文学会・阪神地区幹事, 2015 年 5 月～現在に至る

関西チェコ／スロバキア協会・会長, 2009 年 4 月～現在に至る

大阪大学ドイツ文学会・会長, 2008 年 1 月～現在に至る

吉田 耕太郎 准教授

1970 年生まれ。東京外国語大学外国語学部（ドイツ語学科）卒。2007 年、東京外国語大学地域文化研究科博士後期課程単位取得退学。学術修士（東京外国語大学）。京都外国語大学、立命館大学、京都大学人文科学研究所等での非常勤講師

を経て、2009 年 4 月大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：
ドイツ文化史・思想史

1. 論文

吉田耕太郎「健康の啓蒙 ファウスト『健康問答』と養生の言説」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 巻, 大阪大学大学院
文学研究科, pp. 79-96, 2023/2

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2025 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 吉田耕太郎

課題番号: 22K00465

研究題目: 18 世紀的情報空間と健康-健康概念の伝播とその歴史的意味の解明

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本独文学会・学会誌編集委員, 2021 年 5 月～現在に至る

阪神ドイツ文学会・庶務幹事, 2021 年 4 月～2023 年 4 月

Wassmer Johannes 特任講師 (常勤)

2020 年 4 月大阪大学大学院文学研究科 特任講師(常勤)。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科特任講師(常勤)。

専攻:ドイツ文学／思想史

1. 論文

WASSMER JOHANNES “Prolegomena zu einer Ästhetik des Wartens” *Warten. Konstruktionen von langer und kurzer Dauer in der Literatur*, 査読有, pp.13-28, 2023/3

WASSMER JOHANNES “Melancholie der Präsenz. Hugo Ball zwischen Dada und Deus” *Passages. Scritti in memoria di Mauro Ponzi / Texte in Erinnerung an Mauro Ponzi*, pp. 321- 333, 2023/2

2. 著書（単著・編著）

WASSMER JOHANNES , Luca Viglialoro, *Epistemologien der Geste. Körper, Medien, Künste*, De Gruyter, Introduction, 2023/3

Heike Breitenbach, WASSMER JOHANNES(編著者) *Martin Buber und die Literatur* (『マルティン・ブーバーと文学』), Edition AV, Bodenburg, pp.321-333, 2022/10

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

WASSMER JOHANNES “Mängelwesen und modrige Pilze im Mund? Schrift als Vollzug und als Präsenz” *Figuren des Mangels. Szenen der Gestaltung in Ästhetik, Design- und Kunstpraktiken*, 2022/5

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

フランス文学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

- ・講義・演習では、16 世紀から現代にかけての幅広い文学テキストを教材としながら、基礎知識および作品分析方法の習得をめざした教育を行った。
- ・卒業論文作成のために、卒論ガイダンス、個人面談、中間発表と段階を追った指導を行った。2022 年度には下記のいずれも優れた卒業論文が提出された。

山口昂太郎「ジャン=ジャック・ルソーにおける文学と政治」

瀬川七海「パトリック・モディアノ『新婚旅行』における庇護者の希求」

佐伯寧彦「アンドレ・ジッド『女の学校』『ロベール』『ジュヌヴィエーヴ または 未完の告白』のエヴリーヌに関するマルシヤンの役割」

田代航大「ユイスマンス『さかしま』における室内の展示を巡る思想」

- ・2022 年度は留学者 1 名。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 1 名 准教授 0 名 特任准教授 1 名 助教 1 名

教 授：山上 浩嗣

特任准教授：エリック・アヴォカ

助 教：平光 文乃

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		11	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部：3 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学 (2022 年度)

学部：1 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	1	0	0	0	1	1	1	3

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

山上 浩嗣 教授

1966 年生。京都大学文学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。パリ・ソルボンヌ大学にて文学博士号取得（2010 年）。東京大学大学院総合文化研究科助手、関西学院大学社会学部専任講師、同准教授、同教授、

大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2015 年同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：フランス文学・思想

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

山上浩嗣他(共著)『新・フランス語文法(四訂版)』朝日出版社, pp. 88-99, 2023/1

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

山上浩嗣, (事典項目)「モンテーニュ」『啓蒙思想の百科事典』, 日本 18 世紀学会『啓蒙思想の事典』編集委員会編, 丸善出版, pp.64-65, 査読無, 2023/2

4. 口頭発表

Yamajo, Hirotsugu “《 Mourir lâchement et mollement 》 : Pascal face à la mort idéale selon Montaigne”, 《 Pascal, prophète et résistant 》, colloque du 400e anniversaire de Blaise Pascal, Dominique Descotes, Laurence Plazenet et Laurent Thirouin, Maison de la culture Clermont-Ferrand(対面), 2023/3/25

山上浩嗣「『フェイク・スペクトラムー文学における〈嘘〉の諸相』合評会コメント」, 国際編集文献学研究センター主催 出版記念イベント, 成城大学国際編集文献学研究センター, 成城大学(対面), 2023/3/17

山上浩嗣「モンテーニュが語る老、病、性—『エッセー』における身体の経験」, 2022 年度 ラスタ教養大学 言葉文化コース, 伊丹ラスタホール(伊丹市立生涯学習センター)(対面), 2022/11/14

Yamajo, Hirotsugu “La politique et la morale chez Montaigne et Pascal. Le respect de la loi, même injuste, et l’aversion pour la réforme politique”, Journée d’études du CEIPREM, structure fédérative de recherche de la Sorbonne nouvelle - Paris 3, Sorbonne nouvelle - Paris 3(ハイブリッド), 2022/6/8

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 山上浩嗣

課題番号: 21K00416

研究題目: パスカールとモンテーニュ——『パンセ』の人間学とその起源

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

Etudes interdisciplinaires sur Pascal, Port-Royal, et l’Europe moderne, Université Paris 3 - Sorbonne nouvelle(フランス)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本フランス語フランス文学会・副会長, 2021 年 5 月～現在に至る

AVOCAT ERIC MARC 特任准教授（常勤）

1972 年生まれ。高等師範学校エコール・ノルマル・シュペリウール卒業。ギリシア・ラテン古典文学大学教授資格取得。フランス文学博士。イエール大学（1995-1996 年）、京都大学（2005-2015 年）で教員を務める。フランスのリセでの教員経験もある。2016 年 4 月より大阪大学文学研究科 特任准教授（常勤）。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科特任准教授（常勤）。専攻：フランス文学

1. 論文

AVOCAT ERIC MARC 《Satire politique et genres dramatiques pendant la Révolution française - Comédie des mœurs parlementaires, comédie de mœurs parlementaire》, *Gallia*, n° 62, 大阪大学フランス語フランス文学会, pp. 13-23, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

Renaud Bret-Vitoz, Sophie Marchand, AVOCAT ERIC MARC, (国際共著) *Les Lumières du théâtre. Avec Pierre Frantz*, Editions Classiques Garnier, pp. 305-313, 査読有, 2022/9

村田京子, 小野潮, AVOCAT ERIC MARC 他(国際共著)『作家たちのフランス革命』白水社, pp. 163-194 ; 228-242, 査読有, 2022/7

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

AVOCAT ERIC MARC “Comment bien trahir les images ?”, Enseigner (par) la littérature dans les cours de français à l’université, 日本フランス語フランス文学会, Cahier n° 31, 2023/3

4. 口頭発表

AVOCAT ERIC MARC “Comment bien trahir les images ?”, Enseigner (par) la littérature dans les cours de français à l’université, 日本フランス語フランス文学会, 大阪大学(対面), 2022/10/23

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:AVOCAT ERIC MARC

課題番号:19K00473

研究題目:Rethinking political representation in the light of dramatic art under the French Revolution

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本フランス語フランス文学会・学会誌編集委員, 2011 年 6 月～現在に至る

平光 文乃 助教

1976 年生。2012 年、京都大学大学院文学研究科博士後期課程（フランス語学フランス文学専攻）修了。博士（文学）（京都大学、2012 年）。2021 年 4 月大阪大学大学院文学研究科助教。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 助教。専攻：フランス文学。

1. 論文

平光文乃 『『見いだされた時』冒頭に関する考察—タンソンヴィル滞在か、タンソンヴィルの部屋の描写か—』*GALLIA* 第 62 号, pp.75-90, 査読有, 2023/3/4

2. 著書（単著・編著）

白田由樹, 辻昌子, 平光文乃他（共著）『装飾の夢と転生 世紀転換期ヨーロッパのアール・ヌーヴォー 第1巻 イギリス・ベルギー・フランス編』国書刊行会, pp.274-315, 2022/10/19

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

平光文乃 『『見いだされた時』冒頭に関する一考察』関西プルースト研究会, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/4/2

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2022 年度、研究活動スタート支援、代表者:平光文乃

課題番号:21K19984

研究題目:『失われた時を求めて』タンソンヴィルの部屋の生成と最終篇冒頭の校訂に関する研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

美学・文芸学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

美学分野では、卒業論文に向けた演習において、個人発表にたいしてグループ討議の時間を設けたり、テーマの決めかたや論文の書き方についての学びの機会をつくったり、テキストを作成して使用したり、学習を深める様々な工夫を取り入れた。

文芸学研究室では、古代ギリシア語ならびにラテン語の教育に力を入れた。文学部の外国語科目にギリシア語とラテン語がなく、文学部において西洋の古典語を学ぶ機会が少なくなっている現状を考えると、当研究室が提供する古典語の教育はますます重要になると思われる。非常勤講師として勝又泰洋氏が授業を担当した。また、論文作成演習では、学部生・大学院生ともに研究発表の力を高めさせた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 1 名 准教授 3 名 講師 1 名 助教 1 名

教 授：高安 啓介

准 教 授：渡辺 浩司、田中 均、東 志保

講 師：西井 奨

助 教：横道 仁志

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		49	0	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	3

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部：12 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学 (2022 年度)

学部：0 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	11	0	0	0	11	0	1	12

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

高安 啓介 教授

1971 年生。一橋大学社会学部卒業。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了（芸術学）。博士（文学）。愛媛大学法文学部准教授、2016 年 4 月より大阪大学文学研究科准教授を経て、2019 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：美学／芸術学

1. 論文

高安啓介 「社会デザインの三つの段階」『a+a 美学研究』第 14 号, pp.90-119,査読無, 2023/2/1

高安啓介 「他でもありうる未来ーデザインの想像力によせて」『a+a 美学研究』第 14 号, pp.10-29,査読無, 2023/2

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

高安啓介 「社会デザインの起点としてのモリスの労働観」, 第7回 ウィリアム・モリス研究会, 意匠学会, 大阪大学(オンライン), 2022/12/17

Takayasu, Keisuke, “Design History in the Transcultural Context”, Euroculture Lecture ,Euroculture,University of Göttingen (対面), 2022/5/9

Takayasu, Keisuke, “Design History in the Transcultural Context”, Euroculture Lecture ,Euroculture, University of Groningen (対面), 2022/5/2

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:高安啓介

課題番号:20K12530

研究題目:社会デザインと批判デザインとの相互関係をめぐる歴史的展望

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

意匠学会・役員, 2017 年 4 月～現在に至る

美学会・委員, 2016 年 11 月～現在に至る

渡辺 浩司 准教授

1962 年生。大阪大学文学部卒業。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。大阪大学助手、助教を経て2017 年 4 月より同准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：文芸学／西洋古典学

1. 論文

渡辺浩司「キケロー『弁論家』(2)」『文学研究科紀要』(大阪大学大学院文学研究科), 63, 大阪大学大学院文学研究科, pp. 97-114, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

永田 靖, 山崎達哉, 渡辺浩司(共著)「「アート・マネジメント基礎講座」について」『微しの上を鳥が飛ぶ』, pp. 58-63, 2022/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

渡辺浩司「近代美学と古典弁論術」近代美学と古典弁論術」2022 年度第 1 回研究会, 2022/8

5. 受賞歴(2022 年度))

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:渡辺浩司

課題番号:22K00124

研究題目:近代美学と古典弁論術—弁論術の崩壊と再構築

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

大阪大学生活共同組合・監事, 2019 年 5 月～現在に至る

民族藝術学会・理事, 2018 年 4 月～現在に至る

田中 均 准教授

1974 年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了（美学芸術学、2007 年）。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD、2005 年～2008 年）、山口大学人文学部講師（2008 年～2011 年）、同准教授（2011 年～2012 年）。2012 年 4 月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。大阪大学 CO デザインセンターに派遣（2016 年 4 月～2020 年 3 月）。日本シェリング協会第 7 回研究奨励賞（2011 年）。専攻：美学

1. 論文

田中均「過去の未来を呼び戻す「レトロタイプ」」『a+a 美学研究』第 14 号、大阪大学大学院文学研究科比較デザイン学クラスター、美学研究室 編, pp.30-44, 査読無, 2023/2

2. 著書（単著・編著）

田中均, 山上浩嗣, 津田 保夫, 他(共著)『啓蒙思想の百科事典』丸善出版, pp. 550-553, 2023/1/25

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

田中均(書評)「クリストフ・メンケ『力 美的人間学の根本概念』」『図書新聞』3569, pp. 3-3, 2022/12/4

4. 口頭発表

田中均「シラーはライフスタイルの哲学者か？マザーン／リグルによる『美的教育書簡』再評価をめぐって」, 日本シェリング協会 第 31 回学術大会, 日本シェリング協会, 大阪大学豊中キャンパス(ハイブリッド), 2022/7/2

5. 受賞歴(2022 年度)

田中均 日本シェリング協会第 7 回研究奨励賞, 日本シェリング協会, 2011/7

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 田中均

課題番号: 22K00142

研究題目: 対話的・協働的芸術実践の美的価値についての基礎的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本シェリング協会・理事, 2008 年 10 月～現在に至る

東 志保 准教授

1979 年生。国際基督教大学比較文化研究科博士前期課程修了（比較文化論）。パリ第三大学映画視聴覚研究博士（Docteur en Cinéma et Audiovisuel）。国際基督教大学平和研究所助手、同大学非常勤講師、岩手大学非常勤講師、2017 年より大阪大学大学院文学研究科助教を経て 2021 年 4 月より現職。専攻：映像研究／比較文化論

1. 論文

東志保 「エッセイ映画としての『無言日記』——個人的なマッピングから「世界の記憶」へ」『ユリイカ』第 54 巻第 14 号, pp.291-296, 査読無, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

東志保（新聞記事）「ゴダールとヌーヴェル・ヴァーグ「左岸派」の映画作家たち」、『西日本新聞』, pp.12-12, 2022/11

東志保 「風景を凝視する映画の魅力」、『Arts and Media』, vol.12, pp.156-157, 大阪大学人文学研究科アート・メディア論研究室, 2022/7

4. 口頭発表

東志保 「移動撮影 (Travelling) と繰り返しショット (Champs-contrechamps) の意味: 『冬の旅』と『燃ゆる女の肖像』を例に」, フランス語大学, 2023/2/14

東志保 「ゴダールとヌーヴェル・ヴァーグ左岸派」, 『追悼上映 ジャン＝リュック・ゴダール監督特集』トークイベント,, KBC シネマ(), 2022/11/13

東志保 「映像と音声の関係についての研究: 記録と表現の間で」, 第 7 回大阪大学豊中地区研究交流会「知の共創」, 大阪大学 (ポスター発表), 2022/11/4

東志保 「ドキュメンタリー映画における記憶の表象 : クリス・マルケル、アニエス・ヴァルダ、レイモン・ドゥパルドンを例に」京都大学メディア合同研究室 第 2 回シンポジウム, 京都大学メディア合同研究室 第 2 回シンポジウム実行委員会, 京都大学吉田キャンパス (ハイブリッド), 2022/10

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本映像学会関西支部・幹事, 2018 年 6 月～現在に至る

西井 奨 講師

1982 年生。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員 PD を経て、2015 年 11 月より大阪大学文学研究科特任講師を経て、2018 年 4 月より同講師。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：文芸学／西洋古典学

1. 論文

西井奨「高橋宏幸先生のラテン文学研究から学んだこと」『西洋古典論集』26, pp. 8-10, 2022/2

2. 著書（単著・編著）

西井奨(共著)『ルキアノス 遊女たちの対話 全集 8』京都大学学術出版, pp. 3-39, 225-230, 2021/12

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

西井奨(WEB)「訳者からのメッセージ:ルキアノス『遊女たちの対話』」, 日本西洋古典学会 HP 新刊書フォーラム, <https://clsoc.jp/agora/newbooks/2022/220106.html>, 2022/1/06

西井奨(WEB)「文芸学での学びと研究」『フロムページ 夢ナビ』, <https://yumenavi.info/vue/lecture.html?gnkcd=g012622#>, 2023/3/20

4. 口頭発表

西井奨 ウァレリウス・マキシムス『著名言行録』における弁論術と美德」美学会西部会第 341 回例会, 大阪大学, 2022/12/3

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

ギリシア・ローマ神話学研究会・編集代表, 2016 年 10 月～現在に至る

横道 仁志 助教

2021 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科 助教を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科現職。専攻:美学

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

横道仁志 「楽園の花——フェデリコ・フェリーニ『道』における人間本性と罪の問題——」広島芸術学会 第 36 回大会, 広島芸術学会, 広島大学(オンライン), 2022/9/11

横道仁志 「メイヤスーVS アガンベン——相関主義の側からの思弁実在論の検証」日本シェリング協会 第 31 回学術大会, 日本シェリング協会, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/7/3

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【研究会等の活動】

「疫病と芸術」, 藝術学関連学会連合 第 16 回シンポジウム, 藝術学関連学会連合(オンライン), 2022/6/11

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

音楽学・演劇学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

2022 年度はほぼコロナ禍の影響から脱した。2020 年 4 月よりオンライン、またはオンライン併用のハイブリッド型の授業が主たる形態となっており、教育の中心となる各種演習の授業は、次第にオンラインによる発表、議論といったやり方が確立し、ある程度の成果をあげていたが、2019 年度以前のやり方を主たる形態とするように戻りつつ、オンラインや、オンライン併用のハイブリッド型の授業も適宜用いた。卒業論文の主題、研究手法、論文構成などについての指導、討論はこれまで通り行われ、各種フィールドワークなども、再開できるようになった。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 3 名 准教授 2 名 (兼任 1) 講師 0 名 助教 1 名 (兼任 1)

教 授 : 永田 靖、伊東 信宏、輪島 裕介
准 教 授 : 中尾 薫、古後奈緒子 (兼任)
助 教 : 横田 洋 (兼任)

1-2-2. 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		46	0	0	0	7	0
留学生	国費	0	0	0	0	1	0
	私費	0	0	0	0	5	1

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生 (2022 年度)

学部 : 13 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学 (2022 年度)

学部 : 4 名

1-4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

なし

(2)口頭発表

なし

(3)その他(書評・翻訳など)

山田浩人「「音と身体の記譜研究」プロジェクトによる企画「リュート・タブラチュアの記譜法を考える——鳴ると記すのあわい」」『大阪日日新聞』, 2022/5/17

小亀しほ「展覧会「BRIAN ENO AMBIENT KYOTO」」『大阪日日新聞』, 2022/8/16

小亀しほ「大阪大学総合学術博物館(MOU)創立 20 周年記念展「地域に生き世界に伸びる MOU 収蔵品展—創立からもう 20 年—」(会期:2022 年 10 月 24 日(月)～12 月 17 日(土))の企画運営に携わりキャプション作成や展示品の選定・展示・撤収等を行った。

1-4-2. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-4-3. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 (就職先など、数)

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	10	0	0	0	10	3	0	13

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

永田 靖 教授

1957 年生。1981 年上智大学外国語学部ロシア語学科年卒業、1988 年明治大学大学院文学研究科演劇学専攻博士課程単

位取得退学。日本学術振興会特別研究員、明治大学人文科学研究所客員研究員、ロシア国立映画大学研究員、鳥取女子短期大学助教授、1996年大阪大学文学部助教授、同大学院文学研究科助教授を経て、2002年4月より同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。（2023年3月定年退職）専攻：演劇学

1. 論文

永田靖 「公衆電話と独語の演劇」『Arts&Media』12, 大阪大学文学研究科文化動態論専攻アート・メディア論コース, pp. 151-154, 2022/7

2. 著書（単著・編著）

永田靖（共編著）『微の上を鳥が飛ぶ』大阪大学出版会, 94p., 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

永田靖 「大学はいかに劇場となりうるか」, 最終講義「演劇と大学」, 大阪大学会館講堂, 2023/3/19

永田靖 「現代大阪演劇－震災、コロナ禍、越境」 西洋戯劇・課堂学術演講国立台北藝術大学, 2023/3/9

Nagata Yasushi “Some Trends of Contemporary Theatres in Osaka” Korean National University of Arts, Drama School, 2022/10/5

永田靖（招待講演）「スタニスラフスキー再考－演劇教育の観点から」, 2022年度日本演劇学会研究集会『俳優教育の「時」と「場」』, 2022/10/1

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022年度～2025年度、基盤研究(B) 一般、代表者:永田靖

課題番号:22H00614

研究題目:アジア演劇の越境重層的研究と実践リサーチ型次世代ネットワークの構築

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2022年度、5：その他補助金、助成金獲得者:永田靖

助成金名:大学における文化芸術推進事業

研究題目:中之島に鮠を放つー大学博物館と共創するアート人材育成プログラム

助成団体名:文化庁

助成金額:直接経費 16,400,000 円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

大阪府市文化振興会議・委員, 2020 年 4 月～現在に至る

公益財団法人吹田市文化振興事業団メシアター・理事, 2015 年 5 月～現在に至る

豊中市文化審議会・委員, 2014 年 6 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

日本演劇学会・会長, 2015 年 6 月～2022 年 6 月

兵庫県立ピッコロ劇場企画運営委員会・委員(委員長), 2011 年 3 月～現在に至る

芸術学関連学会連合・委員, 2005 年 6 月～2022 年 6 月

International Federation for Theatre Research, Asian Theatre Working Group・Convener, 2008 年 7 月～現在に至る

伊東 信宏 教授

1960 年、京都市生まれ。大阪大学文学部美学科（音楽学）卒業。同大学院修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、リスト音楽院（ハンガリー）客員研究員などを経て、1993 年、大阪教育大学助教授。2004 年大阪大学助教授、准教授、2010 年 4 月同教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：音楽学

1. 論文

伊東信宏「演奏会のバックステージから」博物館叢書『微の上を鳥が飛ぶ』、大阪大学出版会, pp.12-15, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑩」『レコード芸術』2023 年 4 月号, 音楽之友社, pp.208-209, 2023/3

伊東信宏「曲目解説」(ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ第7、9番、シェーンベルク:幻想曲など、コパチンスカヤ&アホネン演奏会, ザ・フェニックスホール, 2023/3

伊東信宏「コパチンスカヤに振り落とされないために」水戸芸術館『Vivo』254 号, 2023/2

伊東信宏「ニコラ・アルトシュテット」トッパンホール広報誌, 2023/2

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑩」『レコード芸術』2023 年 2 月号, 音楽之友社, pp.210-211, 2023/1

伊東信宏「ベッカ・クーシスト」(朝日新聞、2023 年 1 月 26 日夕刊)

伊東信宏「曲目解説」(シュニトケ:mozArt a la Haydn、プロコフィエフ:交響曲第1番「古典」ほか)神戸市立室内合奏団定期演奏会解説書, 2022/12

伊東信宏「曲目解説」(コダーイ:『ハーリ・ヤーノシュ』組曲、バルトーク:『青ひげ公の城』)広島交響楽団第 427 回定期演奏会, 2022/12

伊東信宏「関西フィル第 333 回定期演奏会 エメリヤニチェフ、前田妃奈」(朝日新聞大阪版、2022 年 12 月 15 日夕刊)

伊東信宏「響亮と厳粛の間:リゲティとコパチンスカヤに」『東京都響広報誌』、2022/12

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑩」『レコード芸術』2022 年 12 月号, 音楽之友社, pp.240-241, 2022/11

伊東信宏「パトリツィア・コパチンスカヤ・インタビュー」ザ・フェニックスホール、トッパンホールの機関誌、HP に掲載, 2022/11

伊東信宏「藤井園子先生のバッハ」『演奏会プログラム』、2022/11

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑩」『レコード芸術』2022 年 10 月号, 音楽之友社, pp.204-205, 2022/9

伊東信宏「ギドン・クレーメル・インタビュー」『レコード芸術』2022 年 9 月号, pp.9-13, 2022/8

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑧」『レコード芸術』2022 年 8 月号, 音楽之友社, pp.220-221, 2022/7

伊東信宏「ウクライナの音楽」『レコード芸術』2022 年 8 月号, pp.20-21, 2022/7

伊東信宏「ロト&ケルンギェルツェニヒ ブルックナー交響曲第4番ほか」(朝日新聞、2022年7月21日夕刊)

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑥」『レコード芸術』2022年6月号、音楽之友社、pp.224-225、2022/6

伊東信宏「ピアニスト ラドゥ・ルプーさんを悼む」(朝日新聞)2022年5月1日夕刊

伊東信宏 CD『ジョージ・アンタイルの見た世界』解説訳、pp2-6、2022/04

4. 口頭発表

伊東信宏 アーデル音楽講座『月に憑かれたピエロ』を観る」大阪歴史博物館講堂、2022/5

伊東信宏 街なかトークカフェ「イッサーリスからたどる「ロシア音楽」」(神奈川県立音楽堂、2022/8)

伊東信宏 アーデル音楽講座「北欧の二人のヴァイオリン弾き:シベリウスとニールセン」大阪歴史博物館講、2022/9

伊東信宏 アーデル音楽講座「ストラヴィンスキー『結婚』を巡って」大阪歴史博物館講堂、2022/11

伊東信宏 アーデル音楽講座「オーボエと世界のダブルリード楽器」大阪歴史博物館講堂、2023/2

伊東信宏 中欧音楽夜話「モーツァルトの音楽をめぐって」箕面メイプルホール、2023/2-3(3回)

伊東信宏 ONCC 懐徳堂記念会協力講座「シューベルトの連作歌曲集『美しい水車小屋の娘』について」豊中市民文化芸術センター、2023/2月

伊東信宏「ハイドンの現在」箕面市生涯学習講座、2022/3

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018年度～2023年度、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))、代表者:伊東信宏

課題番号:18KK0002

研究題目:東欧の音楽文化に関する民俗学的調査と編曲作品研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

音楽学コロキウム「ポップとフォークの間」(キース・ニーガス教授(ロンドン大ゴールドスミス校)、イヴァ・ネニッチ博士(ベオグラード芸術大学准教授)などを招聘しての国際会議、大阪大学会館アセンブリーホール、2023/2/24)

講演会「コパチンスカヤとアホネンが語り、少しだけ弾いてくれるかもしれない」大阪大学会館講堂(企画・制作・司会、パトリツィア・コパチンスカヤ(Vn)とヨナス・アホネン(Pf)を招いての公演と試演、2023/3/16)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

日本芸術文化振興会の評価等に関する有識者会議・委員、2018年4月～現在に至る

朝日新聞音楽懇話会・委員、2000年4月～現在に至る

サントリー芸術財団、サントリー音楽賞・佐治敬三賞選考委員、2000年6月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

民族芸術学会・理事、2008年4月～現在に至る

日本室内楽振興財団調査研究事業委員会委員, 2020 年 4 月月～現在に至る

輪島 裕介 教授

1974 年生。東京大学大学院人文社会系研究科（美学芸術学）博士課程単位修得退学。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、国立音楽大学ほか非常勤講師、2011 年 4 月大阪大学文学研究科准教授、2021 年 4 月同教授を経て、2022 年 4 月より大学院人文学研究科教授。専攻：音楽学

1. 論文

輪島裕介「笠置シヅ子と大阪」『東アジアにおける舞台性大衆娯楽のグローバル化を巡って』, 立教大学アジア地域研究所, pp. 67-89, 招待有, 2023/3

輪島裕介「初期テレビアニメ主題歌の音、産業、思想:手塚・トリローから宙明へ」『待兼山論叢 芸術学篇』第 56 巻, 大阪大学大学院文学研究科, pp. 1-26, 査読無, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

輪島裕介(共著), 永富真梨, 忠聡太 他, 『ポピュラー音楽：「聴く」を広げる・更新する』フィルムアート社(全 254 頁), 担当範囲：「ジャンル」, 2023/3

輪島裕介(共著), 細井直子, 『移行する大衆演劇～人々の記憶の現像と制度の再建～論文集』立教大学アジア地域研究所, 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

輪島裕介(単訳), 阿部万里江(著)『ちんどん屋の響き：音が生み出す空間と社会的つながり』世界思想社, 279p, 2023/3

4. 口頭発表

輪島裕介「笠置シヅ子と大阪」国立台北芸術大学共催「2022 東アジア大衆演劇国際学術シンポジウム—グローバル化を巡って」, 立教大学アジア地域研究所, 台湾・国立台北芸術大学(ハイブリッド), 2023/1

WAJIMA, Yusuke “The Discovery of “Japan” through the Geographic Imaginations of Enka: Reminiscing the Empire and Incorporating “America””, International Association for the Study of Popular Music Biennial Conference, 2022/7

輪島裕介「北島三郎論:在地音楽として艶歌を再考する」嘉泉大学アジア文化研究所国際シンポジウム「トロットとエンカ:東アジアを越えて世界へ」, 2022/5

WAJIMA, Yusuke, “Mambo Boom in 1955: The Birth of Youth Subculture in Post-war Japan” Association for Asian Studies Annual Conference, 2022

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:輪島裕介

課題番号:19K00220

研究題目:環太平洋・間アジア視点から近代日本大衆音楽史を読み直す

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本ポピュラー音楽学会・理事、研究活動委員長、2018 年 12 月～現在に至る

中尾 薫 准教授

1978 年生。2001 年、奈良女子大学文学部言語文化学科日本アジア言語文化学卒業、2008 年、大阪大学大学院文学研究科（演劇学）博士後期課程修了。博士（文学）。2009 年、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助手。2011 年、大阪大学大学院文学研究科専任講師、2014 年 4 月同准教授。2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：演劇学、能楽研究。

1. 論文

中尾薫「日本統治下台湾における新演劇興行の実態—明治三十八年台南座蜻蛉会の芝居番付より—」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 巻, pp.149-197, 査読無, 2023/2

中尾薫「能《高砂》における名所・旧跡—世阿弥の作劇法に照らして—」『文論』第 9 号, pp.1-19, 査読無, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

乙女文楽研究会 編著／林 公子, 後藤 静夫, 中尾薫他(共編)『乙女文楽：開花から現在まで：近代大阪に生まれた女性—人遣いの人形浄瑠璃』大阪大学出版会, 107p., pp. 54-64,75-84, 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

中尾薫(書評)「藝能史の書棚「野村伸一・竹内光浩・保立道久編『能楽の源流を東アジアに問う—多田富雄『望恨歌』から世阿弥以前へ—』」『藝能史研究』第 240 巻, pp. 35-36, 2023/1

中尾薫「能に描かれる住吉の神」『住吉大社社報『住吉っさん』第 39 号, pp. 23-26, 2022/12/15

中尾薫(巻頭)「観世元章相伝作物図十四—賀茂 御神体矢立台」『観世』第 89 巻第 3 号, 2022/5/1

4. 口頭発表

中尾薫「寺子屋にみる教養としての謡文化」, 民族藝術学会第 167 回研究例会 シンポジウム「教化・教養・教育—芸術の機能を考える—」, 民族藝術学会, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/2/11

中尾薫「日本統治下台湾における演劇興行—高松豊次郎参入以前の劇場における新演劇興行の動向を中心に—」日本植民地研究会 2022 年度秋季研究会, 2022/11

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:中尾薫

課題番号:18K00234

研究題目:日本統治下の台湾における歌舞伎・浄瑠璃史の構築—現地資料に基づく基礎研究と考察—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

若狭能倉座の神事能調査委員会・若狭能倉座の神事能調査委員, 2021 年 4 月～現在に至る

日本演劇学会・理事, 2020 年 7 月～現在に至る

能楽学会・常任委員, 2018 年 6 月～現在に至る

民族藝術学会・理事, 2018 年 4 月～現在に至る

芸能史研究会・委員, 2017 年 6 月～現在に至る

古後 奈緒子 准教授

1972 年生。2004 年大阪大学 文学研究科文化表現論（美学）修了、修士（文学）。京都造形芸術大学、大阪外国語大学、龍谷大学、神戸市外国語大学、奈良大学、神戸女学院大学等の非常勤講師、2014 年より大阪大学文学研究科助教、2017 年 4 月同准教授。2022 年 4 月より同大学院人文学研究科准教授。2001 年日本演劇批評家協会主催第 5 回「シアターアーツ賞」受賞。2001 年舞踊学会研究奨励賞。専攻：舞踊学

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

古後奈緒子 「インタビュー企画「コロナ禍と劇場舞踊」—唐津絵理氏と大澤寅雄氏に聞く—」『舞踊學』第 45 巻, pp.13-27, 査読無, 2022/12

古後奈緒子（書評）「海外文献紹介 Ulf Otto. Das Theater der Elektrizität: Technologie und Spektakel im ausgehenden 19. Jahrhundert.」『舞踊學』第 45 巻, pp.18-18, 査読無, 2022/12

古後奈緒子 (解説)「人形たちの饗宴Ⅱ」人形たちの饗宴Ⅱ～人形を動かす魔法とは?～『薄井憲二バレエ・コレクション第30回
企画展 リーフレット』, pp.1-4, 査読無, 2022/12

古後奈緒子 (解説)「場所／空間と居場所の多様性」『『徴しの上を鳥が飛ぶⅢ報告書』』第巻第号, pp.45-46, 査読無, 2022/12

4. 口頭発表

古後奈緒子「劇場の電化とバレリーナ:19世紀テクノロジーは誰の夢をかなえたのか」, 大人のアートタイム, 西宮市男女共同参
画センターウェブ, 西宮市男女共同参画センター(対面), 2023/2/2

古後奈緒子「『エクセルシオール』のコレオグラフィーにおける静止と運動の美学」, 第74回舞踊学会大会, 舞踊学会, 聖心女子
大学(対面), 2022/11/19

古後奈緒子「ウィーンの世界の電化と宮廷バレエ 国際電気博覧会から『人形の精』まで」, 日本演劇学会 2022年度秋の研究集
会, 日本演劇学会, 日本大学芸術学部江古田校舎(対面), 2022/10/1

Kogo, Naoko, "Reenactment and documentation of performers liveness of Ishinha in Osaka as Performing Arts Museum", 33rd
SIBMAS Conference, the International Association of Libraries, Museums, Archives and Documentation Centres of the
Performing Arts., Theatre Institut Warsaw(ハイブリッド), 2022/6/8

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

中之島に鮠を放つ「〈アートとその分身〉人間／人形の間」Aプロ「人形の精と踊る私」担当

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

大阪市 能 プロポーザル審査・審査員, 2022年6月

日本芸術文化振興会・文化芸術活動調査員, 2018年5月～2022年度

横田 洋 助教

1976年生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。2008年、大阪大学総合学術博物館研究支
援推進員。2011年、大阪大学総合学術博物館助教。

1. 論文

横田 洋「演劇と展覧会—大阪大学総合学術博物館の取り組みについて—」『演劇学論叢』第 22 号, pp.159-173, 2023/3

2. 著書 (単著・編著)

乙女文楽研究会 編著／林 公子, 後藤 静夫, 横田 洋他(共編)『乙女文楽 : 開花から現在まで : 近代大阪に生まれた女性
一人遣いの人形浄瑠璃』大阪大学出版会, 107p. , pp.8-16, 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

横田 洋「岐路の風景 昭和初期に大阪で開花「乙女文楽」」毎日新聞夕刊大阪本社, 2022/10/1

4. 口頭発表

横田 洋「大阪大学総合学術博物館 20 年の歩み」大阪大学総合学術博物館 20 周年記念シンポジウム, 大阪大学豊中キャンパス,
2022/10/29

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

美術史学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

目標に定めた通りの美術史の講義、演習を開講し、十分な教育効果をあげた。また、全学教育推進機構における教育に協力し、2022 年度には 3 セメ分の授業を担当した。

日本・東洋美術史においては、伝統の授業である見学演習を継続し、美術史学の基礎となる作品の観察、記述能力の育成に効果をあげた。西洋美術史においては、学部レベルでは論文を読むための授業が定着し、ゼミにおける研究発表、質疑応答を通じて、大学院、学部ともに論文作成にいたる過程を着実に定着させた。この間 3 名（前回データ）が欧米に留学し、高度な語学力を養いつつ、本格的な実地調査、研究を行うとともに、大学院授業を受けている。

なお、非常勤講師については、2022 年度は浮世絵（浅野秀剛・大和文華館館長）、写真史（竹内万里子・京都芸術大学教授）、西洋近代絵画（山上紀子・継続）の専門家をお招きし、専任教員ではカバーができない範囲の、そして最も先進的な研究についての講義を提供し、大きな教育効果をあげた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 5 名（兼任 1） 准教授 1 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：園府寺 司、橋爪 節也（兼任）、藤岡 穰、岡田 裕成、桑木野幸司

准 教 授：門脇むつみ

助 教：河内 華子

1-2-2. 在学生（2022 年度 5 月現在）

【文学部】		2022 年度の学生数					
		学部	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	学部 研究生	その他
総 数		33	0	0	0	5	0
留学生	国費	0	0	0	0	1	0
	私費	0	0	0	0	1	0

* 社会人学生 0 名

1-2-3 卒業生（2022 年度）

学部：13 名

1-3. 国際化

1-3-1 学部学生等の留学（2022 年度）

学部：2 名

1—4. 学部生などの成果

1-4-1. 業 績

(1) 論 文 （査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

なし

(2) 口頭発表

なし

(3) その他(書評・翻訳など)

なし

1-4-2. 受 賞 （受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-4-3. 研究助成 （受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

なし

1—5. キャリア支援、進路

1-5-1. 進路 （就職先など、数）

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	7	3	0	0	10	3	0	13

1-5-2. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度学部卒業で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

1—6. その他

なし

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 教員の研究活動

園府寺 司 教授

1957 年生。大阪大学文学部美学科（西洋美術史）卒、アムステルダム大学美術史研究所大学院修了。Doctor der Letteren（文学博士・アムステルダム大学）。広島大学総合科学部講師・助教授、大阪大学文学部助教授、同教授を経て、2022

年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。(2023 年 3 月定年退職)。2004 年にワルシャワ・ユダヤ歴史博物館研究員。専攻：西洋美術史／アート・メディア論

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

圀府寺司『ファン・ゴッホ 生成変容史』三元社, 296 p., 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

圀府寺司「ファン・ゴッホ生成変容史 ―相続 作品伝播 美術市場 文化産業―」, 第 75 回美術史学会大会, 美術史学会, 東京大学 (ハイブリッド), 2022/5/22

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(A) 一般、代表者: 圀府寺司

課題番号: 19H00519

研究題目: 美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

国際美術史学会 CIHA・国内委員, 2009 年 4 月～現在に至る

文化庁・独法国立美術館評価に係る有識者会合委員 2021 年 4 月～現在に至る

大阪中之島美術館アドバイザーボード 2021 年 4 月～現在に至る

橋爪 節也 教授

1958 年生。東京芸術大学大学院修士課程修了。芸術学修士。東京芸術大学美術学部附属古美術研究施設助手、大阪市立近代美術館（仮称）建設準備室主任学芸員。2013 年大阪大学総合学術博物館教授。（2023 年 3 月定年退職）専攻：日本美術史／近世近代絵画史

1. 論文

橋爪節也「“なにわ舟遊 ODYSSEY”で目指したもの エコ・ミュージアムを探るアートの旅」『大阪大学総合学術博物館叢書 徴の上を鳥が飛ぶ』, 大阪大学出版会, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

橋爪節也「こんなにおもしろいユニバーシティミュージアム—その可能性を探る—」武庫川女子大学附属総合ミュージアム『武庫川女子大学附属総合ミュージアム紀要・年報』3 号, 開設一周年記念シンポジウム大学ミュージアムと文化財—教育と研究の成果を活用する—, 2023/3

橋爪節也「万博遺産 第 8 回ローマ商業神、万国博に飛来す。——街角に跳躍するメルクリウス像」大阪ガス エネルギー・文化研究所『CEL』132, 大阪ガス エネルギー・文化研究所, 2023/3

橋爪節也「万博遺産 第 7 回 as time goes by……タイムカプセルの中にカプセルがもう一つ」大阪ガス エネルギー・文化研究所『CEL』131, 大阪ガス エネルギー・文化研究所, 2022/9

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 33 回「送迎自動車でダンス・パレスへ 南地ゆかりの“ほりとらさん”も登場」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』476, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2023/3

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 32 回「“文楽”に挑む。一古典芸能とアートのコラボレーション—」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』475, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2023/2

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 31 回「浄瑠璃から歌舞伎、落語へ 忠臣蔵も大阪人の手で面白い話に」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』474(12 月・1 月合併号), 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/12

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 30 回「埋め立てられ、姿を消した後も 川は様々な物語に連なっていく」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』473, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/11

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 29 回「西照菴は夕日の名所 遠くに天保山と、超巨大なみおつくし」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』472, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/10

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 28 回「夏祭り再開にあつまる若者たち どのように大阪を未来へ伝えるだろう」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』471, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/9

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 27 回「むかしより何回この橋を渡ったことか 愛すべき心斎橋の再発見」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』470, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/8

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 26 回「大阪人の橋梁愛はハンドメイド 夢の浮橋、組み立てはたいへんですが・・・」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』469, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/7

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 25 回「展覧会での実験もおもしろく 文化芸術発信拠点・中之島を探る」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』468, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/6

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 24 回「大阪文化を濃縮した街と歴史 先生のお便りはいつも青インク」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』467, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/5

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 23 回「三人寄れば“サロン”誕生？京都の美術館で大阪文化の精髓を見る」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』466, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/4

4. 口頭発表

橋爪節也 (基調講演)「なにわの画家を知るための KEY ワード～シン・大阪画壇を語る～」, 大阪美術倶楽部, 2023/2

橋爪節也「アートアイランドの復活 ― “大大阪” の文化芸術発信センター中之島」, はびきの市民大学, 羽曳野市生活文化情報センター, 2022/12

橋爪節也「大阪の都市形成過程と大阪人気質(社会・文化の変遷を中心に)」常翔学園創立 100 周年記念 常翔歴史館特別企画展, 大阪工業大学梅田キャンパス, 2022/9

橋爪節也 第 1 回府民講座「1970 年の大阪万博をめぐる芸術文化(総論)」, 大阪府立中央図書館 指定管理者 長谷工・大阪共立・TRC グループ, 大阪府立中央図書館ライティホール, 2022/5

橋爪節也「描かれた大大阪 近代都市景観と画家たち」, 大阪中之島美術館, 2022/4

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

大阪市文化財保護審議会・委員, 2020 年～現在に至る

八尾市 今東光資料館・企画展示アドバイザー, 2014 年 4 月～現在に至る

大阪市中央公会堂・文化財保護アドバイザー, 2014 年 4 月～現在に至る

大阪市市民表彰審査会・臨時委員, 2012 年 4 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

芳泉文化財団地域文化活性化助成・審査委員, 2022 年～現在に至る

毎日放送ラジオ放送審議会・放送審議委員, 2021 年～現在に至る

枚方市美術施設運営委員協議会・委員, 2021 年～現在に至る

田辺市立美術館協議会・委員, 2017 年～現在に至る

財団法人・天門美術館評議委員会・評議委員, 2017 年 4 月～現在に至る

吹田市立博物館協議会・協議会委員, 2016 年月～現在に至る

NPO 大阪美術市民会議・理事, 2015 年月～現在に至る

大正イマジュリ学会・常任委員, 2012 年 3 月～現在に至る

藤岡 穰 教授

1962 年生。東京芸術大学大学院修士課程修了。芸術学修士。大阪市立美術館学芸員、大阪大学大学院文学研究科助教授、

同准教授を経て、2009 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。1991 年に第 3 回国華賞、2014 年に大阪大学総長顕彰受賞。専攻：東洋美術史

1. 論文

藤岡穰 「根津美術館所蔵「金銅鎚鍔五尊仏坐像」再考 附 根津美術館所蔵金銅仏の蛍光 X 線分析の結果と所見」『此君』第 14 号, pp.5-41, 査読無, 2023/3

藤岡穰 「龍角寺薬師如来坐像の蛍光 X 線分析の結果について」『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』第 24 号, pp. 81-85, 査読無, 2023/3

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

藤岡穰 「仏像の基礎研究—蛍光 X 線による金銅仏の成分分析から AI による仏顔の様式分析へ—」, 国際シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性—宗教遺産テキスト学の発展的展開—」, 名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター(オンライン), 2023/3/31

藤岡穰 「阿弥陀二十五菩薩像と葛井寺」, 市指定有形文化財指定記念講演会, 葛井寺紫雲閣, 2022/11/13

Fujioka, Yutaka. “The Transmission and Creation of Miraculous Efficacy in the Early Kamakura-Period Reconstruction of Buddhist Statues at Kōfuku-ji Temple”, Workshop-Absence, Presence, and Materiality:Refiguring Japanese Religious Art and Culture(online), 2022/7/9

藤岡穰 「隋～初唐の長安における仏教造像」, 令和 4 年度第 142 回懷徳堂春季講座「仏教が塗りかえる古代東アジア史像」, オンライン, 2022/6/25

藤岡穰 「大阪市立美術館 1995 年特別展「中国の石仏」を振り返って」, 第 2 回仏教芸術学会連続講座, オンライン, 2022/6/11

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(A) 一般、代表者:藤岡穰

課題番号: 18H03571

研究課題: 3 次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

藤井寺市文化財審議会・審議員, 2021 年 9 月～現在に至る

吹田市文化財保護審議会・委員, 2019 年 12 月～現在に至る

枚方市文化財保護審議会・委員, 2018 年 4 月～現在に至る

茨木市文化財審議会・委員, 2017 年 3 月～現在に至る

和歌山県文化財保護審議会・委員, 2012 年 4 月～現在に至る

八尾市文化財保護審議会・委員, 2009 年 9 月～現在に至る

奈良国立博物館買取等協議会・委員, 2022 年 9 月

11. 外部役員等の引き受け状況

美術史学会・西支部代表, 2021 年 6 月～2022 年 5 月

美術史学会・常任委員, 2022 年 6 月～現在に至る

仏教芸術学会・会長, 2019 年 1 月～現在に至る

摂津市史・執筆委員, 2015 年 4 月～現在に至る

神河町史編集委員会・委員, 2021 年 4 月～現在に至る

葛井寺文化遺産保存活用委員会・委員長, 2021 年 7 月～現在に至る

岡田 裕成 教授

1963 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学修士。大阪大学文学部助手、福井大学教育地域科学部准教授、大阪大学文学研究科准教授、同教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：西洋美術史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

岡田裕成, (編著者)『帝国スペイン 交通する美術』三元社, 324p., pp. 7-23, 234-266, 2022/6/20

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

岡田裕成「初期近代の植民地主義と「移住者たちの美術」」, 第 75 回美術史学会大会 シンポジウム「移住者たちの美術」, 美術史学会, 東京大学(ハイブリッド), 2022/5/21

岡田裕成「『泰西王侯騎馬図』から読み解く イメージのグローバルな交通」, 大和文華館, 大和文華館(対面), 2022/5/1

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(B) 一般、代表者:岡田裕成

課題番号:21H00488

研究題目:光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基盤的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

東京国立博物館所蔵蒔絵螺鈿聖龕羽根モザイク画《聖ステパノの殉教》デジタル復元プロジェクト（メキシコ国立自治大学フェロー：マリア・オルビード・モレノとの共同研究）

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

Mirai. Estudios Japeneses 誌(マドリッド・コンプルテンセ大学)・編集顧問, 2017 年 2 月～現在に至る

美術史学会・常任委員, 2016 年 6 月～現在に至る

民族芸術学会・理事、副会長, 2007 年 5 月～現在に至る

桑木野 幸司 教授

1975 年生。東京大学大学院工学系研究科修士課程修了（西洋建築史）。ピサ大学大学院博士課程修了。Dottore di Ricerca in Storia delle arti visive e dello spettacolo（文学博士（美術史）・ピサ大学）。Kunsthistorisches Institut in Florenz 研究生、2011 年 4 月より大阪大学文学研究科准教授を経て、2020 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：西洋美術・建築・庭園史

1. 論文

桑木野幸司 「庭園と果物」『セミナーと研究報告「庭園／植物／公園」』, pp.1-13, 査読無, 2023/3/31

桑木野幸司 「「自然という書物」の美麗なる挿絵:15-17 世紀の博物図譜の発展とヨーロッパの視覚文化」『自然という書物:15-19 世紀のナチュラール・ヒストリー&アート』, pp.6-15, 査読無, 2023/3/18

桑木野幸司 「未来考究 CROSS TALK:大阪大学が考える「生きがい」を育む社会」とは？」『OU RESEARCH GAZETTE』第 1 巻, pp.1-10, 査読無, 2023/3/15

桑木野幸司 「天翔ける苑:オルティ・ファルネジアーニの尚古・博物学的庭園」『web フランス』, 査読無, 2022/3/10
<https://webfrance.hakusuisha.co.jp/posts/7054>

桑木野幸司 「ヴィッラ・マダーマ幻想:文人、建築家、エクブラシス」『web フランス』, 査読無, 2023/1/10
<https://webfrance.hakusuisha.co.jp/posts/6832>

桑木野幸司 「宇宙誌としての建築——風の理想都市から星辰の花壇まで——」『ユリイカ』第 798 号, pp.175-184, 査読無, 2023/1/1

桑木野幸司 「彫刻の中庭:古代をヴァーチャルに体験する空間」『白水社の本棚』, pp.10-11, 査読無, 2022/10/10

桑木野幸司「ルネサンス庭園と古典主義」『建築と古典主義』第1巻, pp.79-82, 査読無, 2022/9/5

桑木野幸司「デジタル・ヒューマニティーズの二〇歩手前」『Arts and Media』第12巻, pp.159-160, 査読無, 2022/7/31

桑木野幸司「眺めのいい部屋:ヴァチカン・ベルヴェデーレの中庭」『白水社の本棚』, pp.10-11, 査読無, 2022/7/10

桑木野幸司「ルネサンス 情報革命の時代」『ちくま新書』, pp.1-352, 査読無, 2022/5/11

桑木野幸司「風と楽の音につつまれたヴィッラ」『白水社の本棚』, pp.10-11, 査読無, 2022/4/10

2. 著書 (単著・編著)

桑木野幸司『ルネサンス 情報革命の時代』筑摩書房, 352p., 2022/5

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

桑木野幸司「西洋建築史研究室・教育鼎談シリーズ 第五回」, 西洋建築史研究室・教育鼎談,加藤耕一研究室,東京大学大学院建築学専攻・工学部一号館(ハイブリッド), 2022/12/7

桑木野幸司「惑のイタリア・ルネサンス庭園ー水の庭園ヴィッラ・ランテを中心にー」, 講演会,イタリア研究会,オンライン(オンライン), 2022/12/3

桑木野幸司「記憶術と忘却術:強すぎる精神イメージとの果て無き戦い」, 文献学の世界:書物と社会の記憶,極東証券寄付講座 春学期・水2限,慶應義塾大学・大学文学部(オンライン), 2022/6/15

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020年度～2023年度、基盤研究(B) 一般、代表者:桑木野幸司

課題番号:20H01208

研究題目:初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想:美術と修辞学の創造的共同

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

民族芸術学会・理事, 2020年4月～現在に至る

地中海学会・事務局員, 2012年4月～現在に至る

門脇 むつみ 准教授

1970 年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了・博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD）、城西国際大学研究員・助教・准教授を経て、2019 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より同大学院人文科学研究科 現職。第 14 回国華奨励賞。専攻：日本美術史／中近世絵画史

1. 論文

門脇むつみ, 「《蝦蟇帖》(大阪大学総合学術博物館蔵)とその周辺—江戸時代中後期の蛙図ブーム—」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 号, pp.199-238, 査読無, 2023/3/31

門脇むつみ 「黒田長政公と縁の什物」『南游行』第 8 号, pp.61-79, 査読無, 2022/10

2. 著書 (単著・編著)

奥平俊六, 門脇むつみ, 森道彦(共著)『公益財団法人 渡辺美術館所蔵品調査報告書(第八回)』公益財団法人 渡辺美術館, pp.24 - 30, 2023/3

熊倉功夫, 仲隆裕, 門脇むつみ, 他(共著)『京都二条城と寛永文化』青幻舎, pp. 84-87, 2022/9/24

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

門脇むつみ 「狩野派「戯画図巻」と將軍家綱一観音の砲術と韋駄天の紙鳶—」, 基盤研究(B) 中近世日本の画題生成における明代出版文化の受容と展開に関する総合的研究 研究会, 基盤研究(B) 中近世日本の画題生成における明代出版文化の受容と展開に関する総合的研究, 角川本社ビル別館(対面), 2022/8/13

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:門脇むつみ

課題番号:20K00189

研究題目:伊藤若冲作品の画と賛—禅僧賛の読解・禅僧との交流を踏まえた作品と伝記の研究—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2022 年度～2023 年度、研究助成名称:三菱財団人文科学研究助成、助成金獲得者:門脇むつみ

研究題目:徳川將軍家の画事と狩野派周辺の描き手

助成団体名:三菱財団

助成金額:(直接経費など)100 万円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

文化庁「地域活性化のための特色ある文化財(美術・工芸品)調査・活用事業国庫補助金」による「大雲院資料総合調査」,2017 年～現在に至る

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

豊中市文化財審議会・委員, 2021 年 4 月～現在に至る

倉吉市文化財審議委員会・文化財審議委員, 2015 年 4 月～現在に至る

丹波市文化財保護審議会・委員, 2022 年 7 月～現在に至る

兵庫県文化財保護審議会・委員, 2022 年 7 月～現在に至る

松原市文化財保護審議会・委員, 2022 年 12 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

美術史学会・常任委員, 2020 年 5 月～現在に至る

八幡市立松花堂庭園・美術館・学芸顧問, 2017 年 4 月～現在に至る

河内 華子 助教

1981 年生。大阪大学文学部(美術史学)卒、同大学院文学研究科博士前期課程(美術史学)修了。同研究科博士後期課程単位取得退学。2009 年より、ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)文学研究科博士後期課程在学中。文学修士。大阪大学大学院文学研究科助教(2013 年度～2015 年度)を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻: 西洋美術史。

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

河内華子「ヘルドルプ・ホルツィウス(1553-c.1618)のケルンにおける活動―修業地アントウェルペンとの結びつきに着目して」,
オランダ美術研究会 第 4 回研究発表会, オランダ美術研究会(オンライン), 2023/1/28

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

科学基礎論学会・評議員, 2020 年 4 月～現在に至る